KENWOOD

コンパクト　コンポ　ステレオ　ロキシー

ROXY M7

取扱説明書

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することができません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

COMPACT disc DIGITAL AUDIO

B60-1269-00 (JA) A
94/12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 93/12 11 10 9

はじめに

取扱上のご注意

設置上のご注意

- 直射日光の当たる所、暖房器具など発熱物の近くは避けてください。
- 花びん、化粧品など液体の入ったものは、上に置かないでください。また、湿気の多いところは避けてください。
- 極端に寒い(水が凍るような)場所では十分な性能が発揮できないことがあります。
- 放熱をよくするため、本など、ものをセットの上に置かないでください。また、壁から10cmくらい離して置いてください。
- 雑音が入る場合は、テレビからできるだけ離してご使用ください。
- 不安定な棚などは避け、ホコリ、震動の少ない水平な場所に設置してください。また、放熱孔をふさぐジュータン、ソファー、ベッド等の上では使用しないでください。

安全上のご注意

- 本機は、交流100V専用です。200Vでは絶対に使用しないでください。
- 電源コードを強くひっぱったり、無理に折り曲げたり、継ぎ足したりすることは、通電しなくなったり、ショートのおそれがありますのでやめましょう。抜くときは、プラグを持ってください。
- 電源プラグの抜き差しは、ぬれた手で行なわないでください。感電する恐れがあります。
- ケースなどをはずし、内部に触ることは避けてください。内部に手を触れると感電、故障の原因となることがあります。
- ケースの空気孔等にヘアピン、縫い針などの金属物が入ると故障や感電の原因になります。とくにお子様へのご注意をお願いします。

セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、やわらかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

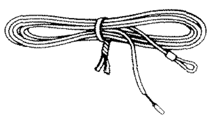
異常にお気づきのさいは

万一、煙が出ている、また変なにおいがするなどの異常がおきたときは、電源スイッチをすばやくOFFにして電源コードを抜いてください。そのうえで速やかに購入店または最寄りのケンウッドサービスセンター、営業所へご連絡ください。

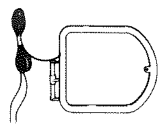
付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

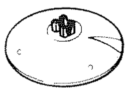
FM簡易アンテナ(1本)



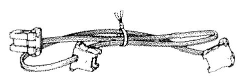
AMループアンテナ(1個)



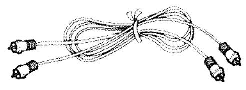
ループアンテナスタンド(1個)



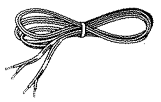
システムコントロールコード(1個)



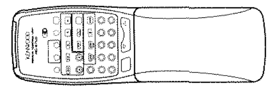
オーディオコード(7本)



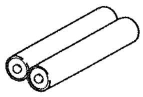
スピーカーコード(赤黒2本)



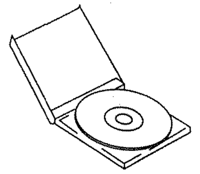
リモートコントロールユニット(1個)



リモコン用単4乾電池(2個)



バーチャル・リアリティー・サウンドCD(1枚)



本機の特長

CASSETTE 使って便利なDPSS

カセットテープなのに、CDのようにいろいろな再生を楽しめます

- 曲を飛び越して聞く
- 同じ曲を何回も聞く
- テープを巻き戻して初めから聞く
- 曲と曲の間を早送りして聞く

VIRTUAL REALITY SOUND バーチャル・リアリティー・サウンド・システム

メインスピーカーとオムニスピーカー(別売)から別々の音を出す機能です。付属のバーチャル・リアリティー・サウンドCDをオムニから再生して、音楽をメインから再生すれば、全く新しい音の世界が開けます。もちろん、音の組み合わせは自由です。

CD REC カンタンCD編集録音

目的別に使える、いろいろな種類のCD編集録音を用意

マルチディスク編集録音	:複数のCDから録音
AI編集録音	:指定時間をこえるCDの全曲を録音
X.FADE(クロスフェード)編集録音	:曲の初めと終りを重ね合わせて録音
タイム編集録音	:指定時間内に曲が途切れないように録音
イレース編集録音	:録音中に途切れた曲をカット
フェード編集録音	:録音中に途切れた曲をフェードアウト

GRAPHIC EQUALIZER いろいろ楽しめる音質調整

グライコ機能も充実。AIにまかせて自動設定、またはお好みのカーブを選んだり作ったりできます。CD1枚ごとの設定を、60枚ぶんまで記憶する、AI FILE機能も搭載しました。

PRESENCE 臨場感のある音を聴く

DOLBY SURROUND 再生は当然。その他に当社独自の音場を用意してあります。自分のお好みの音場でお楽しみください。

TIMER 便利なタイマー機能

6つの内容を登録できるほか、次の便利な働きがあります。

AI TIMER 1	:タイマーONの後3段階で音が大きくなる
AI TIMER 2	:タイマーONでCDを2曲再生後放送を受信
スリープタイマー	:おやすみのときに便利
ワンタッチタイマー	:細かい時間調整をしないで区切りのいい時間にラジオをON

目次

接続のしかた …… 4
各部のなまえと働き …… 9
リモコンの使いかた …… 14
時刻合わせ …… 17
音の調節のしかた …… 18
CDを聴く …… 20
- 1曲目から順に聴く …… 20
- 聴きたい曲を選ぶ …… 21
- 曲順を自由にプログラムする …… 22
- 繰り返し聴く …… 24

テープを聴く …… 26
- テープの再生 …… 26
- リレー再生のしかた …… 27
- 飛び越し選曲 …… 28
- ダッシュ&プレイ,1曲リピート再生,巻き戻し再生 …… 29

放送を聴く …… 30
- 放送を受信する …… 30
- 周波数を指定して受信する …… 31
- 放送局を記憶させる(プリセット) …… 32
- 放送局名を登録する(変更する) …… 33

バーチャル・リアリティー・サウンド・システム …… 34
- バーチャル・リアリティー・サウンドを体験する …… 35

録音のしかた …… 36
- 録音の準備をしましょう …… 36
- 録音のしかた …… 37
- テープをコピーする(ダビング) …… 39

CDの編集録音 …… 40
- 録音のタイプを選ぶ …… 40
- マルチディスク編集録音 …… 42
- AI編集録音 …… 44
- クロスフェード編集録音 …… 45
- タイム編集録音 …… 46
- イレース編集録音 …… 47
- フェード編集録音 …… 48
- CDを録音しながら他のものを聴く …… 50

カンタン音質調整 …… 51
- デモンストレーションをしてみましょう …… 52
- 最適な音質でCDを聴く(AI AUTO) …… 54
- 臨場感を生かしてCDを聴く(AI FOCUS) …… 54
- 最適なイコライザーカーブを記憶させる(AI FILE) …… 55
- 記憶させたイコライザーカーブを呼び出す(AI FILE) …… 55
- お好みの音質で曲を聴く …… 56
- お好みの音質を作る …… 57
- カーステレオ、ヘッドホンステレオ用のテープを作る …… 58

ビデオ機器を使用する …… 59
- ビデオを再生する・ビデオ録画をする …… 59

臨場感を楽しむ …… 60
- ドルビープロ・ロジックサラウンドの調整 …… 61
- ドルビープロ・ロジックサラウンドの再生 …… 62
- ドルビー3ステレオの調整・再生 …… 63
- 臨場感のある音楽を楽しむ(DSPプレゼンスモード) …… 64
- 臨場感、プラス、バーチャル・リアリティー・サウンドを体験する …… 66
- 臨場感のある音楽を録音する …… 67

便利な使いかた …… 68
- 簡単にカラオケを楽しむ …… 68
- BGM再生のしかた …… 70

タイマーを使う …… 71
- タイマー予約をする …… 72
- AIタイマーの使いかた …… 75
- ワンタッチタイマー予約,おやすみタイマー予約 …… 76

メンテナンス …… 77
故障と思われる症状ですが …… 79
アフターサービスについて …… 82
定格 …… 83

接続のしかた

接続が完了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

- セットの積み重ねは、接続図通りに行ってください。
- 関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書も、合わせてご覧ください。
- セットの前面は揃えてください。

オーディオコードの接続

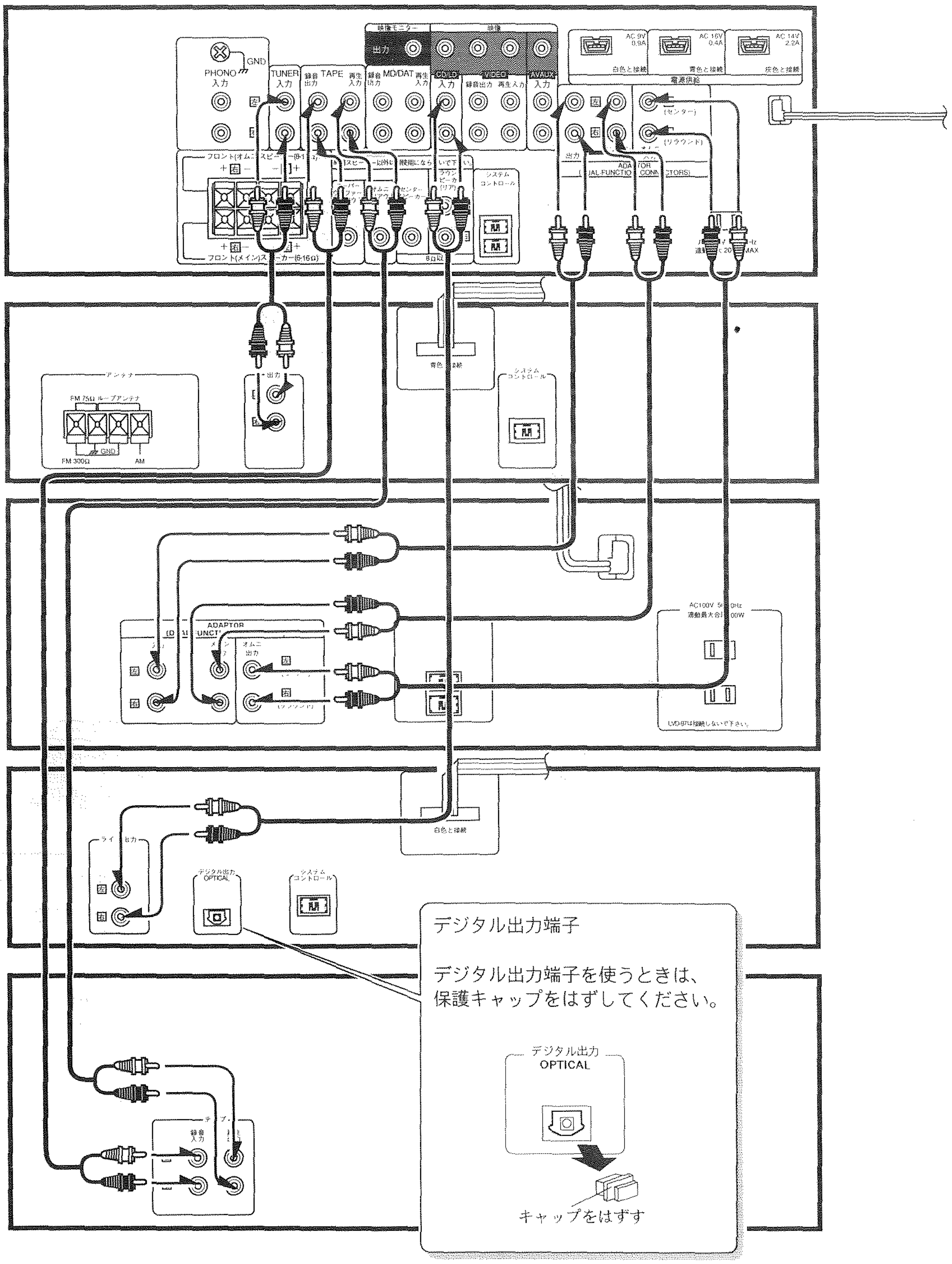
アンプ
A-97

チューナー
T-97

グラフィック
イコライザー
GE-970

CDプレーヤー
DP-97

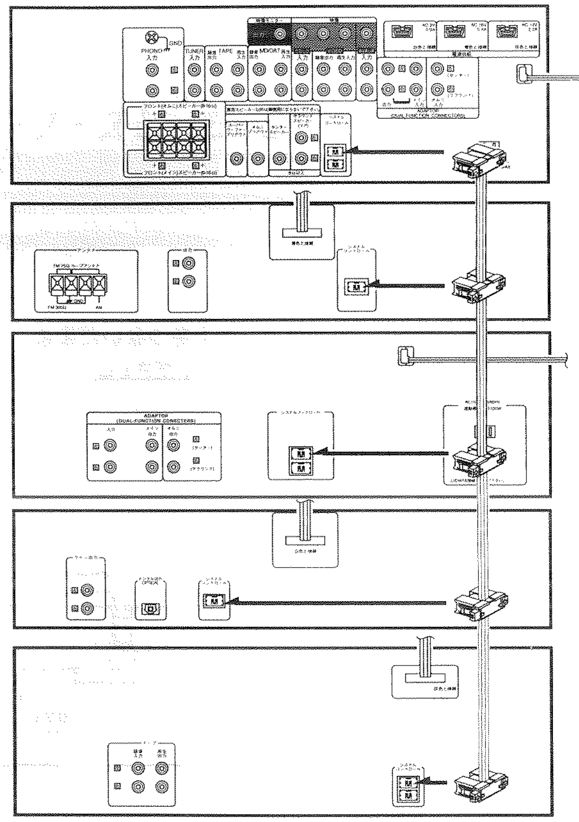
カセットデッキ
X-87



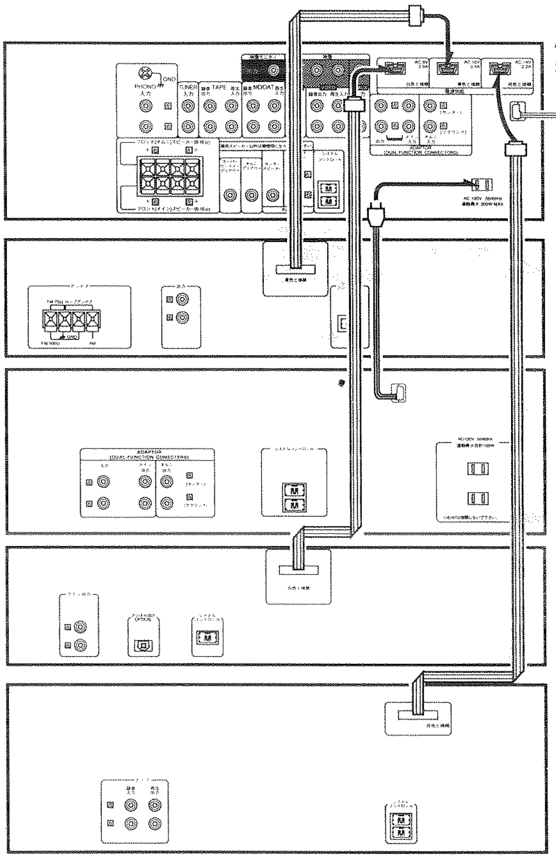
ご注意

1. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
2. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。電源コードを抜かずに接続コードの抜き差しを行うと、誤動作または破損の原因となります。
3. 背面の電源コンセントには、表示されている定格以上の機器を接続しないでください。

システムコントロールコードの接続



電源コードの接続



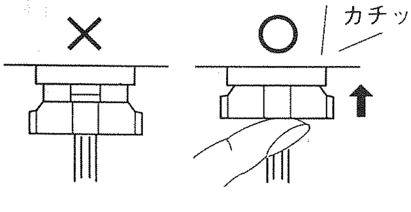
● 電源供給コードは、ソケットの色を合わせて接続します。

光ファイバーケーブルの接続について

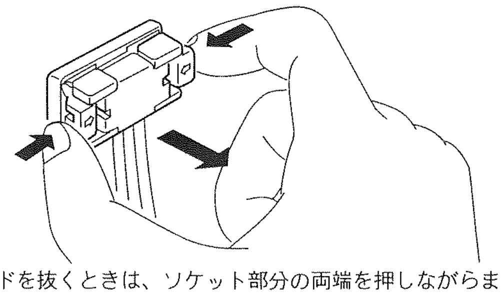
デジタル入力(光ファイバー)端子のあるアンプに接続すると、よりピュアな音質を楽しめます。

● 光ファイバーは、まっすぐに、カチッと音がするまでさしこんでください。
● 端子を使わないときは、必ず保護キャップを付けておいてください。
● 光ファイバーケーブルは、絶対に折り曲げたり、束ねたりしないでください。
● 市販の光ファイバーケーブルが、すべて使えるとは限りません。接続できないときは、購入店または、もよりの営業所にご相談ください。

平行コードの接続



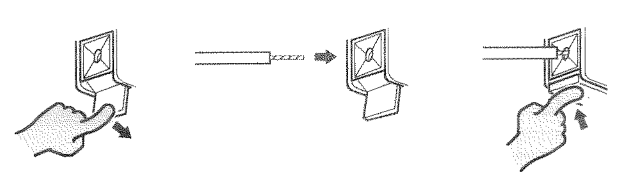
● 平行コードは、カチッと音がするまで平行に差し込み、確実にロックしてください。

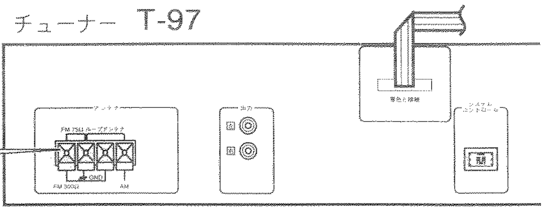


● コードを抜くときは、ソケット部分の両端を押しながらまっすぐに引き抜きます。

接続のしかた

①レバーを押す　②コードを差し込む　③レバーを戻す





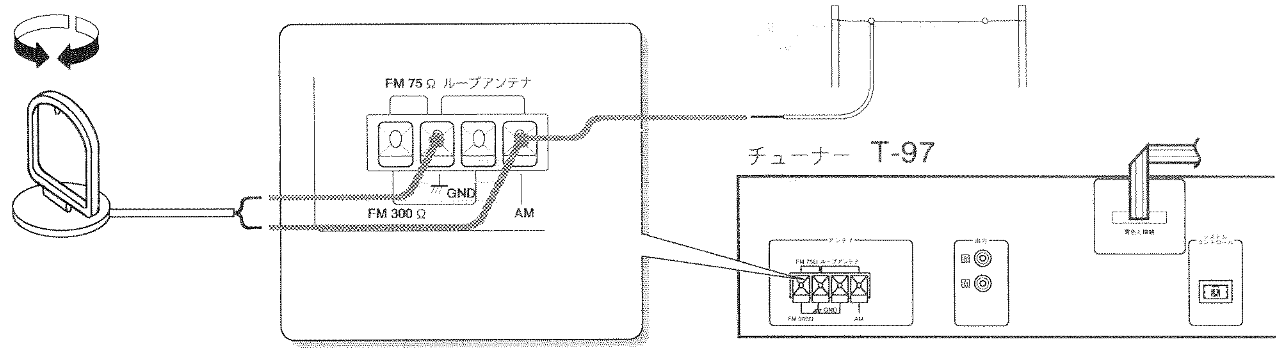
AMアンテナの接続

AMループアンテナの接続

付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで、受信状態の一番よい方向に向けます。

AM屋外アンテナの接続

受信状態が悪い場合は、ループアンテナをつないだまま6m以上のビニール被覆線を屋外に張ってください。



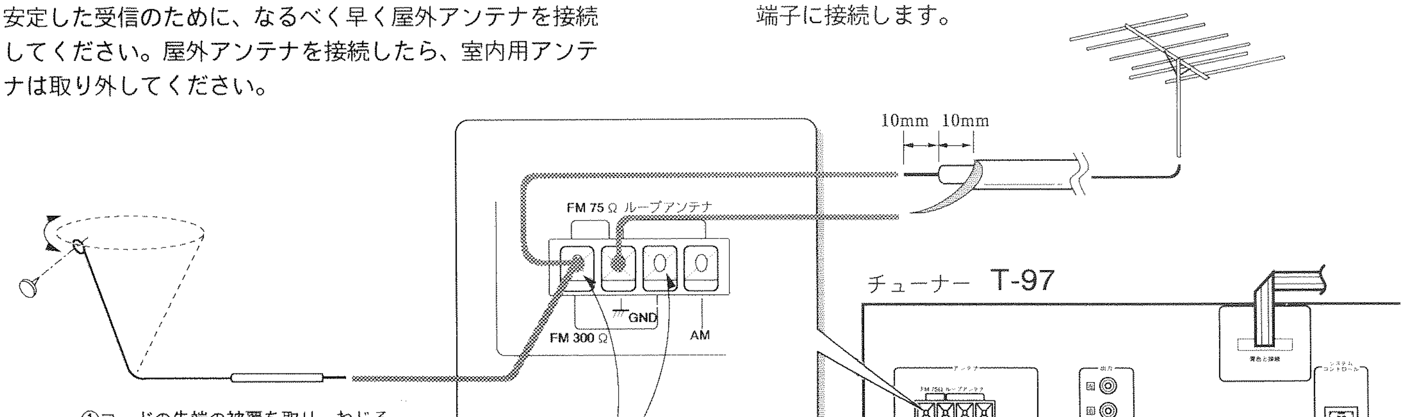
FMアンテナの接続

FM簡易アンテナの接続

付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のために、なるべく早く屋外アンテナを接続してください。屋外アンテナを接続したら、室内用アンテナは取り外してください。

FM屋外アンテナの接続

75 Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引き込み、FM75 Ω端子に接続します。



①コードの先端の被覆を取り、ねじる。

②受信状態の良い位置を探す。

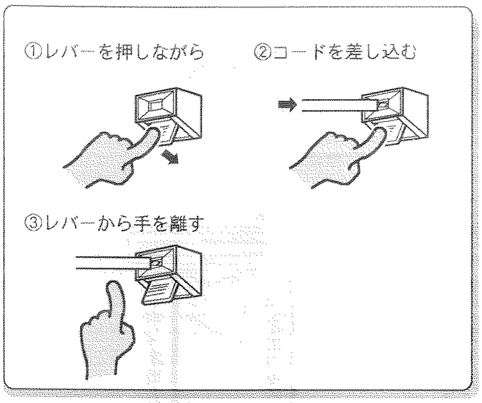
③固定する。

市販のFM屋内用T型アンテナ(300 Ω)を使用するときは、この端子に接続します。(付属のFM簡易アンテナは、取りはずしてください。)

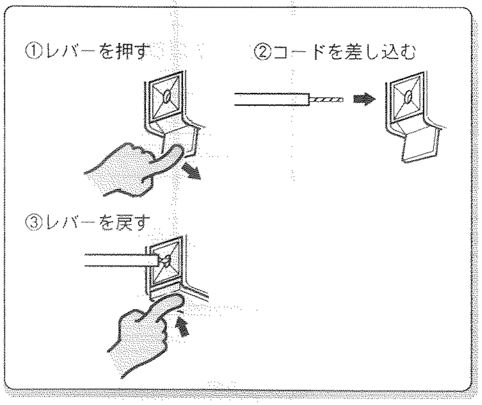
スピーカーの接続

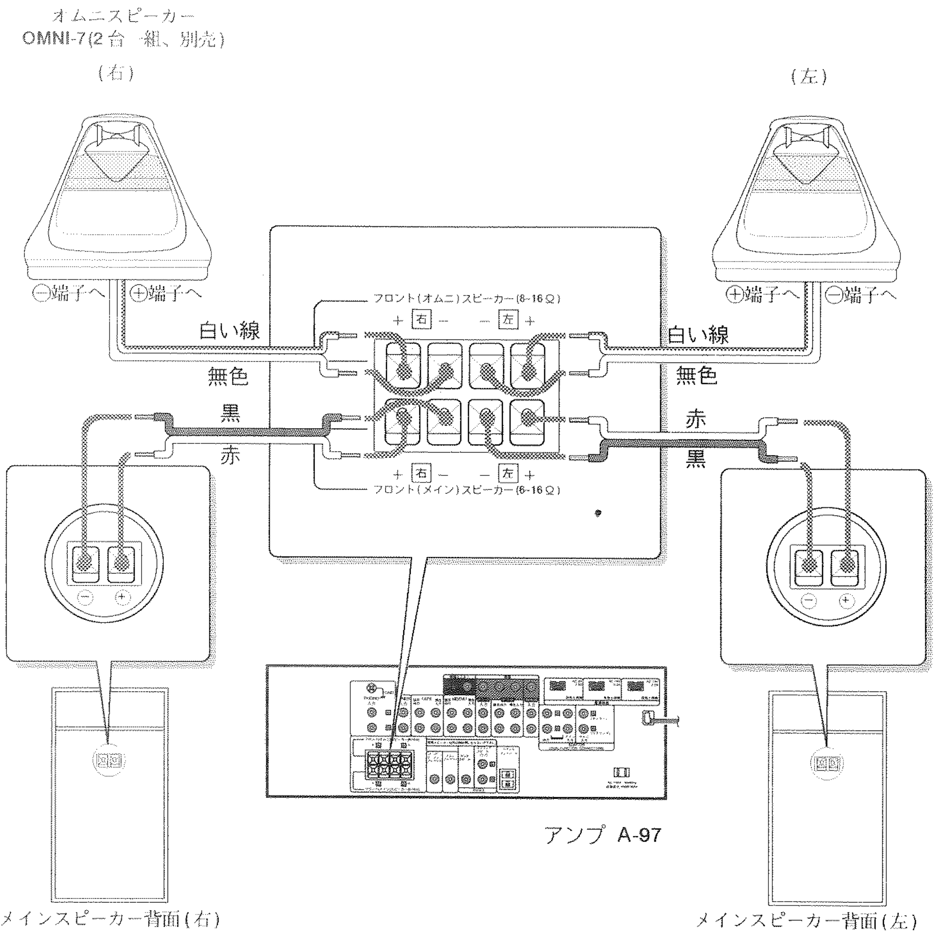
メインスピーカー
オムニスピーカー（別売）の接続

メインスピーカー部



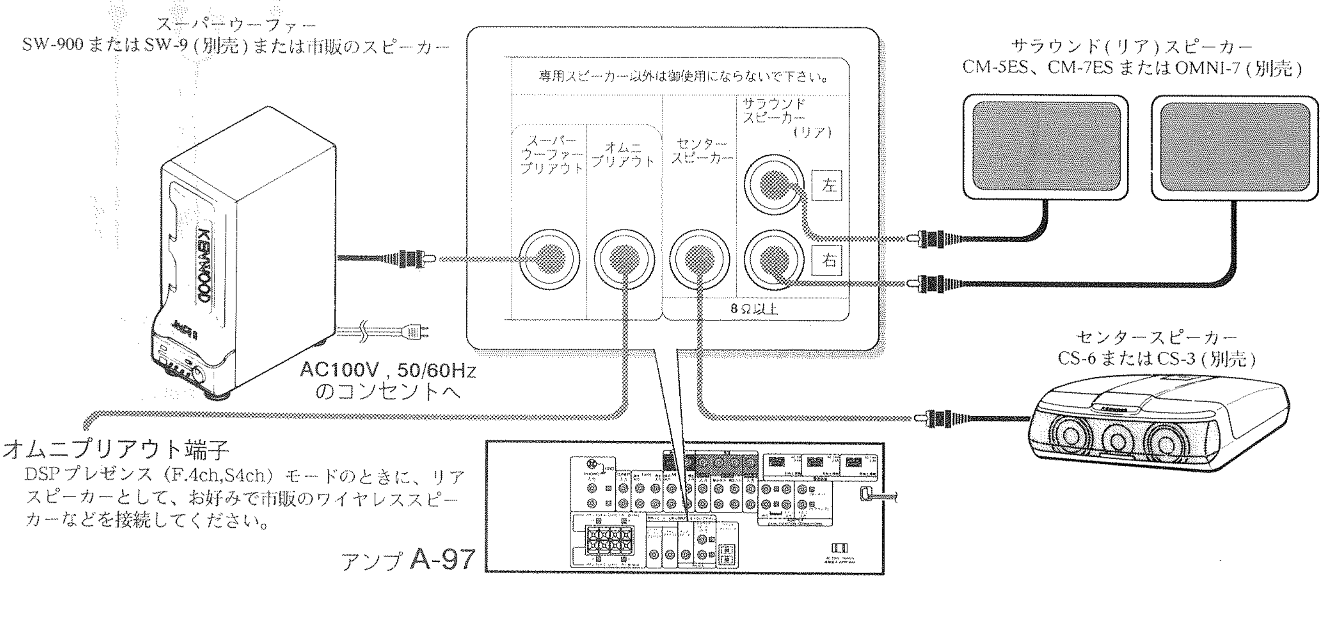
アンプ部





- 別売のオムニトップスピーカー（OMNI-7）を接続するときは、付属の取扱説明書をよくお読みください。
- スピーカーコードの＋と－は絶対にショートさせないでください。
- 左右を逆にしたり、極性をまちがえて接続しますと、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音になります。正しく接続してください。

オプションスピーカー（別売）の接続

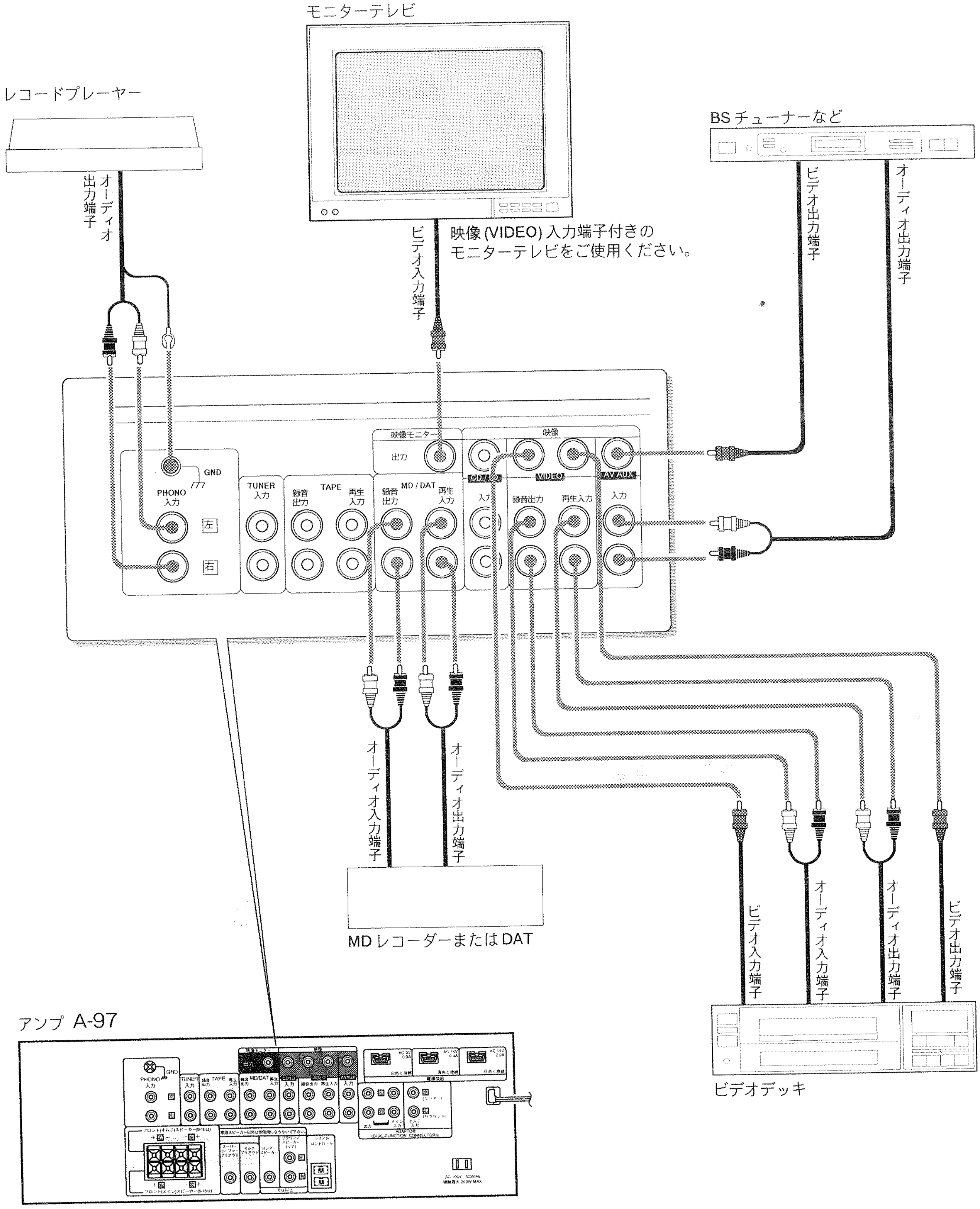


オムニプリアウト端子

DSPプレゼンス（F.4ch,S4ch）モードのときに、リアスピーカーとして、お好みで市販のワイヤレススピーカーなどを接続してください。

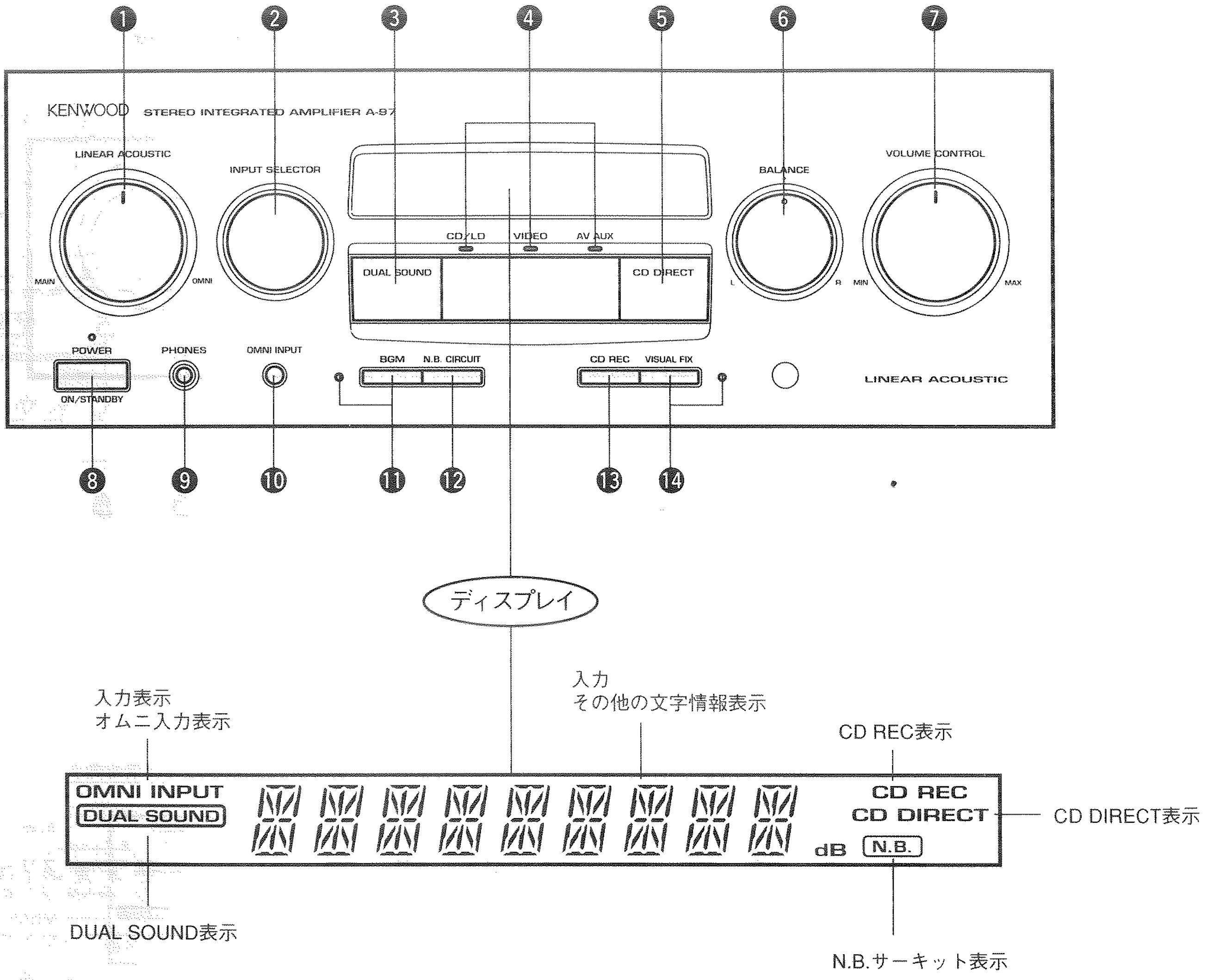
AV機器（別売）との接続

- 接続コードは、本システムには付属していません。
- BSチューナーのかわりに次のような映像機器が接続できます。
  - ・LDプレーヤー
  - ・ビデオカメラ（再生のみ）
  - ・ビデオデッキ（再生のみ）
- MD（ミニディスク）レコーダーのかわりに、DATなどが接続できます。

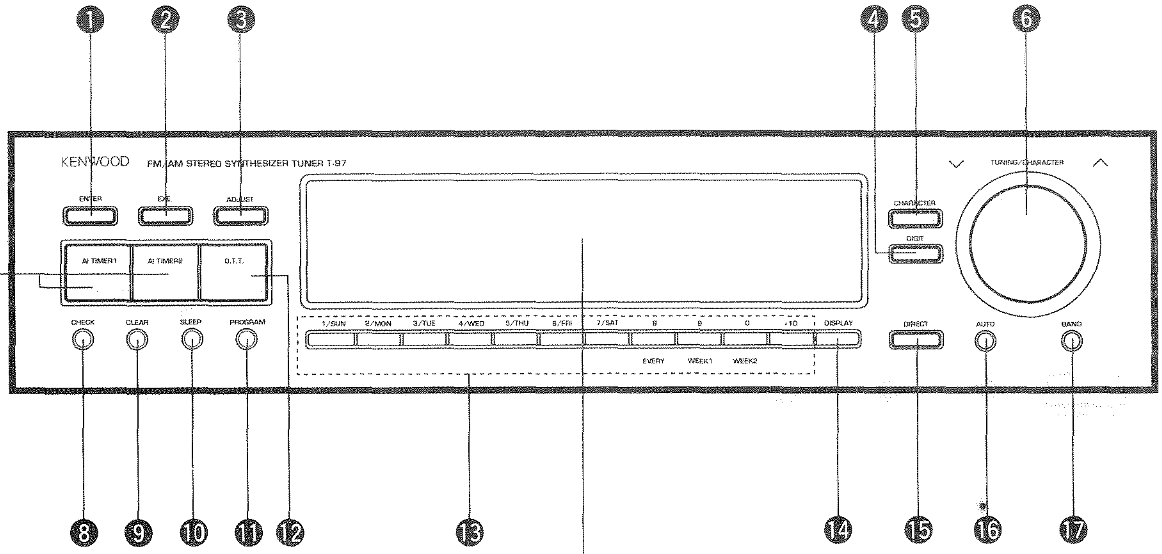


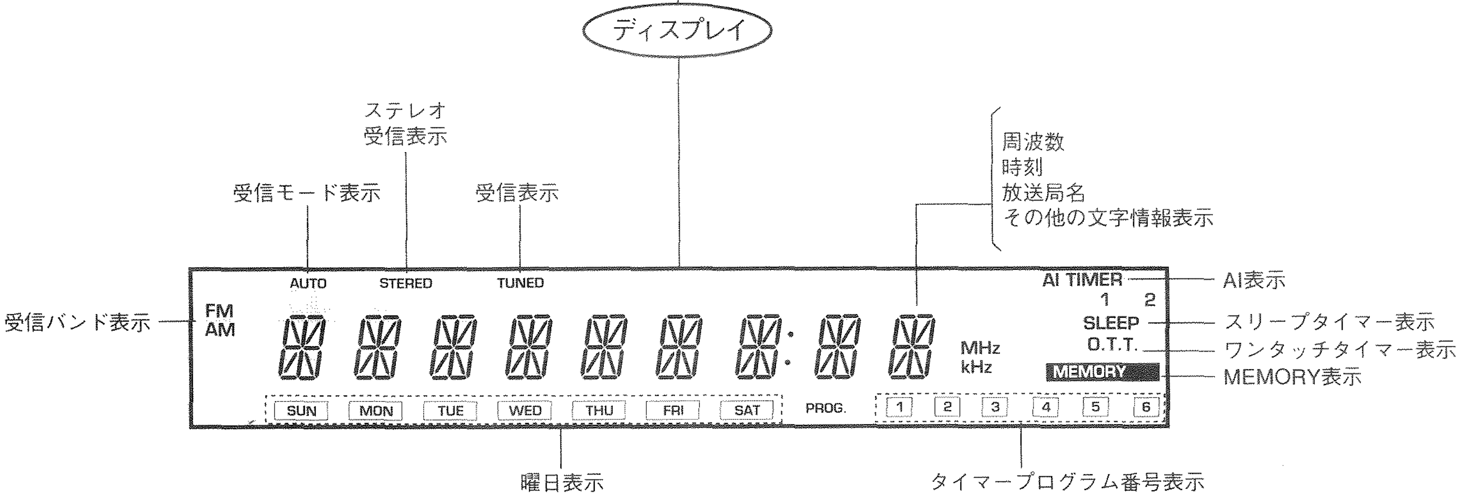
各部のなまえと働き

アンプ部



1. LINEAR ACOUSTICつまみ → P.18
メインスピーカーとオムニスピーカー（別売）の音量のバランスを調節します。
2. INPUT SELECTORつまみ
再生する機器を選びます。
3. DUAL SOUNDキー → P.34
バーチャルリアリティーサウンドや、DSPモードのときに使います。
4. 映像入力インジケーター → P.59
映像系の入力を表示します。
5. CD DIRECTキー → P.19
高音質でCDを聴くときに使います。
6. BALANCEつまみ → P.19
左右のスピーカーの音量を調節します。
7. VOLUME CONTROLつまみ
8. POWERキー
9. PHONES端子 → P.18
ヘッドホンで聴くときに使います。
10. OMNI INPUTキー → P.34
バーチャルリアリティーサウンドのときに、オムニスピーカー（別売）から再生する機器を選びます。
11. BGMキー、インジケーター → P.70
12. N.B. CIRCUITキー → P.18
低音を強調します。
13. CD RECキー → P.50
CDを録音しながら他のソースを聴くことができます。
14. VISUAL FIXキー、インジケーター → P.59





❶ ENTERキー → P.17
時刻合わせ、タイマーの設定、あるいは放送局を登録するときなどに使います。

❷ EXE. キー → P.72
タイマーを実行させるときに使用します。

❸ ADJUSTキー → P.17
時刻合わせのときに使います。

❹ DIGITキー → P.33
放送局名を登録するときに使います。

❺ CHARACTERキー → P.33
放送局名を登録するときに使います。

❻ TUNING/CHARACTERつまみ → P.30
受信する放送局を選ぶときや、放送局名を登録するときに使います。

❼ AI TIMER 1,2キー → P.75
AIタイマーをするときに使います。

❽ CHECKキー → P.17
カレンダーチェックをするときに使います。

❾ CLEARキー → P.74
プログラムタイマーをキャンセルするときに使います。

❿ SLEEPキー → P.76
スリープタイマーをするときに使います。

⓫ PROGRAMキー → P.72
プログラムタイマーをセットするときに使います。

⓬ O.T.T.(ワンタッチタイマー)キー → P.76
ワンタッチタイマー再生をするときに使います。

⓭ 数字キー、曜日キー → P.31
受信する放送局を選ぶときや、プログラムタイマーをセットするときに使います。

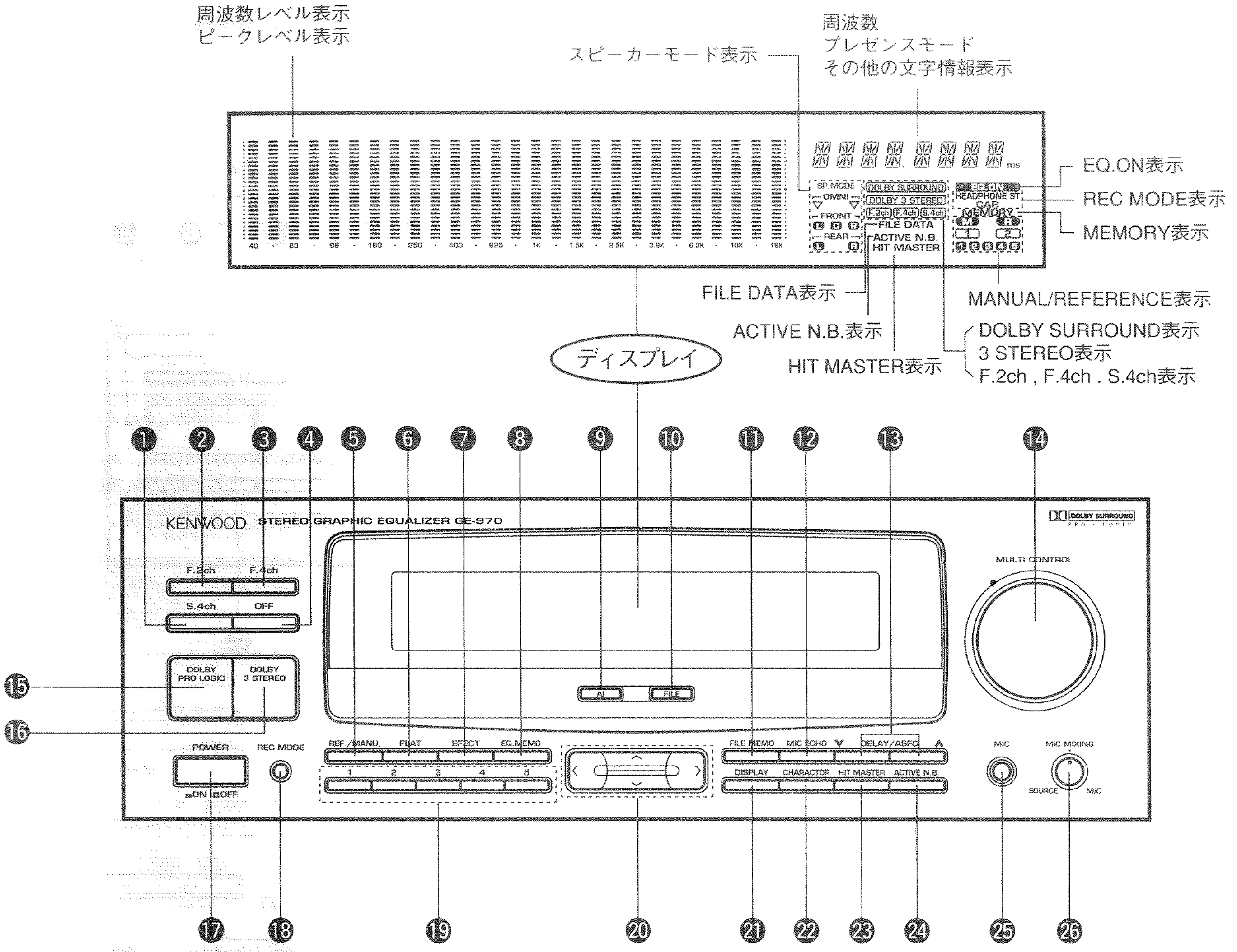
⓮ DISPLAYキー → P.30
表示内容を切り換えます。

⓯ DIRECTキー → P.31
放送局を数字入力で受信するときに使います。

⓰ AUTOキー → P.30
自動受信モードを選ぶときや音声を切り換えるときに押します。

⓱ BANDキー → P.30
受信するバンド(FM/AM)を選びます。

グラフィックイコライザー部



❶ S.4ch キー → P.64

❷ F.2ch キー → P.64

❸ F.4ch キー → P.64

❹ OFFキー → P.65
サラウンドやDSPモードを解除します。

❺ REF./MANU.キー → P.56
プリセットキーと組み合わせて、15通りのイコライザーパターンを手軽に呼び出すことができます。

❻ FLATキー → P.57
イコライザーカーブをフラット（平坦）にします。

❼ EFFECTキー → P.56
イコライザー効果のON／OFFをします。

❽ EQ.MEMOキー → P.57
イコライザーパターンを記憶します。

❾ AI キー → P.54
ディスクに合ったイコライザーカーブを自動的に設定します。

❿ FILEキー → P.55
CDを再生するときにFILE MEMOキーで記憶した設定を呼び出したいときに使います。

⓫ FILE MEMOキー → P.55
CD1枚ごとの、最適なイコライザーカーブなどの設定を記憶するときに使います。

⓬ MIC ECHOキー → P.69
DSPプレゼンスモードが"KARAOKE"のときに、マイクにエコーをかけることができます。

⓭ DELAY/ASFC キー → P.61
遅延時間、および音の広がりを調節するときに使います。

⓮ MULTI CONTROLつまみ → P.61
DSPモードの音場切換や、ドルビーサラウンドのセンターモードの設定などに使います。

⓯ DOLBY PRO LOGICキー → P.60

⓰ DOLBY 3 STEREOキー → P.60

⓱ POWERキー
通常ONにしておきます。アンプのPOWERキーで電源のON／OFFをします。

⓲ REC MODEキー → P.58
カーステレオ、ヘッドホンステレオ用のテープを作るときに使います。

⓳ プリセットキー → P.56
イコライザーカーブを呼び出したり、登録するときに使います。

⓴ イコライザー調整キー → P.57
周波数を選び、レベルを調節します。

㉑ DISPLAYキー → P.52
押すごとにグラフィックイコライザー表示、スペクトラムアナライザー表示、デモンストレーション表示に切り換わります。

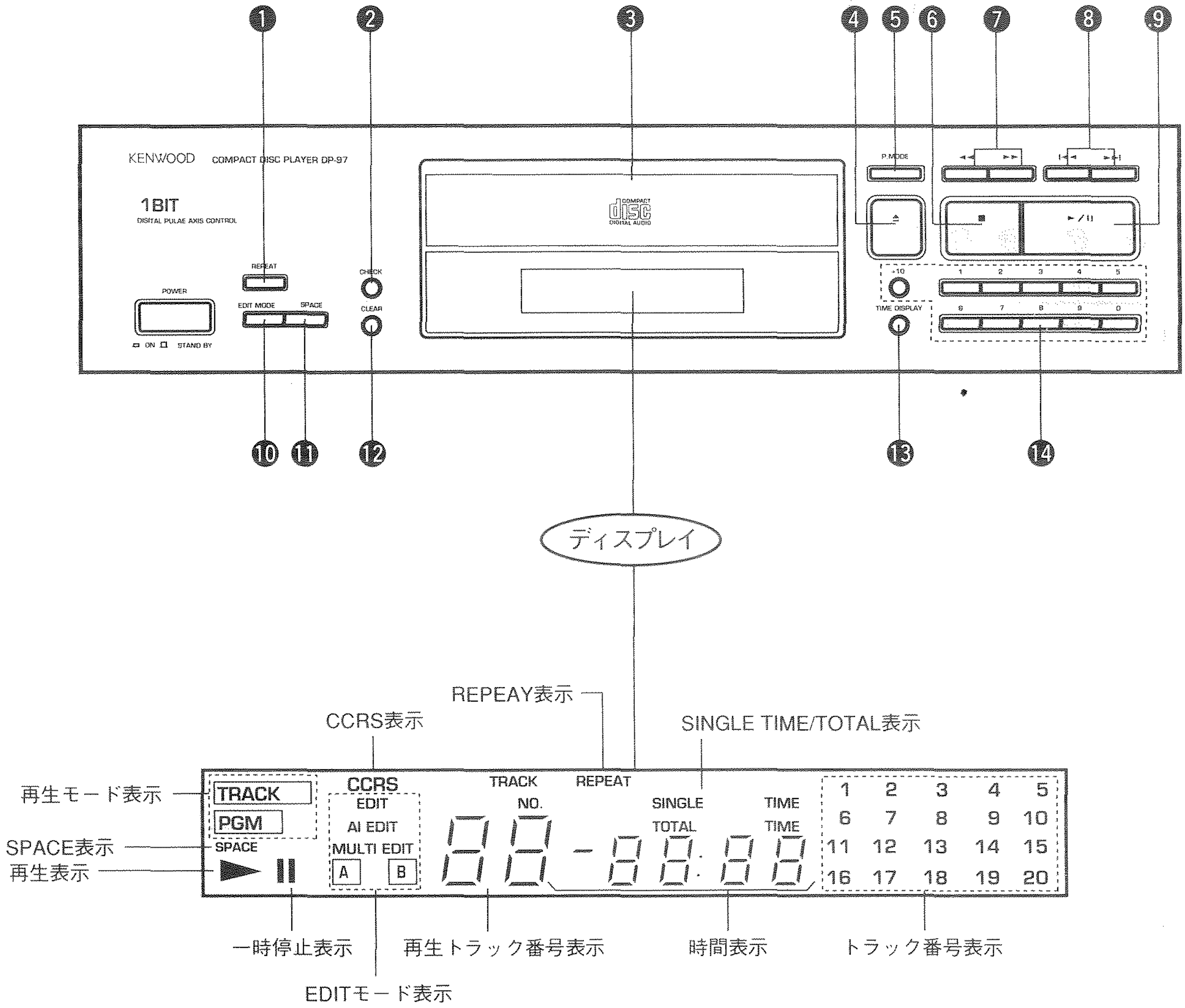
㉒ CHARACTERキー → P.53
押すごとにスペクトラムアナライザーの表示モードが切り換わります。

㉓ HIT MASTERキー → P.68
カラオケをするときに使います。

㉔ ACTIVE N.B. キー → P.19

㉕ MIC端子 → P.68

㉕ MIC MIXINGつまみ → P.68



❶ REPEATキー → P.24
繰り返し再生をするときに使います。

❷ CHECKキー → P.23
プログラム内容の確認をするときに使います。

❸ ディスクトレイ

❹ トレイ開閉キー → P.20

❺ P.MODEキー → P.22
TRACKモードとPGMモードを切換えます。

❻ 停止キー → P.20

❼ サーチキー → P.21
早送り、早戻しをします。

❽ スキップキー → P.21
曲の頭出しをします。

❾ 再生/一時停止キー → P.20

❿ EDIT MODEキー → P.40
編集録音のモードを選びます。

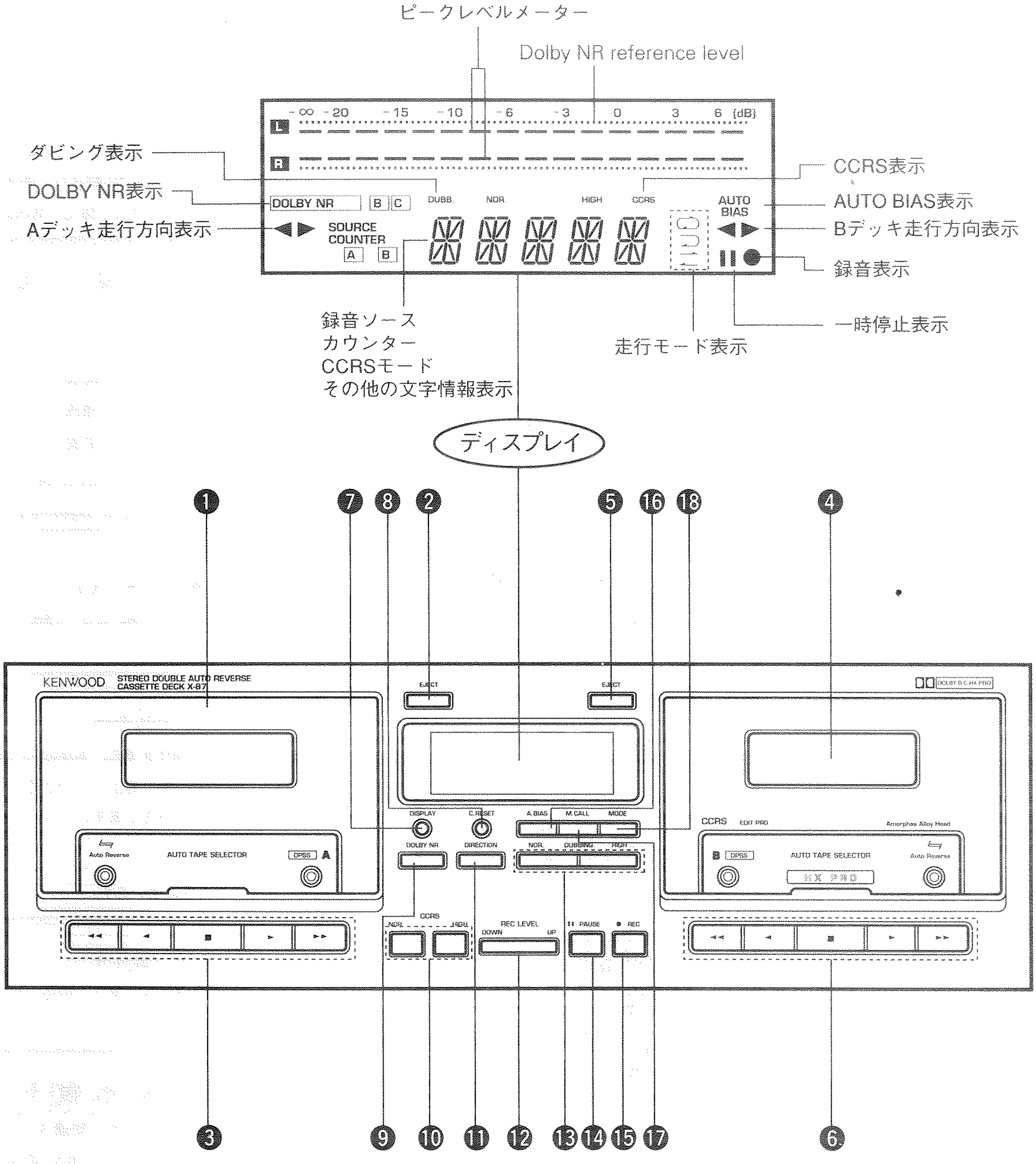
⓫ SPACEキー → P.23
PGMモードのときに押すと曲と曲の間に約4秒間の音のない部分を自動的に作ります。

⓬ CLEARキー → P.23

⓭ TIME DISPLAYキー → P.24
時間表示切換をするときに使います。

⓮ 数字キー (0~9、+10)

カセットデッキ部



❶ Aデッキカセットホルダー → P.26

❷ Aデッキ用イジェクトキー → P.26

❸ Aデッキ操作部 → P.26
◀、▶再生キー
■ 停止キー
▶▶早送りキー
◀◀巻き戻しキー

❹ Bデッキカセットホルダー → P.26

❺ Bデッキ用イジェクトキー → P.26

❻ Bデッキ操作部 → P.26
◀、▶再生キー
■ 停止キー
▶▶早送りキー
◀◀巻き戻しキー

❼ DISPLAY（ディスプレイ）キー → P.38
表示の内容を切り換えます。

❽ C.RESET（カウンターリセット）キー → P.38
テープカウンターの数字を0にするときに使います。

❾ DOLBY（ドルビー）NR切換キー → P.27

❿ CCRSキー（HIGH,NOR.） → P.40
CDの最適録音レベルとテープの最適録音バイアスを自動的に設定し、録音をスタートします。

⓫ DIRECTION切換キー → P.27

⓬ REC LEVELキー → P.37
録音レベルを調整するときに使います。

⓭ DUBB.キー（HIGH,NOR.） → P.39
テープをダビングするときに使います。

⓮ 一時停止キー → P.37

⓯ 録音キー → P.37

⓰ AUTO BIASキー → P.37
テープの録音バイアスを自動的に設定します。

⓱ M.CALLキー → P.37
一度設定したオートバイアスの値を呼び出します。

⓲ MODE切換キー → P.42

リモコン部

入力切換えキー

MAIN INPUTキー：再生する機器を選びます。

OMNI INPUTキー：バーチャルリアリティーサウンドやDSPプレゼンスモードのときに、オムニスピーカー（別売）から再生する機器を選びます。

DUAL SOUNDキー

SLEEPタイマーキー

カセットデッキ操作キー

デッキAを操作するときは、A／B切換えスイッチをA側にします。（●、❚❚キーは働きません）

デッキBを操作するときは、A／B切換えスイッチをB側にします。

数字キー

入力切換えがCDのときは、CDプレーヤーの数字キーとして働きます。

入力切換えがTUNERのときは、チューナーの数字キーとして働きます。

アンプ操作キー

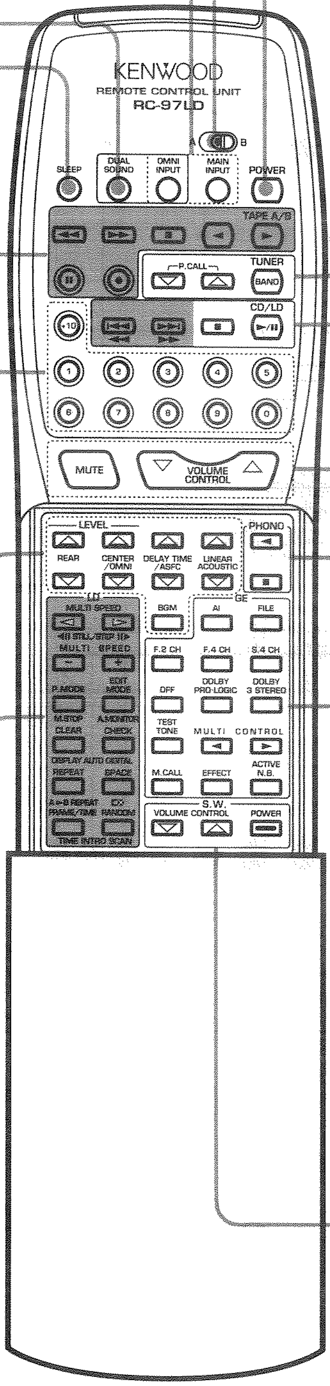
LINEAR ACOUSTICキー、BGMキー

サラウンド関連キー

REAR LEVELキー、CENTER／OMNI LEVELキー、DELAY TIME／ASFCキー

LDプレーヤー操作キー

本システムでは使用できません。ケンウッドのLDプレーヤーを操作するときに使用します。



A/B切換えスイッチ

▒▒ の部分のキーは、2通りの使いかたができます。用途に応じて機能を切換えてください。

- 白と茶色の文字で名前が印刷されているキーは、Aのとき茶色、Bのときは白で印刷された働きをします。
- それ以外のキーは、A／B切り換えに関係ありません。

POWERキー

チューナー操作キー

BANDキー、P.CALLキー

CDプレーヤー 操作キー

⏮ ⏭キー、■キー、▶／❚❚キー

A／B切換えスイッチがA側のとき：◀◀ ▶▶キー

VOLUME CONTROLキー

音量を調節します。操作すると、本体のVOLUME CONTROLつまみが回転します。このとき、つまみのインジケーターが早い点滅をします。

MUTEキー

一時的に音を消すときに使います。

レコードプレーヤー操作キー

ケンウッドのレコードプレーヤー（別売：P-78，P-66）を操作することができます。

グラフィックイコライザー操作キー

グラフィックイコライザー関連キー

AIキー、FILEキー、M.CALLキー、EFFECTキー、ACTIVE N.B.キー

サラウンド、プレゼンス関連キー

F.2chキー、F.4CHキー、S.4CHキー、OFFキー、DOLBY PRO・LOGICキー、TEST TONEキー、DOLBY 3 STEREOキー、MULTI CONTROLキー、

スーパーウーファー操作キー

スーパーウーファー（別売）を操作するときに使用します。

POWERキー、VOLUME CONTROLキー

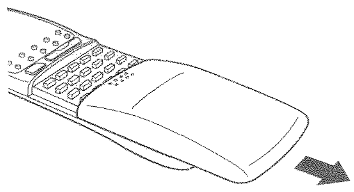
型名：RC-97LD

赤外線方式

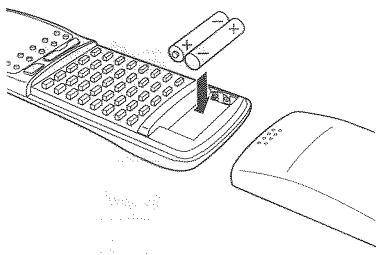
リモコンの使いかた

電池の入れかた

1 カバーをはずす

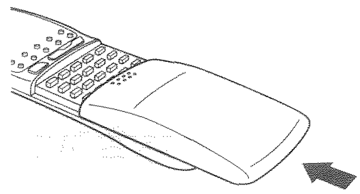


2 電池を入れる



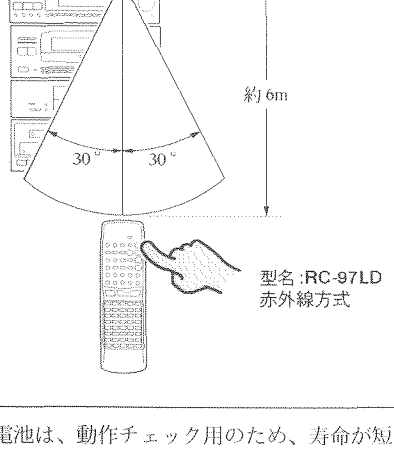
● 単4乾電池(R03/UM-4)2個を極性マークに従って入れる。

3 カバーを閉める



操作のしかた

アンプの電源プラグをコンセントに差し込み、リモコンの POWER キーを押すと、電源がONになります。電源がONになったら、操作したいキーを押します。



● リモコンの各操作キーを押してから次のキーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

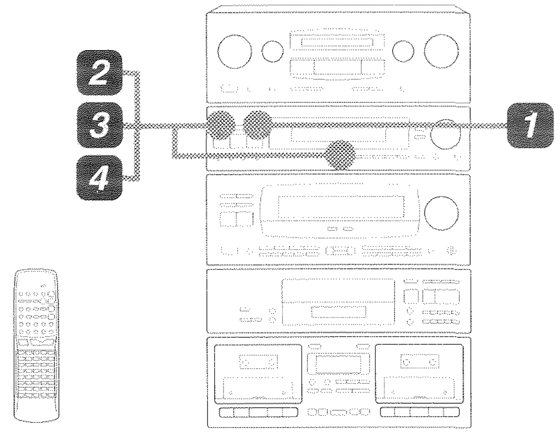
以後の各ページでは、説明の都合上、リモコンのカバーが省略されたイラストを使っています。あらかじめご了承ください。

ご注意

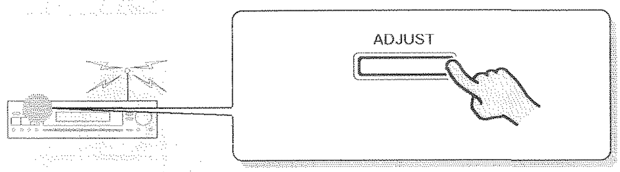
1 付属の乾電池は、動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2 操作できる距離が短くなったら、2個とも新しい電池と交換してください。
3 リモコン受光部に直射日光や高周波点灯(インバーター方式等)の蛍光灯の光が当ると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

時刻合わせ

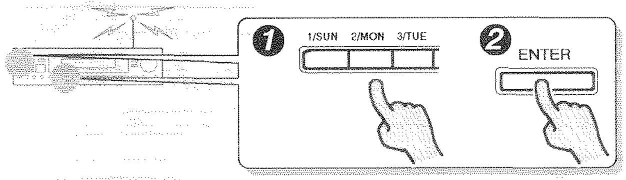
チューナー部には、時計機能がついています。タイマーを使う前に必ず正確な時刻を合わせてください。



1 ADJUSTキーを押す



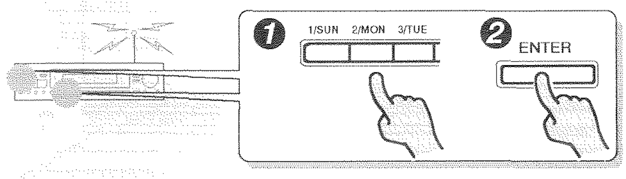
2 西暦年を入力し、ENTERキーを押す



入力例
1993年：1、9、9、3と入力する

- 数字キーを間違えて押したときは、CLEARキーを押して、やり直してください。

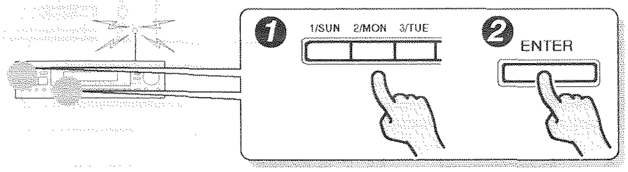
3 月、日を入力し、ENTERキーを押す



入力例
3月7日　：0、3、0、7と入力する
12月30日：1、2、3、0と入力する

- 数字キーを間違えて押したときは、CLEARキーを押して、やり直してください。

4 時刻を合わせてENTERキーを押す

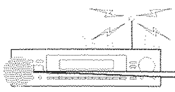


入力例
午前9時5分　：0、9、0、5と入力する
午後4時50分：1、6、5、0と入力する

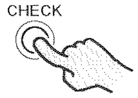
- 数字キーを間違えて押したときは、CLEARキーを押して、やり直してください。
- 時報と同時にENTERキーを押すと正確な時刻合わせができます。
- 停電があったり、電源プラグをコンセントから抜いたときは時刻表示が点滅します。その場合は、もう一度時刻合わせをしてください。

カレンダーチェックのしかた

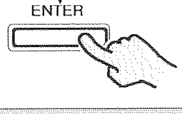
西暦年、月、日を入力すると、入力した日の曜日が自動的に点灯します。
1900年1月1日~2099年12月31日の間で検索します。



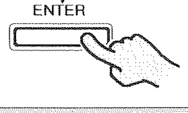
❶ CHECKキーを押す。



❷ 西暦年を数字キーで入力し、ENTERキーを押す
1993年：1 9 9 3



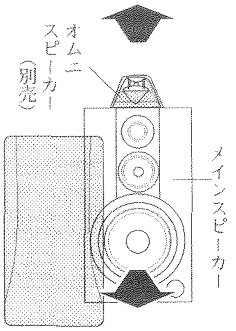
❸ 月、日を数字キーで入力し、ENTERキーを押す
3月30日：0 3 3 0



数秒後に元の表示に戻ります。

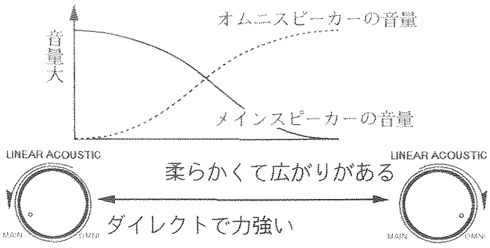
音の調節のしかた

メインスピーカーとオムニトップスピーカー（別売）の音量バランスを調節する



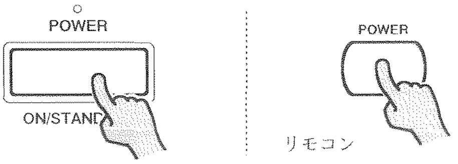
メインスピーカーとオムニスピーカー（別売）の音量バランスを、自由に変えることができます。聴いている曲の雰囲気や、その日の気分に合わせて、いろんな音の響きが楽しめます。

● つまみを片側に回しきると、メインまたはオムニだけの音を楽しめます。



電源の ON／OFF

アンプの電源キー (POWER) を押す



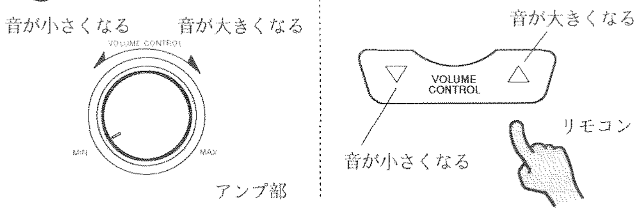
● アンプのPOWERキーだけで基本システムの電源ON/OFFができます。

ヘッドホンで聴く

❶ ヘッドホンのプラグをPHONES端子に差し込む

● オムニスピーカーから出る音は、ヘッドホンからは聴こえません。
● すべてのスピーカーから音が出なくなります。

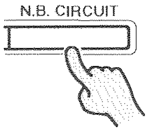
❷ 音量を調整する



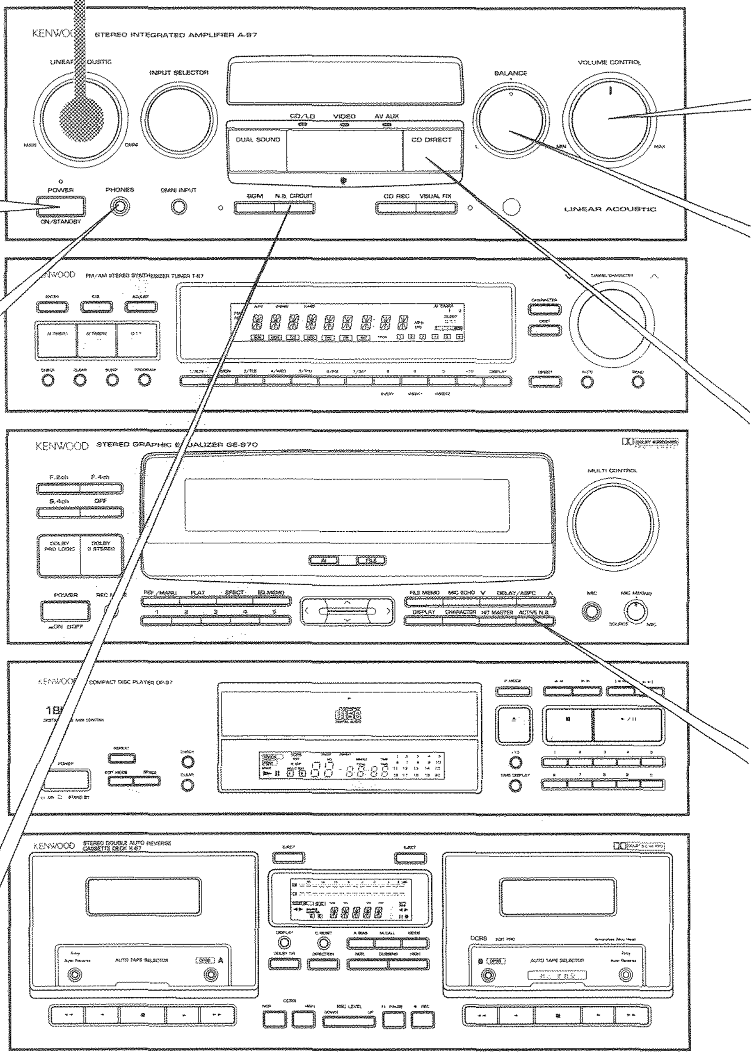
● プラグを抜くときは音量を絞ってから抜いてください。

重低音域の補正（N.B. CIRCUIT（サーキット））

N.B.CIRCUIT : Natural Bass CIRCUIT
より自然な低音にするときに押します。



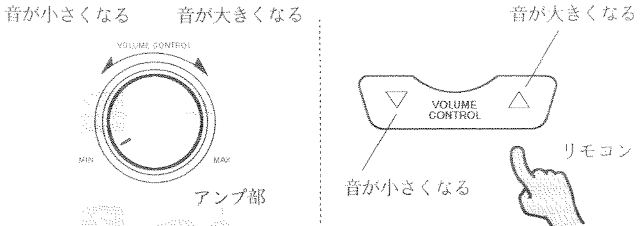
● 押すたびにONとOFFが切り換わります。(ONの時、表示部に N.B. と表示)
● 入力がPHONOのとき、N.B. CURCUIT機能は働きません。



POWERスイッチのSTAND BYについて

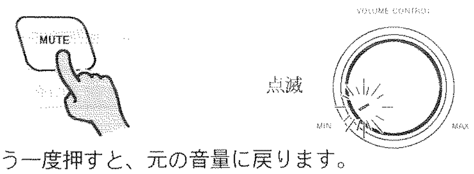
本機では電源プラグをコンセントに接続すると、電源ON/OFFに関係なくスタンバイインジケーターが点灯します。これは電源OFF時にも、メモリー保護のため、微弱な通電を行っているためです。これをスタンバイ状態といいます。スタンバイインジケーターが点灯しているとき、リモコン操作によっても電源のON/OFFができます。

音量を調節する



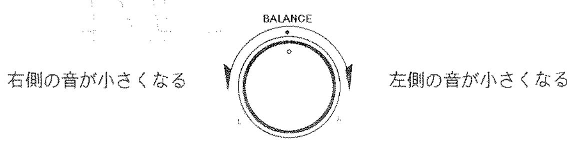
- リモコンで調節すると、キーを押している間、VOLUME CONTROLつまみのポイントインジケーターが点滅しながら回転します。

一時的に音を消したいとき　リモコンのみ



- もう一度押すと、元の音量に戻ります。

左右の音量バランスを調節する

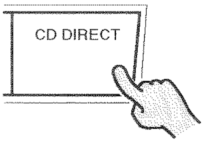


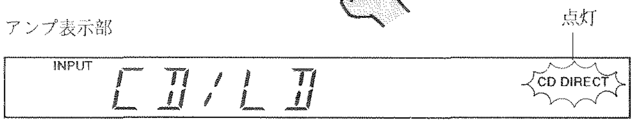
CDを高音質で聴く（CD DIRECT（ダイレクト））

CDを再生するときに、より高品位な音質でお楽しみいただけます。

❶ アンプの入力切換をCD/LDにする

❷ CD DIRECTキーを押す



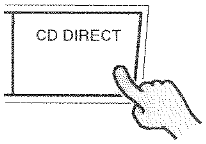


❸ CDを再生する

- CDダイレクト再生中は、グラフィックイコライザー、ドルビーサラウンド(プロ・ロジック、3ステレオ)モードや、DSPプレゼンスモードは働きません。
- 録音中はCD DIRECTキーを押しても受けつけません。

解除するには

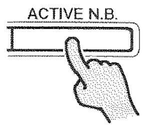
CD DIRECTキーをもう一度押す



- CD/LD以外の入力を選んだときも解除されます。

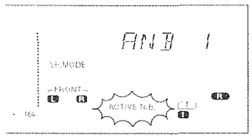
重低音域を自動的に補正する（ACTIVE（アクティブ） N.B.）

演奏の内容に合わせて低音域を自動的に補正します。曲の雰囲気に合わせてモードを選んでください。



キーを押すたびに切り換わります。

①ANB 1‥‥1.6秒間隔で自動的に低音を補正します。
②ANB 2‥‥8秒間隔で自動的に低音を補正します。
③ANB 3‥‥16秒間隔で自動的に低音を補正します。
④OFF

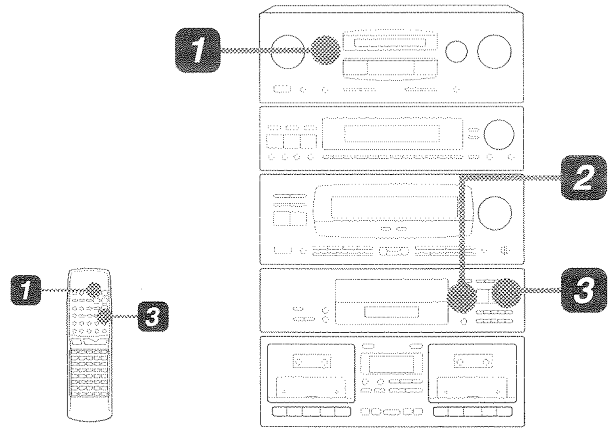


- 実際に音を聴いて、お好みのモードを選んでください。

アンプの入力切換とイージーオペレーション機能について

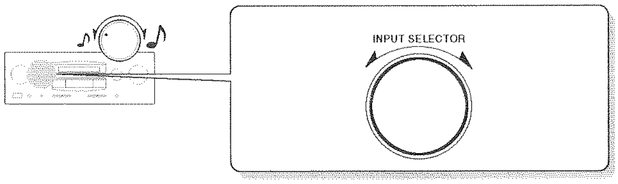
アンプのINPUT SELECTORつまみで入力(TAPE、TUNER、CD/LDなど)を切換えるだけで、選んだ機器が再生を始めます。逆に、目的の機器を再生させると、入力切換キーが自動的にその機器に切り換わります。
リモコンでも同様に操作できます。なお、電源を入れたときは、電源を切る前にきいていたソース(TUNER、CD/LDなど)になります。
※バーチャルリアリティーサウンド再生(メインスピーカーとオムニスピーカーから別々の音を出す)のときは、イージーオペレーションは働きません。

CDを聴く

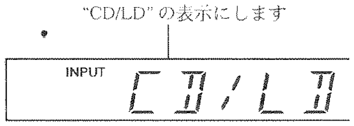


1曲目から順に聴く

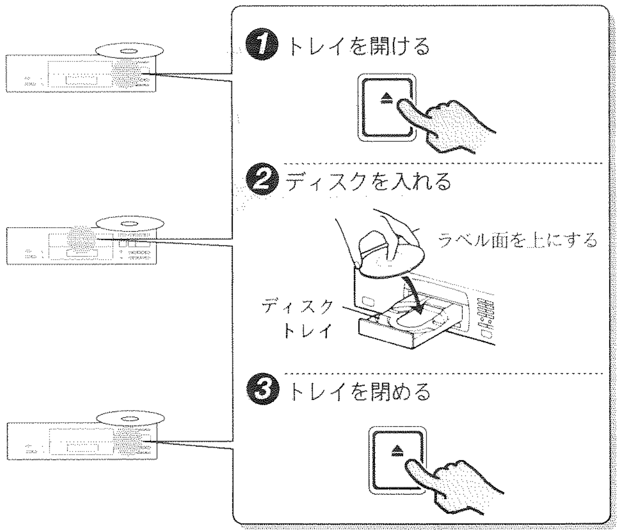
1 "CD/LD"を選ぶ



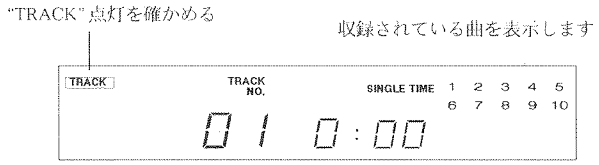
次のように切換わります
① TUNER
② PHONO
③ CD/LD
④ VIDEO
⑤ AV AUX
⑥ MD/DAT
⑦ TAPE A
⑧ TAPE B



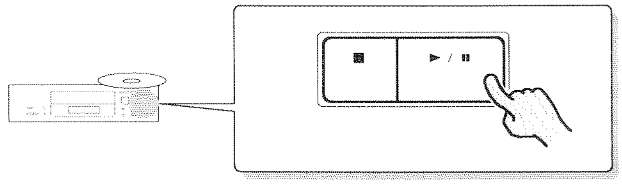
2 ディスクを入れる



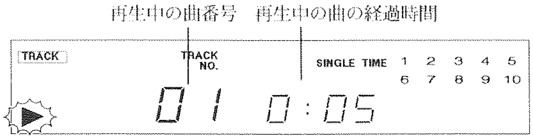
- 再生面には触れないようにします。
- ディスクは1枚だけ入れます。



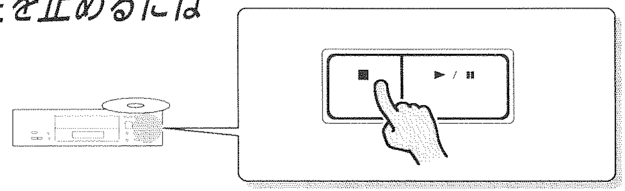
3 再生を始める



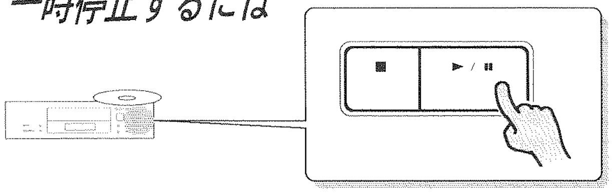
- 数秒後に、1曲目から再生します。



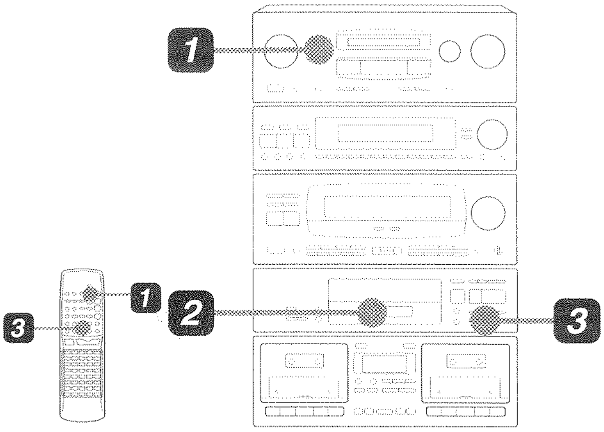
再生を止めるには



一時停止するには

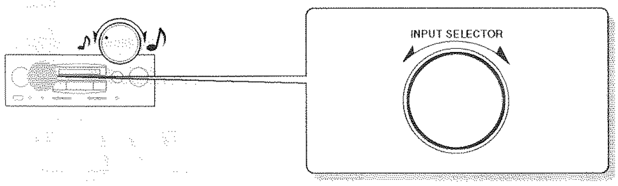


- 押すたびに、一時停止と再生が切換わります。



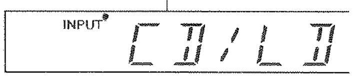
聴きたい曲を選ぶ

1 "CD/LD"を選ぶ

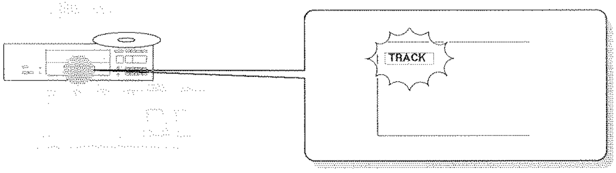


次のように切換わります
① TUNER
② PHONO
③ CD/LD
④ VIDEO
⑤ AV AUX
⑥ MD/DAT
⑦ TAPE A
⑧ TAPE B

"CD/LD"の表示にします

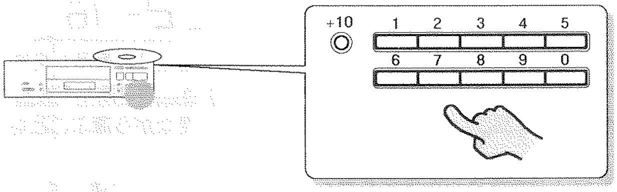


2 "TRACK" の表示を確かめる



- "TRACK"表示が点灯していないときは、P.MODEキーを押して点灯させてください。

3 聴きたい曲番号を選ぶ

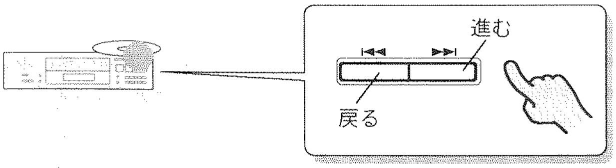


数字キーを押す順序は…

23曲目なら：+10 +10 3
40曲目なら：+10 +10 +10 +10 0

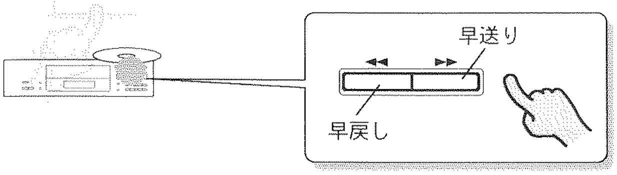
- 選んだ曲以降を再生します。
- トレイを開けた状態でディスクにない曲を選ぶと、ディスクの最後の曲を再生します。
- トレイを閉めた後、および再生が始まってからは、ディスクにない曲を選ぶことはできません。

曲を飛び越すには（スキップ）

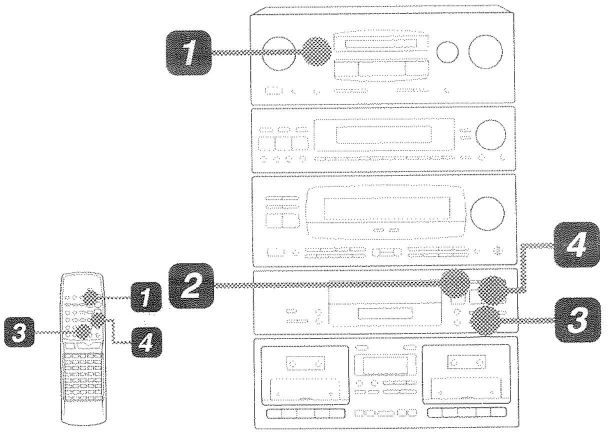


- 押した方向に飛び越して、選んだ曲の最初から再生します。
- 再生中に ⏮ キーを1回押すと、その曲の最初に戻ります。

早送り・早戻しするには（サーチ）

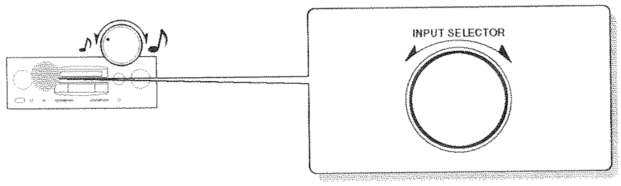


- 押したままにすると、さらに早くなります。
- 手を離した所から、再生します。



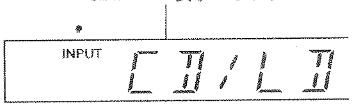
曲順を自由にプログラムする

1 "CD/LD"を選ぶ

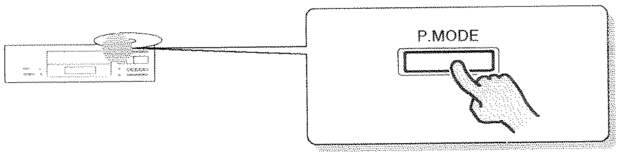


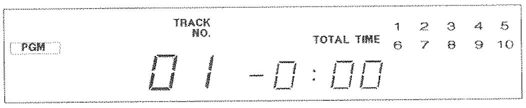
次のように切換わります
① TUNER
② PHONO
③ CD/LD
④ VIDEO
⑤ AV AUX
⑥ MD/DAT
⑦ TAPE A
⑧ TAPE B

"CD/LD"の表示にします

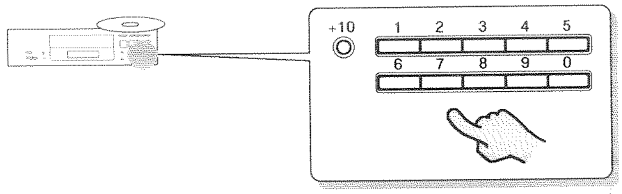


2 PGMモードに切り換える





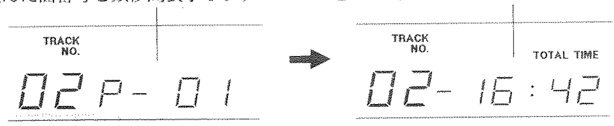
3 聴きたい順に曲番号を選ぶ



数字キーを押す順序は…

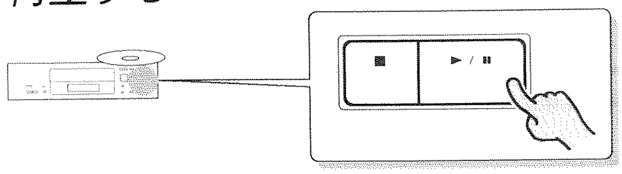
2、5、25曲目を選ぶとき：
[2][5][+10][+10][5]

選んだ曲番号を数秒間表示します → 選んだ曲の合計時間の表示になります



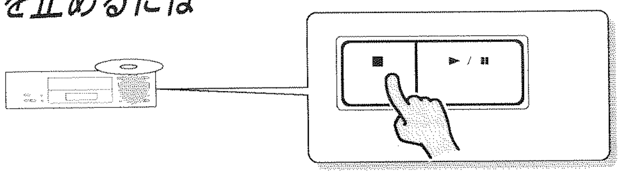
- 20曲まで選べます。21曲になると、"FULL"と表示します。
- 間違えたときは、CLEARキーを押してから、選び直してください。
- トレイを開けた状態で、ディスクラベルを見ながら選ぶこともできます。
- 44よりも大きな曲番号を選んだときは、ディスク全体の残り時間が表示されません。

4 再生する



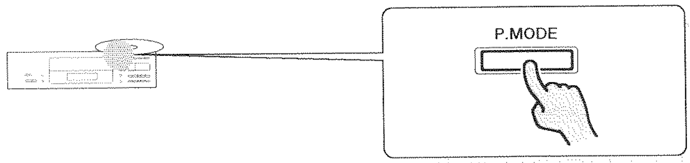
- 選んだ順(P-番号順)に再生します。
- 再生中に、|◄◄または►►|キーを押すと、押した方向へ飛び越します。
- 再生中に、|◄◄キーを一回押すと、その曲の最初に戻ります。

再生を止めるには



- PGMモードでの停止中に|◄◄, ►►|キーを押すと、1曲目から順に、曲ごとの再生時間が表示されます。(数秒後に、元の表示に戻ります)

曲番号順の再生にするには



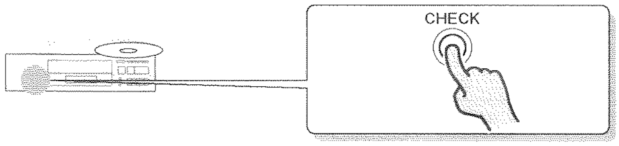
- そのとき聴いている曲から、曲番号順の再生に戻ります。

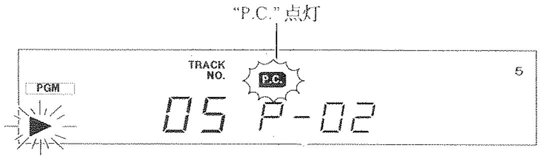
オートスペース機能について

カセットを再生するときに便利な機能です。曲順のプログラム中にSPACEキーを押すと、曲間に約4秒間の無音部分が作られます。この状態でカセットに録音すれば、DPSS機能(無音部分を探す)を使って、テープの頭出しやリピート再生などが確実に行えます。

- 前曲と次曲の演奏がつながっている場合でも(クラシックやライブ収録など)、別々の曲番号がついていれば無音部分が作られます。
- トータル時間の表示は、作られる無音時間を含むものになります。
- 解除するときは、もう一度SPACEキーを押してください。

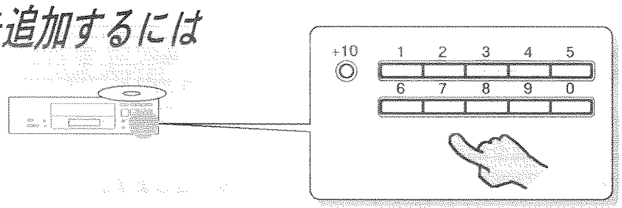
プログラムした曲順を確かめるには





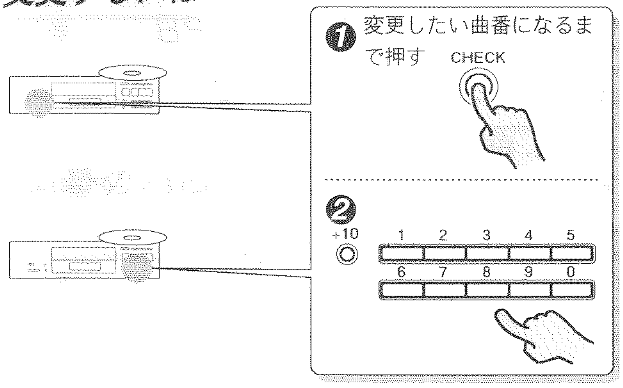
- 押すたびに、プログラムした曲順(P-NO)と、CD上の曲番号を表示します。
- 数秒後に元の表示に戻ります。

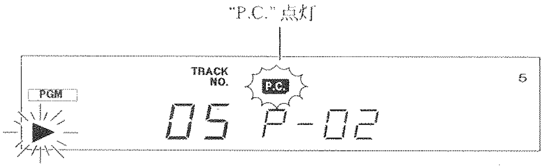
曲を追加するには



- 追加したい曲番号を選ぶと、プログラムの最後に追加されます。

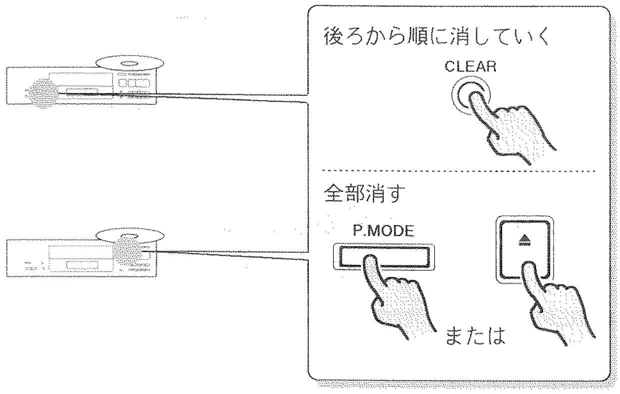
曲を変更するには





- "P.C."表示の点灯中に押してください。
- そのとき聴いている曲は変更できません。

プログラムした曲を取り消すには



- 押すたびに、最後の曲から1曲ずつ消えていきます。
- プログラムの内容が、全部消えます。

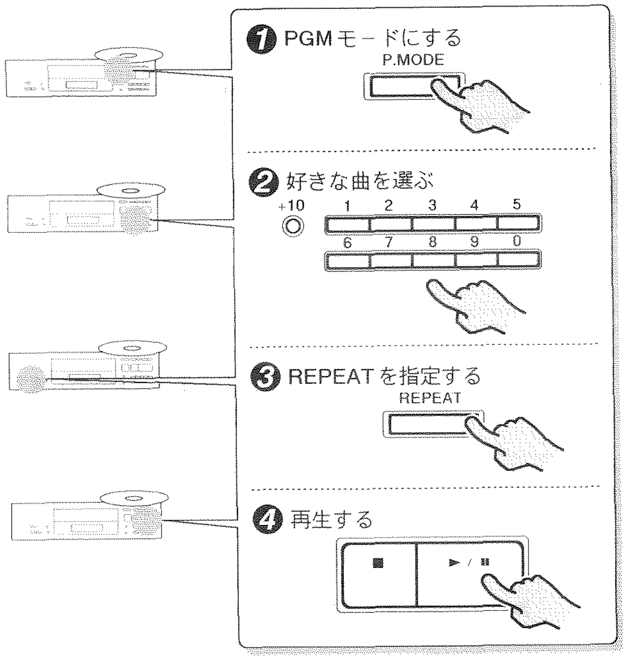
CDプレーヤーの時間表示について

本体のTIME DISPLAYキーを押すたびに、ディスプレイの表示が切り

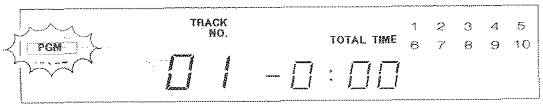
① SINGLE TIME 1:23 再生中の曲の経過時間
② SINGLE TIME - 2:37 再生中の曲の残り時間
③ TOTAL TIME 23:45 ディスク全体の経過時間
④ TOTAL TIME - 36:15 ディスク全体の残り時間
（- - : - - 44曲目以降の再生中は、このようになります）

繰り返し聴く（リピートプレイ）

選んだ曲だけを繰り返すには

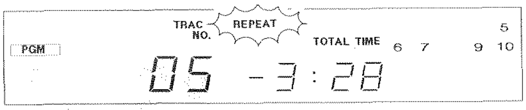


"PGM"表示を点灯させます。



- 選んだ曲全部を繰り返します。
- 1曲だけ選んだ場合は、その曲だけを繰り返します。

"REPEAT"表示を点灯させます。

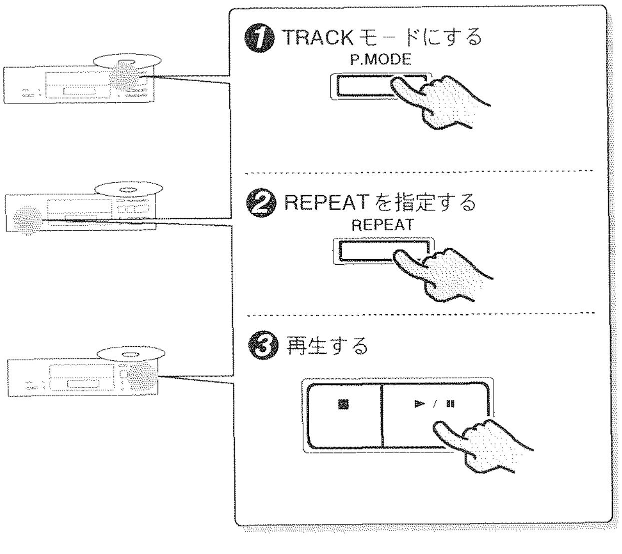


繰り返し再生をやめるには

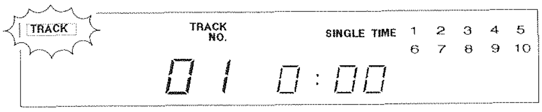
もう一度、REPEATキーを押します。

- "REPEAT"表示が消灯し、CDプレーヤーのモード(PGM)に従った再生に戻ります。

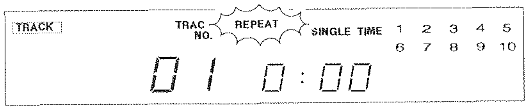
ディスク全体を繰り返すには



"TRACK"表示を点灯させます。



"REPEAT"表示を点灯させます。



繰り返し再生をやめるには

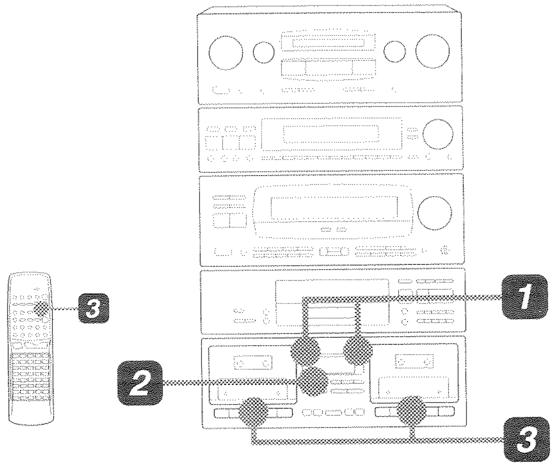
もう一度、REPEATキーを押します。

- "REPEAT"表示が消灯し、CDプレーヤーのモード(TRACK)に従った再生に戻ります。

テープを聴く

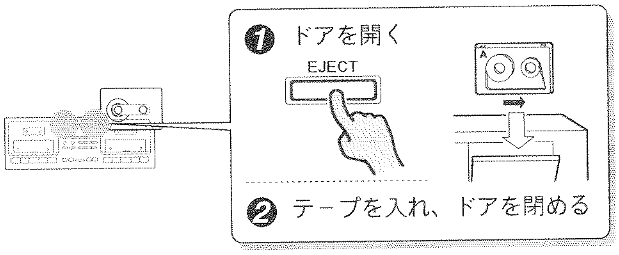
準備しましょう

● INPUT SELECTORつまみで"TAPE A"または"TAPE B"を選ぶ。



テープの再生

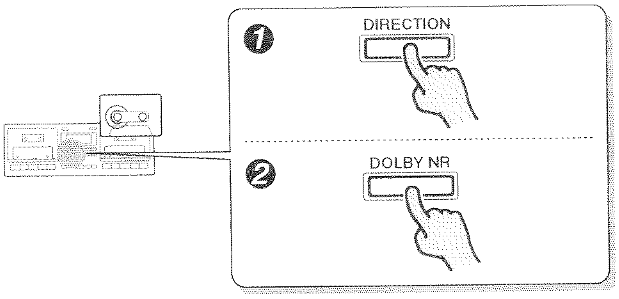
1 カセットテープを入れる



●ノーマル、クローム、メタルのテープ選択は自動設定されます。
●テープはたるみのない状態にして入れてください。

●ドアは、確実に閉めてください。

2 再生モードを選ぶ



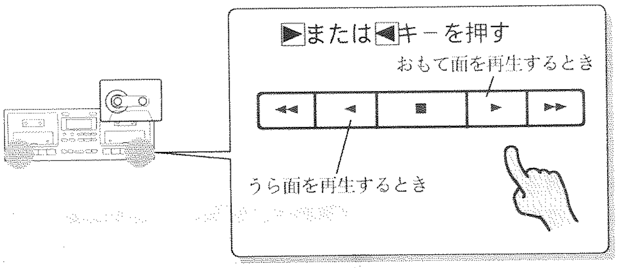
押すたびに表示部のマークが切換わります

① "⊂⊃"…エンドレス再生をする
② "⊏"…片面のみを再生して止まる
③ "⊐"…両面を再生して止まる

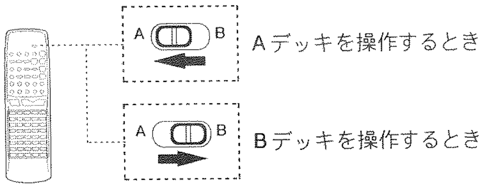
① 消灯……………………………DOLBY NRを使わない
② DOLBY NR B ……………一般的なタイプ
③ DOLBY NR C……………より高性能なタイプ

● DOLBY NRは、テープの録音状態に合わせて選んでください。

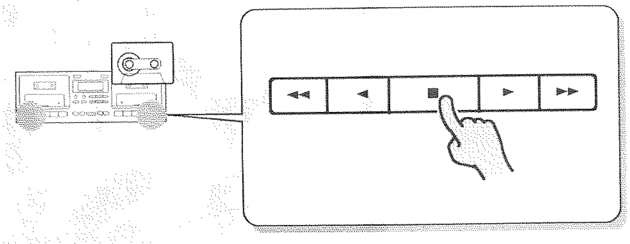
3 再生する



●リモコンを使う場合は、A/B切換えスイッチで、操作するデッキを選びます。

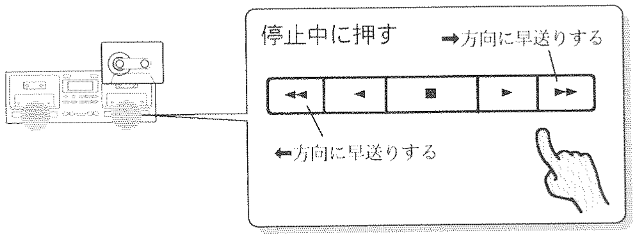


再生を止めるには



●テープが完全に停止するまで、イジェクトキーを押さないでください。

早送り・早戻しするには

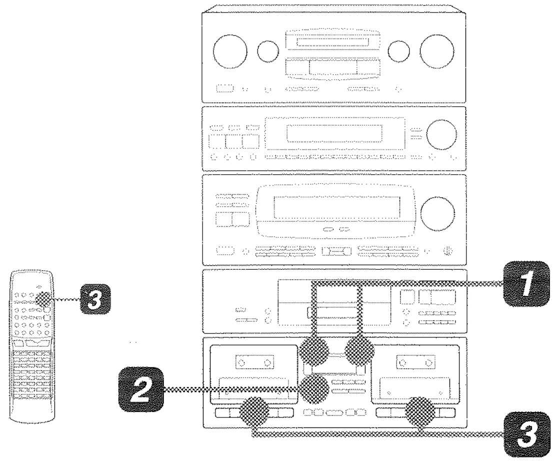


●早送りを止めるときは、■キーを押してください。

A、B 両デッキに入れたテープを交互に繰り返し再生します。

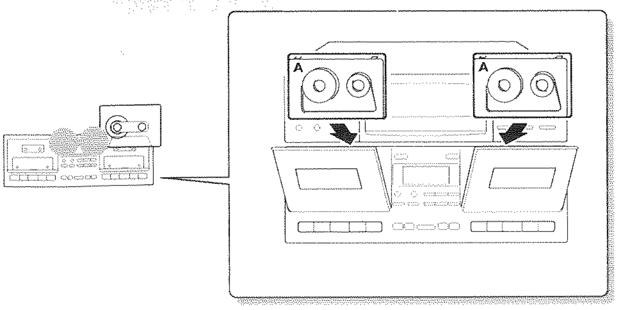
準備しましょう

- INPUT SELECTOR つまみで "TAPE A" または "TAPE B" を選ぶ。



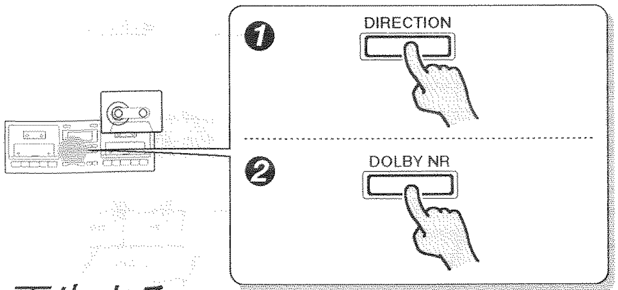
リレー再生のしかた

1 テープを入れる



- テープは走行方向インジケーターと同じ向きの面を再生します。

2 再生モードを選ぶ



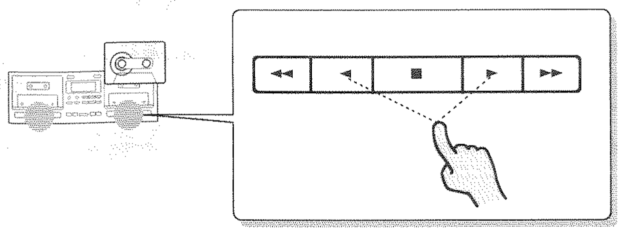
表示部のマークが押すたびに切換わります

① "⊂⊃"... このときは、リレー再生になりません
② "⊏"...A,B デッキの片面だけを繰返し再生します
③ "⊐"...A,B デッキの両面を繰返し再生します

① 消灯..............................DOLBY NR を使わない
② DOLBY NR B .... 一般的なタイプ
③ DOLBY NR C .... より高性能なタイプ

- DOLBY NR は、テープの録音状態に合わせて選んでください。

3 再生する



- 押した方のデッキから再生が始まります。

ドルビーノイズリダクション（NR）とは

ドルビー NR システムは、テープを聴くときの "サー" というヒスノイズを、できるだけ聞こえにくくするためのシステムです。B タイプと C タイプがありますが、録音するときと再生するときに同じタイプを選ばないと効果がありません。
テープには "B", "C" の区別を書き込んでおきましょう。

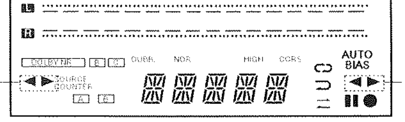
ドルビー B NR： 一般的なドルビー NR 方式です。
ドルビー C NR： B タイプよりもノイズ低減効果が優れています。

本機だけで録音再生するときはドルビー C NR の利用をおすすめします。

走行方向表示について

イージーオペレーションなどで、再生や録音が自動スタートするときの、テープが進む方向を、◀,▶キーのインジケーター(◀,▶)の点灯で示します。最後にテープを止めたときの方向が記憶されます。
(向きを変えるときは、いったん逆向きの▶キーを押してから■キーを押します。)

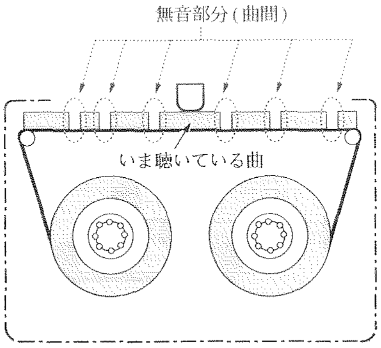
A デッキ
走行方向表示



B デッキ
走行方向表示

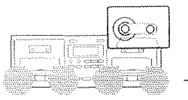
DPSS（ダイレクト・プログラム・サーチ・システム）について

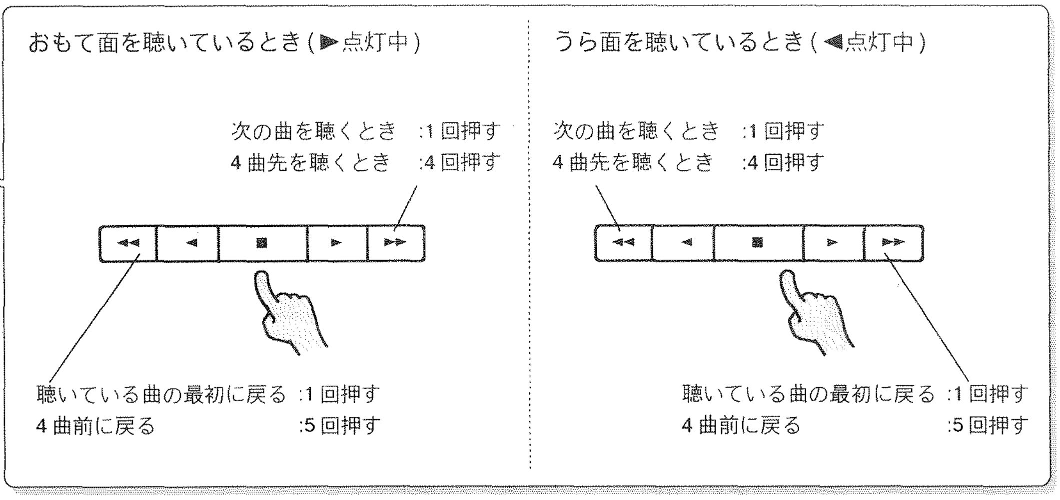
4秒以上の無音部分を「曲間」として探し出す機能で、4種類の使いかたがあります。



1. 飛び越し選曲　：途中の曲を飛び越して、目的の曲の最初から再生します。最大16曲まで飛び越せます。
2. ダッシュ＆プレイ：10秒以上の無音部分を早送りで飛び越しながら、繰り返し再生します。
3. 巻き戻し再生　：テープを巻き戻して、最初から再生します。
4. 1曲リピート再生：同じ曲を16回繰り返して再生します。

飛び越し選曲



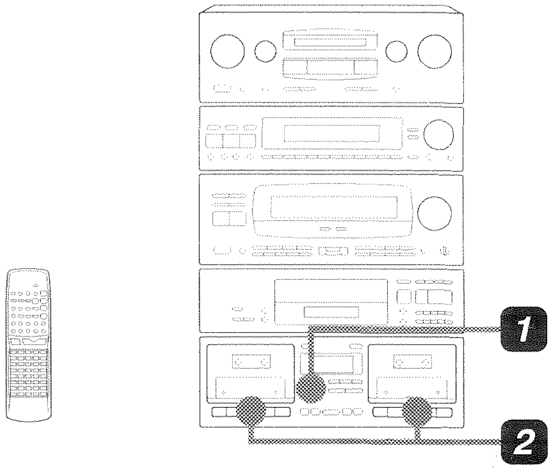


ご注意

1. DPSSは、Aデッキ、Bデッキ同時には使えません。
2. 次のようなテープでは、DPSSが正常に動作しません。
   - 会話、落語などで音声が4秒ぐらい途切れるテープ
   - クラシック音楽など、1曲の中に、音量が極端に小さくなるところのあるテープ
   - 曲間に、大きな雑音などが録音されているテープ
   - 曲間が4秒未満のテープ
   - 小さな音で録音されたテープ
   - クロスフェード録音（前曲の最後に、次曲の最初が重なっていること）されたテープ

準備しましょう

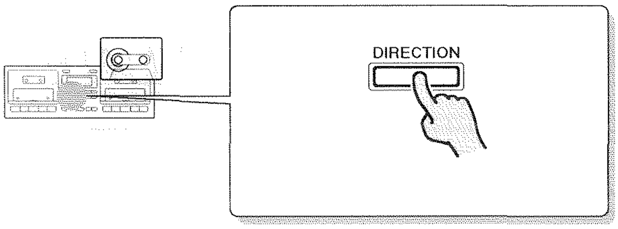
- INPUT SELECTORつまみで“TAPE A”または“TAPE B”を選ぶ。



ダッシュ&プレイ

再生中に10秒以上の無音があると、その部分を自動的に早送りし、音声のある部分だけを再生します。

1 再生モードを選ぶ

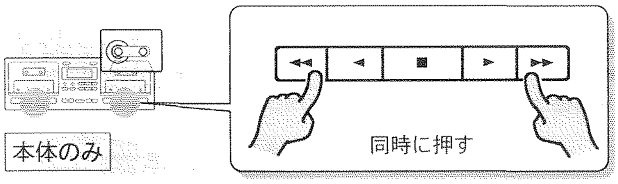


押すたびに切換わります

① “⊂⊃”… 両面を8回繰返し再生して止まる
② “＝”… 片面だけを8回繰返し再生して止まる
③ “⊃”… 両面を1回だけ再生して止まる

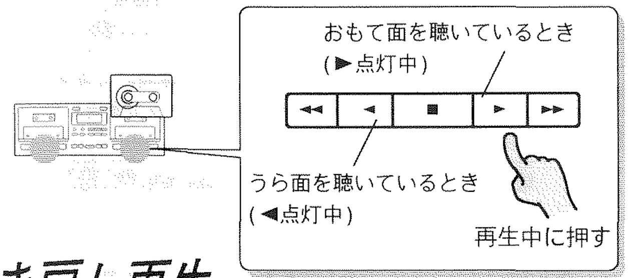
- A, B両方のデッキにテープが入っているときに、“⊃”を選ぶと、一方のデッキのダッシュ&プレイ終了後に他方のデッキがダッシュ&プレイを始めます。これを16回繰り返して停止します。

2 ダッシュ&プレイを始める



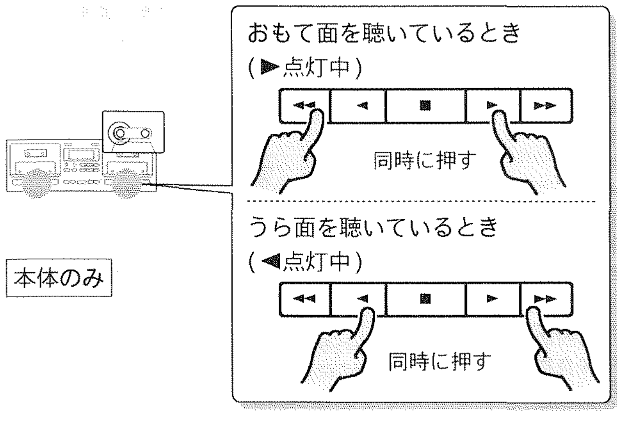
- ■キーを押すと再生が停止し、ダッシュ&プレイは取り消されます。

1曲リピート再生



- そのとき聴いている曲を、16回繰り返し再生の後、通常の再生に戻ります。
- ■キーを押すと再生が停止し、1曲リピートは取り消されます。

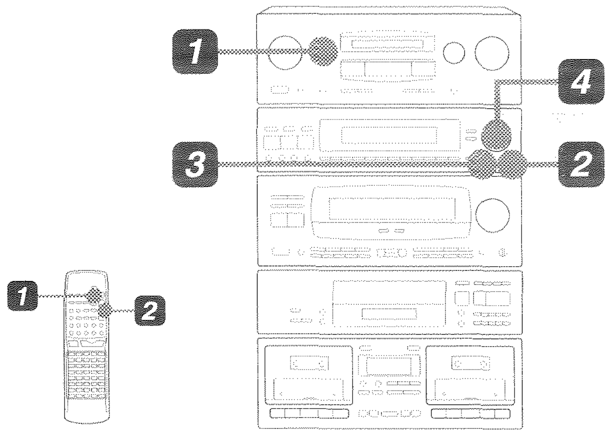
巻き戻し再生



- そのとき聴いている面の最初まで巻き戻してから、再生が始まります。

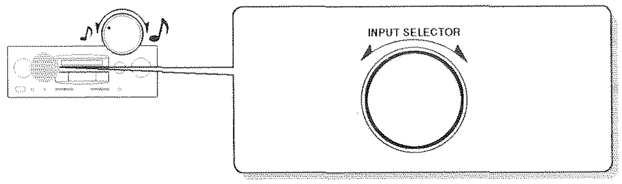
放送を聴く

ラジオ放送を受信する方法です。放送局を最大30局まで記憶させ、ワンタッチで受信することもできます。
また、本機はAMステレオ放送に対応しています。スポーツ中継や、ドラマなどを臨場感あふれる音声で楽しむことができます。AMステレオ放送を行う局は全国に広がりつつあります。AMステレオによる新しい発見をお楽しみください。



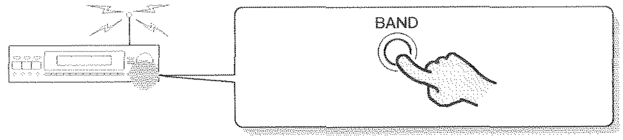
放送を受信する

1 "TUNER"を選ぶ



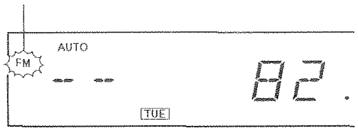
次のように切換わります
- ① TUNER
- ② PHONO
- ③ CD/LD
- ④ VIDEO
- ⑤ AV AUX
- ⑥ MD/DAT
- ⑦ TAPE A
- ⑧ TAPE B

2 AM／FMのどちらかを選ぶ



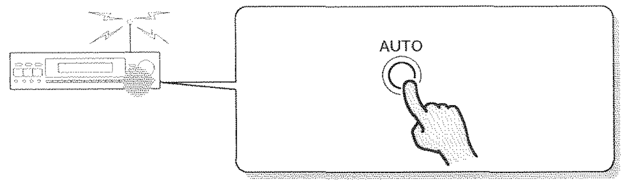
押すたびに切換わります
- ① FM
- ② AM

AMまたはFMの表示



●最後に聴いていた周波数が呼び出されます。

3 選局方法を選ぶ

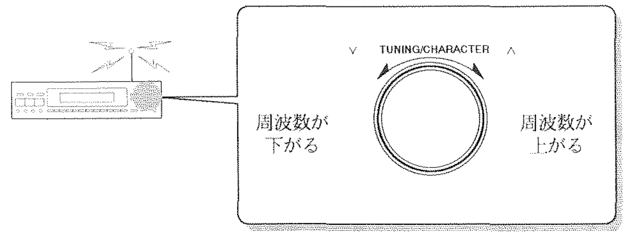


押すたびに切換わります
- ① AUTO点灯（オート選局）
- ② 消灯（マニュアル選局）

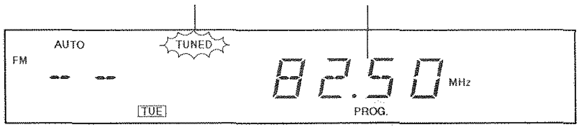
●通常は、AUTO(オート選局)にしておきます。

電波が弱く、雑音が多いときは、マニュアル選局にします。
(マニュアル選局のとき、ステレオ放送はモノラル受信になります)

4 放送局を選ぶ



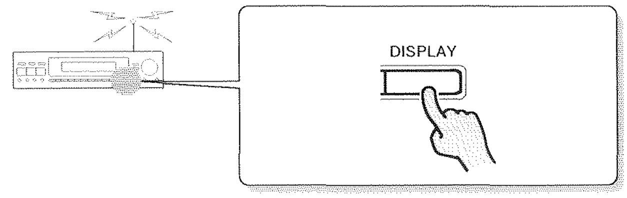
受信すると、"TUNED"が点灯　周波数の表示



オート選局のとき：回すたびに次の放送局を受信します。
マニュアルのとき：受信するまで繰り返し回す。または回したままにする。

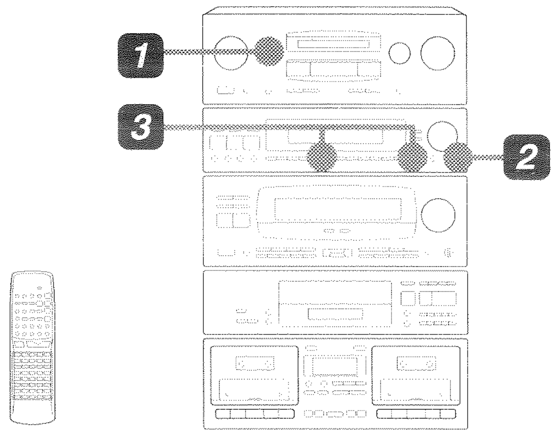
DISPLAYキーの使いかた

チューナー部のDISPLAYキーを押すたびに、表示内容が切換わります。



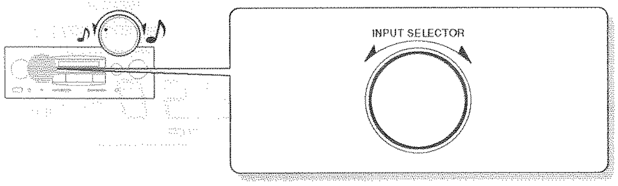
押すたびに切換わります。
- ①周波数表示　：受信中の周波数を表示します。
- ②放送局名表示(登録されていないときはバンド表示)
- ③時計表示
- ④月日表示

（③④）選局にかかわる操作をすると、数秒間だけ、周波数表示になります。



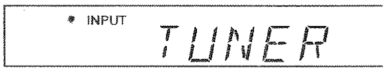
周波数を指定して受信する

1 "TUNER"を選ぶ

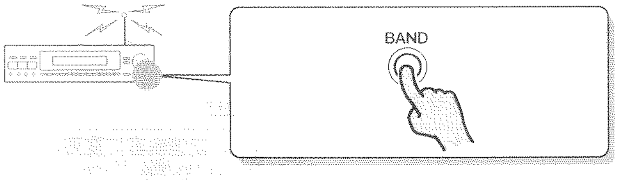


次のように切換わります

① TUNER
② PHONO
③ CD/LD
④ VIDEO
⑤ AV AUX
⑥ MD/DAT
⑦ TAPE A
⑧ TAPE B



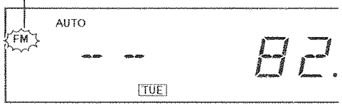
2 AM／FMのどちらかを選ぶ



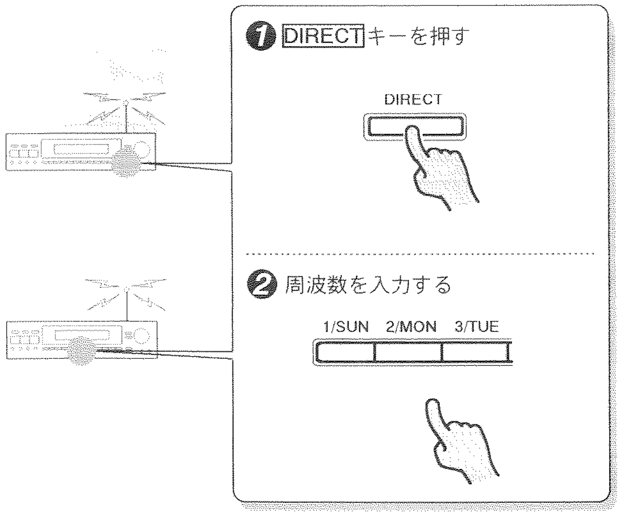
押すたびに切換わります

① FM
② AM

AMまたはFMの表示



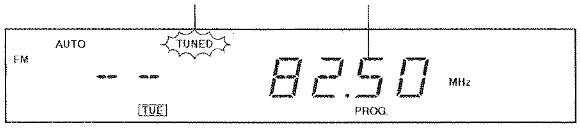
3 周波数を指定する



受信する周波数と、数字キーの押しかた

AM 810kHz……8 1 0
AM 1242kHz……1 2 4 2
FM 80MHz……8 0 0
FM 82.5MHz……8 2 5

受信すると、"TUNED"が点灯　周波数の表示



● まちがえたときは、CLEARキーを押してからやり直します。

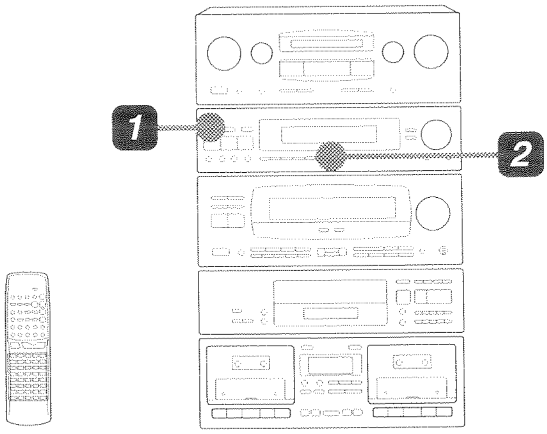
放送局を記憶させる（プリセット）

最大30局までの放送局に、番号を付けて記憶させておけば、次からは、番号を指定するだけで、受信できるようになります。

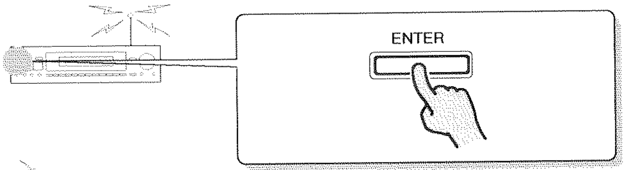
準備しましょう

● 記憶させたい放送局を受信している状態にする。

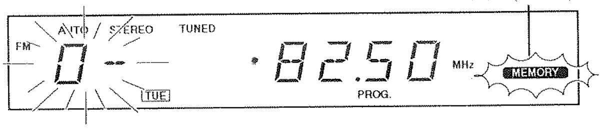
→ P.30



1 受信中に、ENTER キーを押す

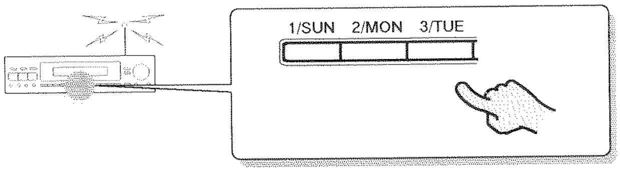


点灯(5秒間)



5秒以内に手順2へ　5秒以上たった場合は、もう一度押し直します。

2 1～30のプリセットナンバーをつける



数字キーを押す順序は…

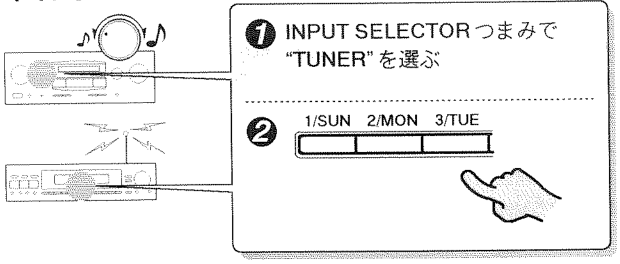
"15"に記憶させるとき：+10 5

"20"に記憶させるとき：+10 +10 0

● 同じ番号に重ねて記憶させると、新しい記憶内容に変更されます。

記憶させた放送局を受信する

目的の放送局のプリセットナンバーを押す



❶ INPUT SELECTORつまみで"TUNER"を選ぶ

❷

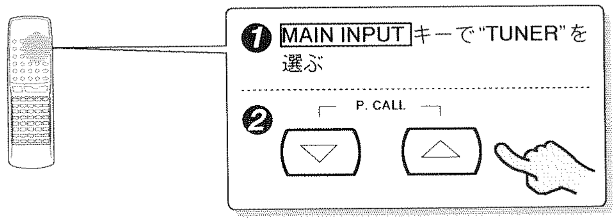
数字キーを押す順序は…

"15"なら…：+10 5

"20"なら…：+10 +10 0

記憶させた放送局を順に聴く（プリセットコール）

P.CALL キーを押す



❶ MAIN INPUT キーで"TUNER"を選ぶ

❷

● キーを押すたびに、記憶されている放送局が順に切換わります。

△を押すと……1→2→3 ………28 →29→ 30

▽を押すと……1←2←3 ………28 ←29← 30

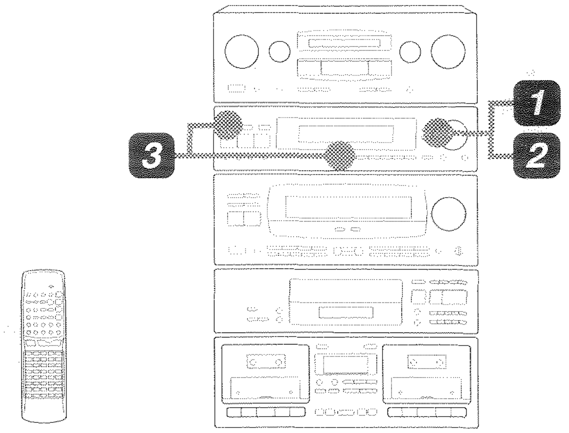
押したままにすると…約0.5秒間隔で、放送局をスキップします。

放送局名を登録する（変更する）

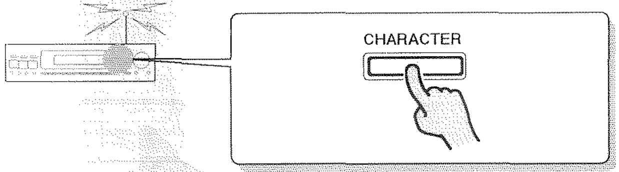
最大30局までの放送局に、4文字までの名前をつけて登録しておけば、次からは、その放送局を受信すると名前が表示されます。

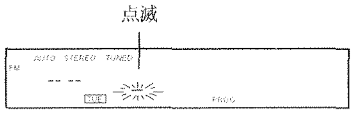
準備しましょう
● 記憶させたい放送局を受信している状態にする。

→P.30



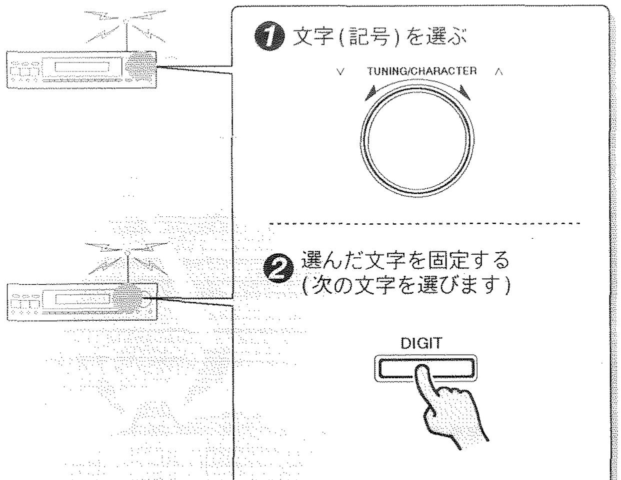
1 受信中にCHARACTERキーを押す





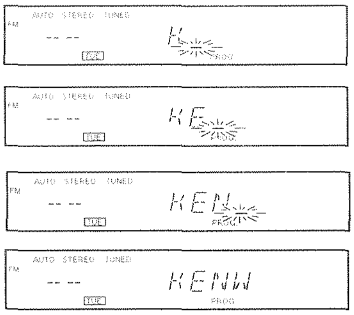
● 文字の入力を待ち受ける状態になります。

2 4文字までの名前を入力する



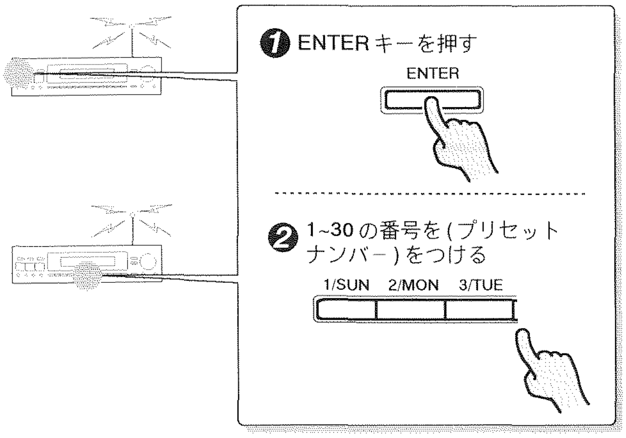
● キーを押すたびに、文字や記号が切り換わります。目的の文字が表示された状態にしてください。
K E N Wと入力する場合

① Kを選んで
② DIGITキーを押す
① Eを選んで
② DIGITキーを押す
① Nを選んで
② DIGITキーを押す
① Wを選んで
② DIGITキーを押す



● ①と②で1文字が入力されます。繰り返し操作してください。
● 途中で間違えたときは、CLEARキーを押してやり直してください。
● 4文字まで入力すると、自動的に入力終了となり、手順3に移ります。
● スペース（空白）を入力するときは、文字を選ばず、空白の状態のまま、DIGITキーを押します。
● 3文字以内で終了するときは、文字の固定後に、CHARACTERキーを押します。

3 放送局名を記憶させる



● MEMORYインジケーターが点灯しているうちに②を行います。

数字キーを押す順序は…
"15"に記憶させるとき: +10 5
"20"に記憶させるとき: +10 +10 0

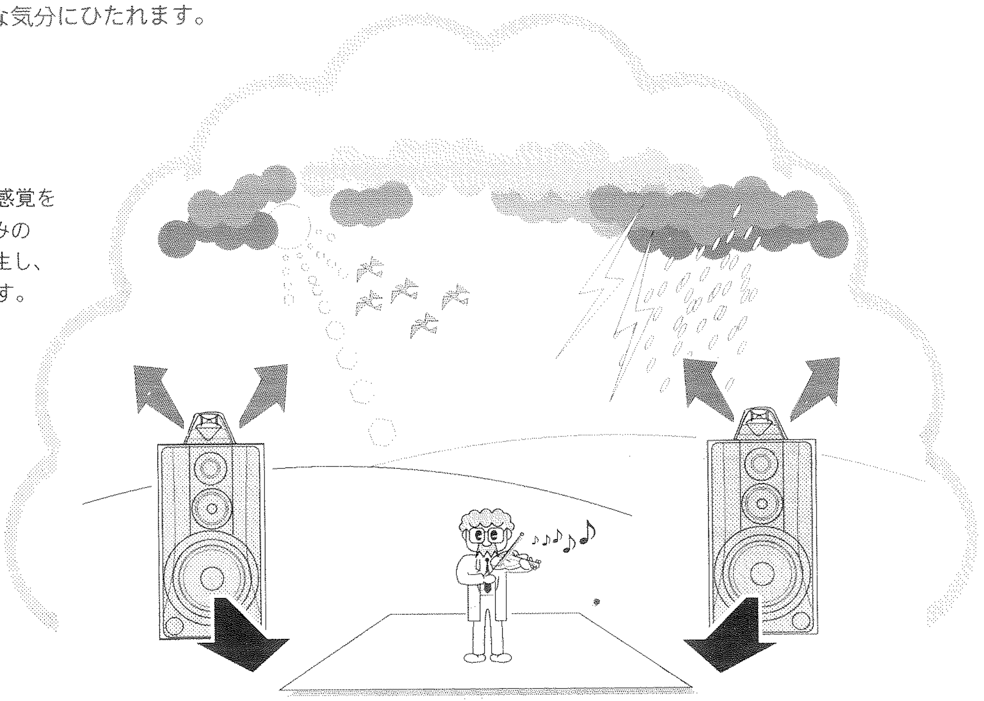
● すでに記憶させた放送局の場合は、同じ番号に重ねて記憶させると良いでしょう。（新しい記憶内容に変更されます。）
● 放送局を表示させるときは、DISPLAYキーを押してください。

バーチャル・リアリティー・サウンド・システム

2つのソースをメインとオムニの両スピーカーから別々に再生する機能で、メインスピーカーからの音楽に、オムニスピーカーからのバーチャルリアリティーサウンドを重ね合わせると、あたかもその場の雰囲気の中で音楽を聴いているような気分にひたれます。

自然音・生活音で楽しむ

自然の中で、または季節を感じながら音楽を聴く感覚を楽しめます。付属のCDに収録されている、お好みの「自然音」・「生活音」をオムニスピーカーから再生し、メインスピーカーから、聴きたい音楽を再生します。

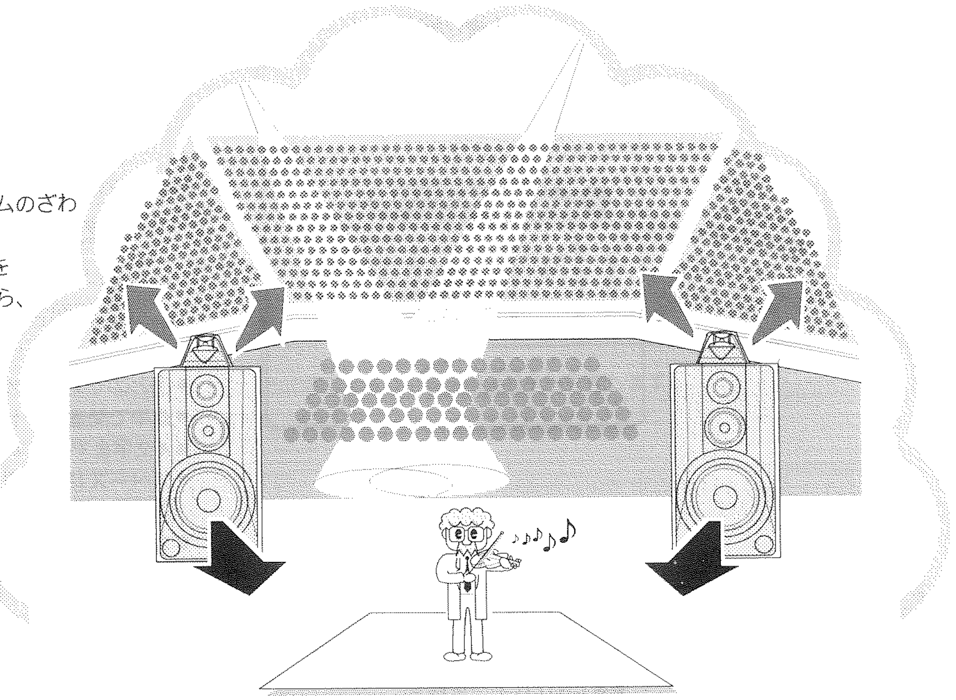


臨場音で楽しむ

コンサートホールやジャズクラブ、またはスタジアムのざわめきや歓声が、音楽を盛り上げます。
付属のCDに収録されている、お好みの「臨場音」をオムニスピーカーから再生し、メインスピーカーから、聴きたい音楽を再生します。

臨場音で楽しむ場合、DSPプレゼンスモードと組み合わせて使うことで、さらにリアルな雰囲気を楽しめます。

→ P.66



付属のCDについて

バーチャルリアリティーサウンドをバックにCDを聴きたいときは、付属のCDからテープに、お好みのトラックを録音してください。録音したテープをオムニスピーカーから再生し、お好きなCDの曲をメインとして再生できます。録音するときにCDプレーヤーのリピート機能を利用すると、同じバーチャルリアリティーサウンドを何回も続けて録音できます。

→ P.24 リピート → P.36 録音

バーチャル・リアリティー・サウンドを体験する

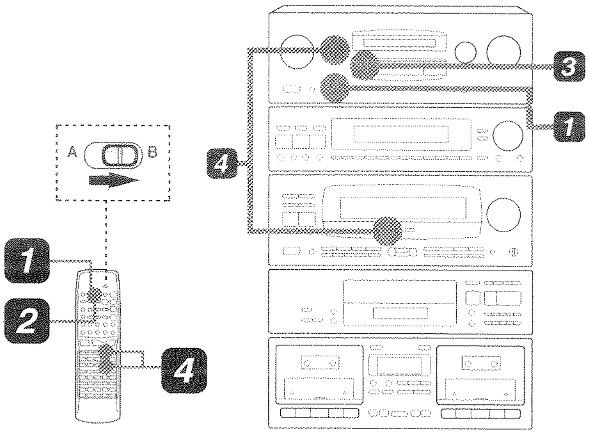
準備しましょう

- メインインプットで放送を受信するか、CDまたはカセットテープを再生します。

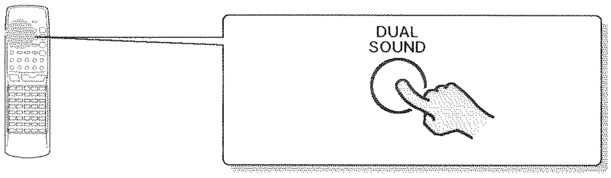
→P.20 CD →P.26 テープ →P.30 放送

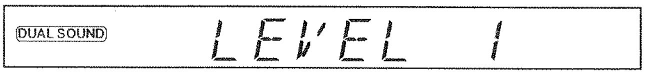
- DSPプレゼンスモードをOFFにします。

DSPプレゼンスモードと組み合わせて使うときは、"臨場音プラスバーチャルリアリティーサウンドを体験する"をごらんください。 →P.66



1 デュアルサウンドをONにする

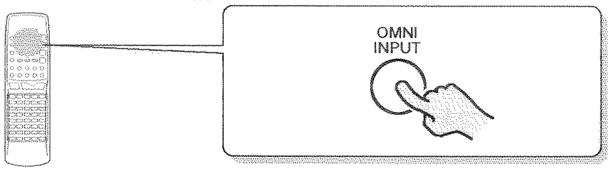




押すたびに切換わります

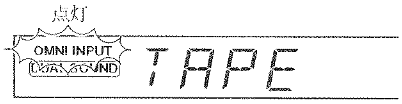
①LEVEL 1（環境音の音量：小）
②LEVEL 2（環境音の音量：中）
③LEVEL 3（環境音の音量：大）
④LEVEL表示なし（環境音を出力しない） "DUAL SOUND"消灯

2 バーチャルリアリティーサウンドを再生する機器を選ぶ



押すたびに切換わります。

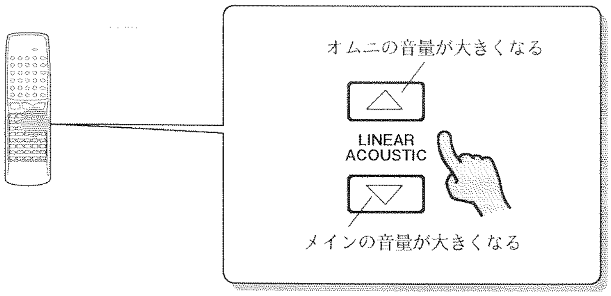
①CD/LD
②TAPE
③MD/DAT
④AV AUX



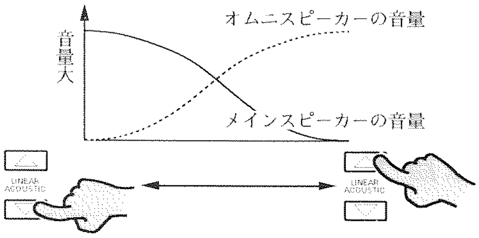
- "DUAL SOUND"表示の消灯中には、オムニ入力は選べません。

3 バーチャルリアリティーサウンドを再生する

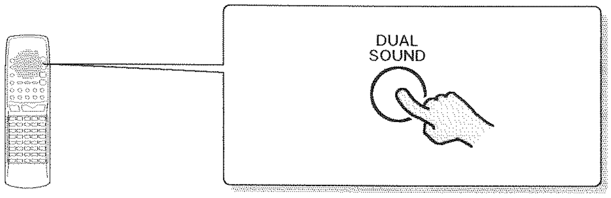
4 音量のバランスを調節する



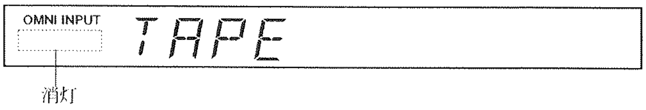
- LINEAR ACOUSTICキーで、メインスピーカーとオムニスピーカーの音量バランスを設定してください。



解除するには



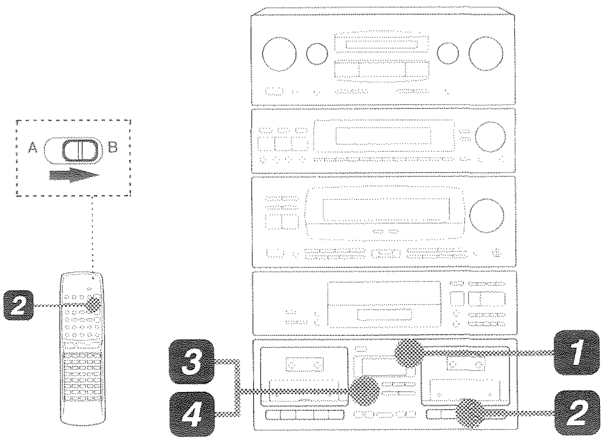
- DUAL SOUNDキーを押して、"DUAL SOUND"表示を消灯させます。



録音のしかた (Bデッキのみ)

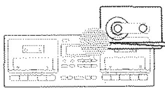
本機はオートバイアス、DOLBY HX Pro headroom extension を搭載しています。カンタンな操作できれいに録音できます。

音にイコライザーやプレゼンスの効果をかけると、効果のかかった音が録音されます。 →P.54
バーチャルリアリティーサウンド機能を使うと、メイン入力とオムニ入力をミックスした録音ができます。CDとチューナー、あるいは接続した外部機器との組み合わせでお楽しみください。このとき、録音する機器は、メイン入力、またはオムニ入力で選ばないでください。 →P.34

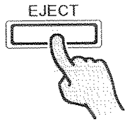


録音の準備をしましょう

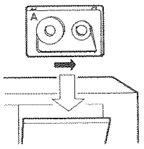
1 Bデッキにテープを入れる



❶ Bデッキのドアを開く



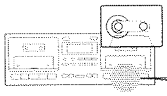
❷ テープを入れる



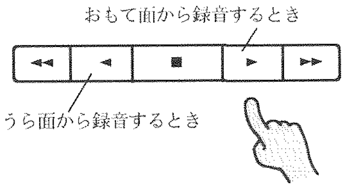
❸ ドアを閉める

- LINEAR ACOUSTIC つまみは、中央にセットしておいてください。
- ノーマル、クローム、メタルのテープ種別は、自動設定されます。
- テープは、たるみのない状態で入れてください。
- マイクを使わない場合は、MIC MIXING つまみを左いっぱいに回しておいてください。
- BALANCE つまみは、中央にセットしておいてください。
- N.B. CIRCUIT は OFF にしておいてください。

2 テープの進む向きを選ぶ



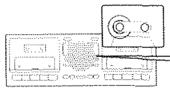
❶ ▶または◀キーを押す



❷ ■キーを押す

- 録音を始めると、このとき選んだ方向にテープが進みます。
- テープの頭出し(録音を始める位置をさがすこと)をしておきます。

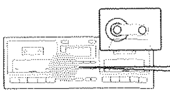
3 録音モードを選ぶ

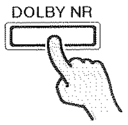


押すたびに表示部のマークが切換わります。

① "⊂⊃"…(この場合、両面を録音して止まります。)
② "⊏"…片面を録音して止まる
③ "⊐"…両面を録音して止まる

4 DOLBY NR(ドルビー ノイズ リダクション)を選ぶ





押すたびに切換わります。

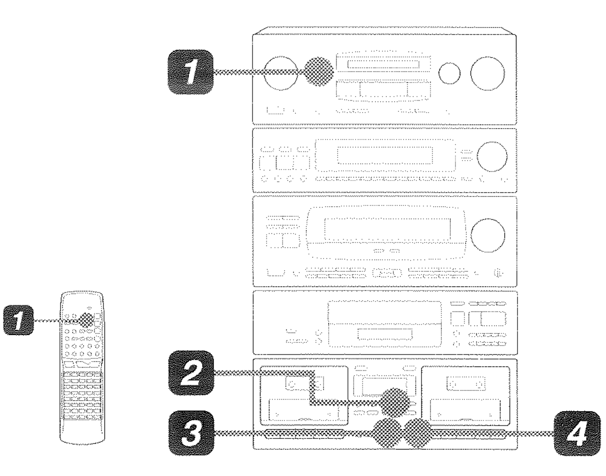
① 消灯……………………………DOLBY NR を使わない
② DOLBY NR B ……………一般的なタイプ
③ DOLBY NR C ……………より高性能なタイプ

録音のしかた

準備しましょう

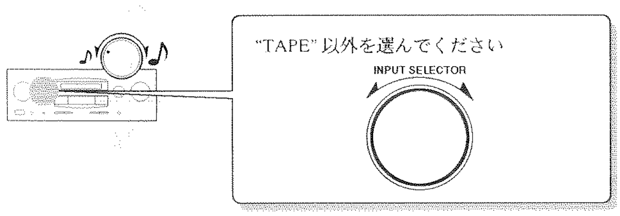
→ P.36

- Bデッキにカセットテープを入れる。
- テープの進む向き(◀ ▶)を選ぶ。
- "⊃"(両面録音)/"＝"(片面録音)を選ぶ。
- ドルビーノイズリダクションを選ぶ。
- (CDプレーヤーにディスクを入れる。)



音にイコライザーやプレゼンスの効果をかけると、効果のかかった音が録音されます。→ P.56

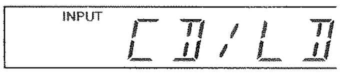
1 何を録音するか選ぶ



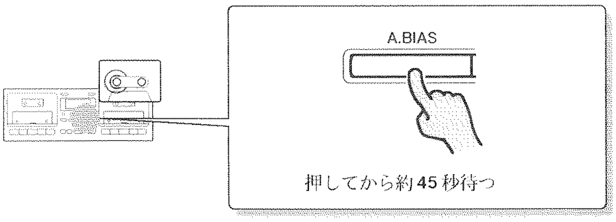
次のように切換わります

① TUNER
② PHONO
③ CD/LD
④ VIDEO
⑤ AV AUX
⑥ MD/DAT
⑦ TAPE A
⑧ TAPE B

録音したい機器名の表示にします

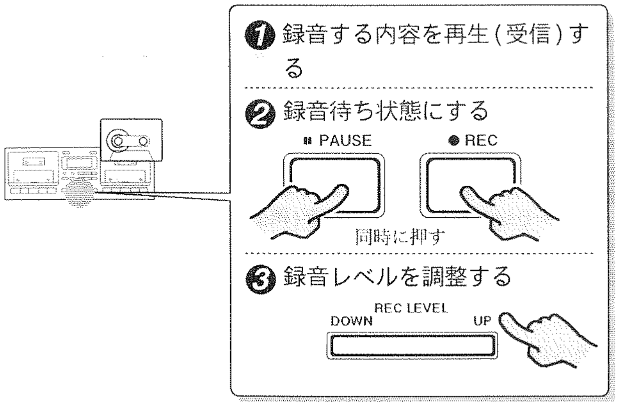


2 バイアスを自動調整する

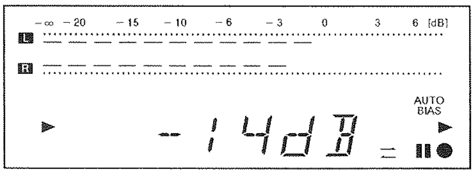


- バイアスの調整とは、そのときセットされているテープの特性を調べて、最もバランスの良い録音ができるように、デッキを調整することです。調整結果は電源をOFFにしたり、Bデッキのドアを開けない限り記憶されているので、録音のやり直しのときは、再調整しなくてもかまいません。
- 約45秒でバイアスの設定が終了し、デッキが停止します。
- バイアス設定を途中でやめるときは、■キーを押します。
- バイアスの設定を省略しても、ノーマル、クローム、メタルの、一般的な設定がセットされているので、録音に支障はありません。
- M.CALLキーを押すと、A.BIASキーで直前に調整されたバイアス値を再設定することができます。

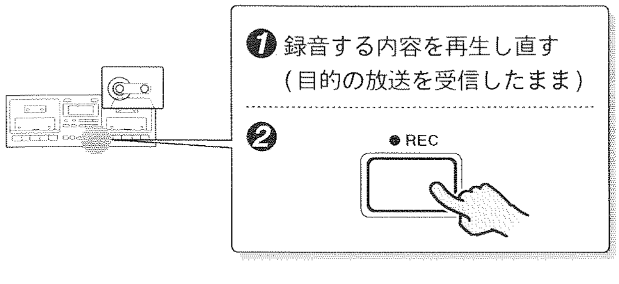
3 録音レベルを調整する



- 録音レベルキーを押すと、約5秒間録音レベルを表示します。
- ピークレベルメーターの0dB付近が、ときどき点灯するように調節します。



4 録音をスタートさせる



CDを録音する場合、デッキが録音待ち状態のときに、CDの再生を開始すると、デッキの録音も自動的に始まります(シンクロ録音機能)

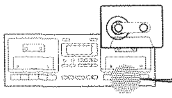
- 録音が始まります。
- 録音する面(片面または両面)が終了すると、自動的に終了します。
- DUAL SOUNDがONでの録音中にLINEAR ACOUSTICつまみを動かすと、録音される音量(またはメイン入力とオムニ入力のバランス)が変化します。

カセットデッキの表示について

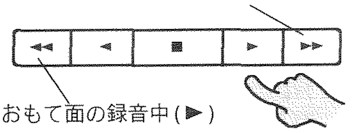
カセットテープが入っているとき、カセットデッキ部の DISPLAY キーを押すたびに、カセットデッキの表示が切り換わります。

①	COUNTER A 0000	Aデッキ用カウンター表示
②	COUNTER B 0000	Bデッキ用カウンター表示
③	SOURCE TUNER	入力ソース表示
④	-12dB	録音レベル表示
	(---dB	CCRS録音時は録音レベルは表示されません。)

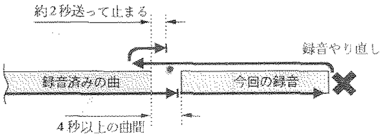
録音をやり直す



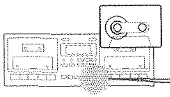
1 録音を中止し、巻き戻す



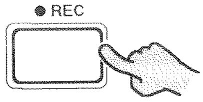
- 録音開始位置の手前に、4秒以上の無音がある場合は、録音を中止し、図のように巻き戻します。



- 録音済みの曲が手前にない場合は、テープを巻き取って止まります。

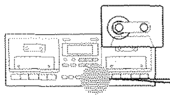


2 ●キーを2回押す

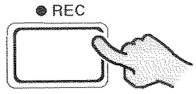


- 約4秒の無音部分を作って停止します。
- テープの最初から録音し直す場合は、リーダーテープ(テープ巻き初めの録音できない部分)を送ってから録音を始めてください。

3 録音したい曲をもう一度再生する。

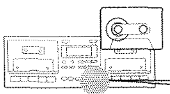


4 ●キーを1回押す



- 録音が始まります。

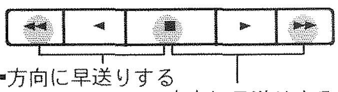
指定した所に戻る



録音(再生)前に C.RESET キーを押して場所を指定しておきます。

- カウンターが"0000"になります。

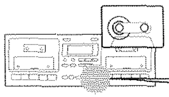
2つのキーを同時に押す

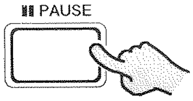


- カウンターの"0000"付近まで早送りして止まります。

テープカウンターについて
テープの途中で録音(再生)を終わりたいときなど、その数字をメモしておくと、次の録音(再生)のときに続きの場所を探す目安になります。

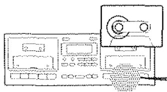
録音を一時停止する(ポーズ)

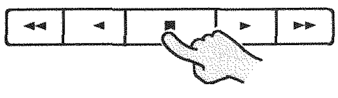




- 録音を再開するときは、●キーを押します。

録音を途中で終了する





ドルビーHX Proとは

DOLBY HX Pro headroom extensionとは、録音中に、録音している音の周波数成分に応じてバイアス電流をコントロールすることで、シンバルなどの高音域を美しく録音するシステムです。本機で録音すると、自動的にこのシステムが働きます。

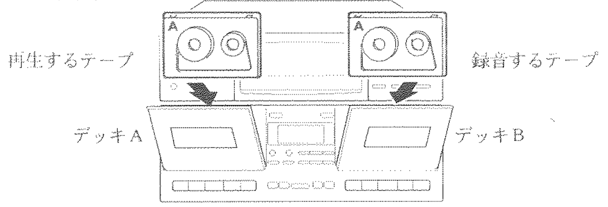
テープをコピーする （ダビング）

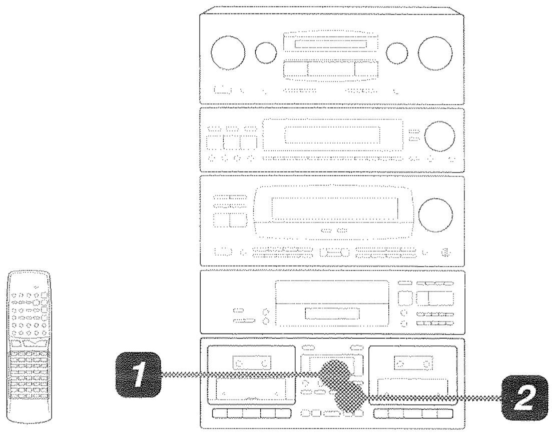
Aデッキにセットしたテープの内容を、Bデッキのテープにコピーします。

準備しましょう

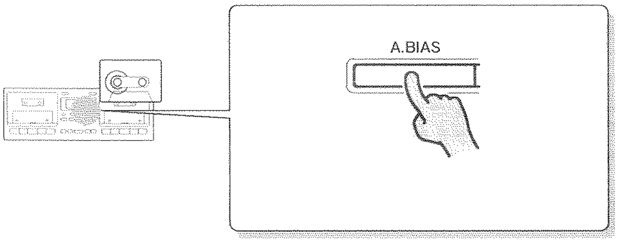
- デッキにカセットテープを入れる。
- テープの進む向き（◀ ▶）を選ぶ。
- "⊃"（両面録音）/"＝"（片面録音）を選ぶ。

→ P.36



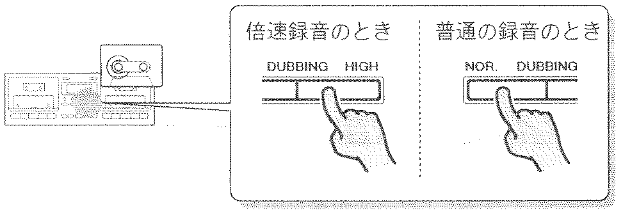


1 バイアスを自動調整する



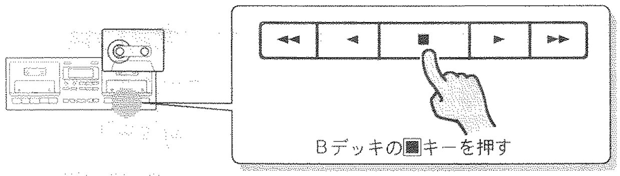
- バイアスの自動調整とは、そのときセットされているテープの特性を調べて、最もバランスの良い録音ができるように、デッキを調整することです。調整結果は、電源をOFFにしたり、Bデッキのドアを開かない限り、記憶されています。
- 約45秒でバイアスの設定が終了し、デッキが停止します。
- バイアス設定を途中でやめるときは、■キーを押します。
- バイアスの設定を省略しても、ノーマル、クローム、メタルの、一般的な設定がセットされているので、録音に支障はありません。
- M.CALLキーを押すと、A.BIASキーで直前に調整されたバイアス値を再設定することができます。

2 ダビングをスタートさせる



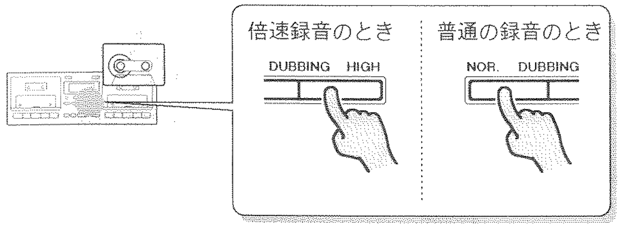
- 倍速録音では、通常の約半分の時間でテープをコピーできます。
- ダビングが始まります。
- ダビングする面（片面または両面）が終了すると、自動的に終了します。

ダビングを止めるには



- Aデッキ、Bデッキとも停止します。

ダビングを一時停止するには



- 普通の速度でダビングしていたときは約4秒間、倍速のときは約6秒間の無音部分を作ってから、Bデッキだけが録音ポーズになります。
- ダビングしたくない曲を飛び越すときは、Aデッキの▶▶キーを押します。
- ダビングを再開始するときは、DUBBING NOR.、DUBBING HIGHのうち、一時停止するときに押したほうのキーを押します。

ご注意

1. ダビングするときは、録音レベルの調節は不要です。
2. ダビングするとき、DOLBY NR キーは働きません。Bデッキで録音されるテープは、Aデッキで再生されているテープと同じDOLBY NRになります。
3. 雑音が入ることがありますので、倍速ダビングするときはTVから離してください。
4. 音質を損なう場合がありますので、大きな録音レベルで録音されたテープをダビングするときは、普通の速度でダビングしてください。

CDの編集録音

テープの長さ(時間)をセットするだけのカンタンな操作で、CDを編集録音する方法です。録音レベルやバイアスの設定はもちろんのこと、テープの折返しや終点での面倒な処理まで、全部まとめてロキシーが引き受けます。(CCRS機能)

編集録音のタイプを選ぶ

複数のCDから1本のテープに録音したい → **マルチディスク編集録音** →P.41 →P.42
- 曲間は?
  - クロスフェード(次の曲が重なる)
  - 無音(ふつう)

録音するテープが短いが、どうしてもCDの全曲を収録したい(最大20曲まで) → **AI編集録音** →P.41 →P.44

曲の変わり目で次の曲の音が重なるように録音したい → **クロスフェード編集録音** →P.41 →P.45
- 曲順は?
  - CDのまま ······· TRACKモード
  - 好きな順 ······· PGMモード

テープの終わりは?

- **テープの終わりで曲が途切れるのは絶対にいやだ**
  - 曲順は?
    - **録音さえできれば特にこだわらない** → **タイム編集録音** →P.41 →P.46
      - 曲間は?
        - クロスフェード(次の曲が重なる)
        - 無音(ふつう)
    - **こだわる** → **イレース編集録音** →P.41 →P.47
      - 曲順は?
        - CDのまま ······· TRACKモード
        - 好きな順 ······· PGMモード
- **曲がプツリと途切れるのでなければ特に気にしない** → **フェード編集録音** →P.41 →P.48
  - 曲順は?
    - CDのまま ······· TRACKモード
    - 好きな順 ······· PGMモード

CCRSとは

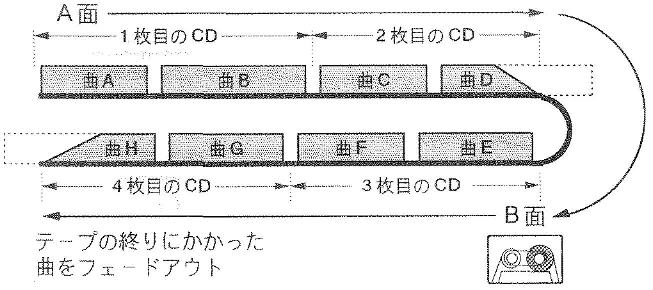
CDをワンタッチでカセットテープに録音する便利な機能です。

CCRSキーを押すと、約90秒間で、CDの内容と、使用するテープの特性を調べて、録音レベルとバイアスが自動的にセットされ、録音が始まります。録音が終了すると、自動的に停止します。CCRSキーを押すと、バーチャルリアリティーサウンドは自動的にOFFになります。

電源をOFFにしたり、Bデッキのドアや CDトレイを開かない限り、セットされた内容を記憶していますので、録り直しのときはすぐに録音が始まります。(記憶中は、"CCRS", "AUTO BIAS"のインジケーターが点灯しています。)

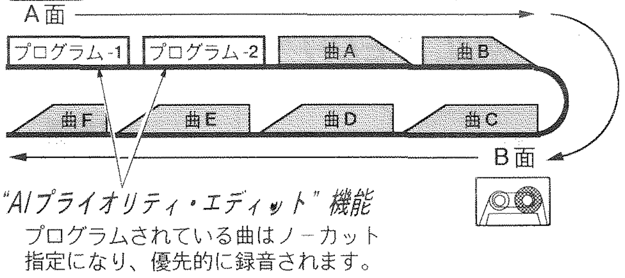
マルチディスク編集録音 →P.42

複数のCDから、好きな曲だけを選んで編集録音します。テープの折返しにかかる曲はフェードアウトされます。



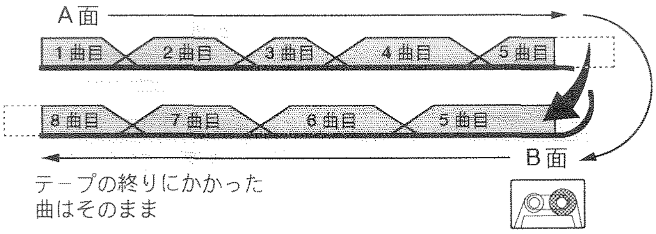
AI編集録音 →P.44

テープの長さがたりないときに、曲の終りをフェードアウトして全曲を録音します。(最大20曲まで)



クロスフェード編集録音 →P.45

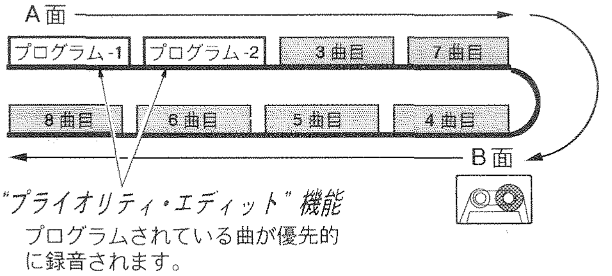
曲間をフェードアウトとフェードインでつなぎ、折返しにかかった曲は、裏面の最初に、もう一度録音されます。



CDの曲順でも、プログラムした曲順でも録音できます。

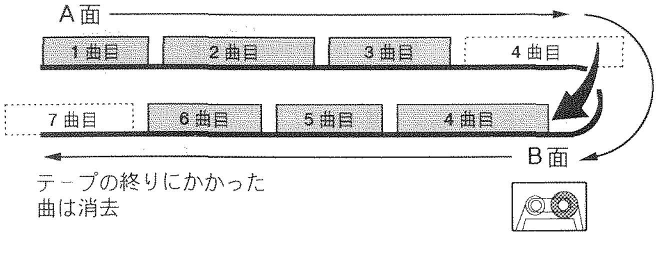
タイム編集録音 →P.46

テープの折返しで曲が途切れないように、曲順を自動的に入れ換えて録音します。



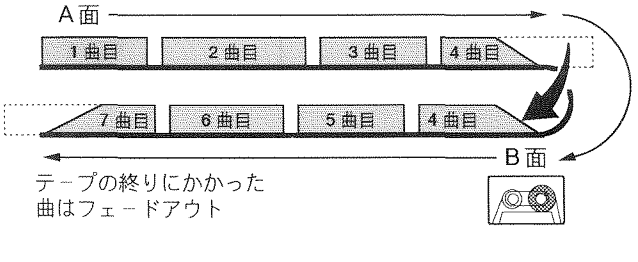
イレース編集録音 →P.47

テープの折返しにかかった曲を消去し、裏面はその曲の最初から録音します。プログラムした曲順で録音することもできます。



フェード編集録音 →P.48

CDの曲順で録音します。テープの折返しにかかる曲をフェードアウトし、裏面はその曲の途中からフェードインします。

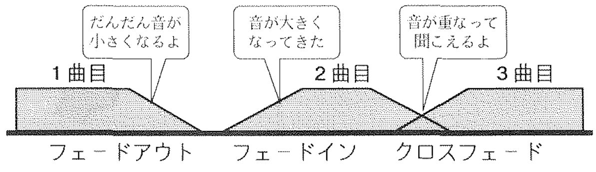


フェードイン/フェードアウトとは

フェードアウト:だんだん音を小さくして曲が終わること

フェードイン　:だんだん音を大きくして曲が始まること

クロスフェード:曲間で音が重なるようにフェードアウトとフェードインを組み合わせること



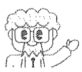
マルチディスク編集録音

2枚以上のCDから、あなたが選んだ曲順で、1本のテープに自動編集録音する方法です。

準備しましょう

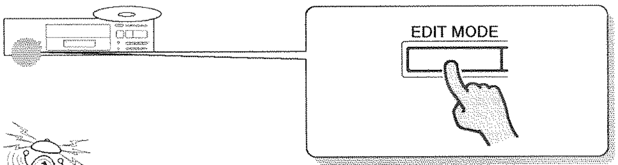
→ P.36

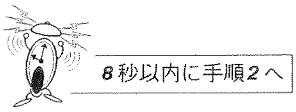
- Bデッキにカセットテープを入れる。
- テープの動く向き(◀ ▶)を確かめる。
- "⊃"(両面録音)を選ぶ。
- ドルビーノイズリダクションを選ぶ。
- CDプレーヤーにディスクを入れる。
- INPUT SELECTORつまみで"CD/LD"を選ぶ。



音にイコライザーやプレゼンスの効果をかけると、効果のかかった音が録音されます。 → P.54
(倍速録音のときはイコライザーをOFFにしてください)

1 "MULTI EDIT"を選ぶ

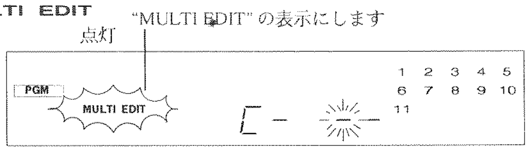




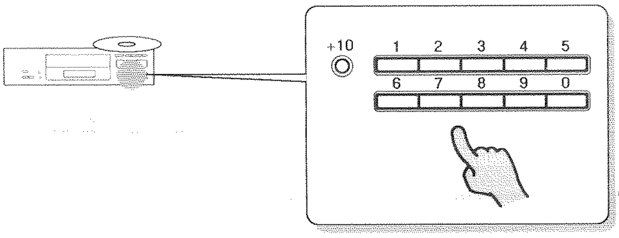
8秒以上たった場合は、もう一度選び直します。

押すたびに切換わります

① EDIT
② AI EDIT
③ MULTI EDIT



2 テープの長さをセットする

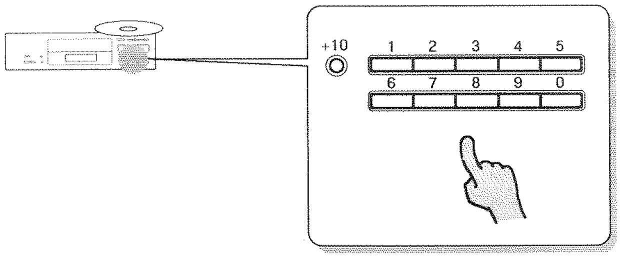


数字キーを押す順序は…

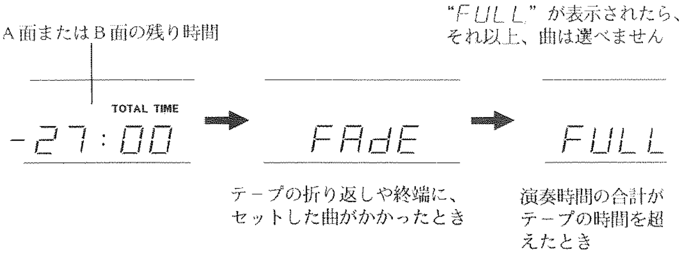
30分テープなら: +10 +10 +10 0
46分テープなら: +10 +10 +10 +10 6

TIME DISPLAYキーを繰り返し押すと、46,54,60,90分テープを簡単に選べます。選んだ後は、EDIT MODEキーを押してから、手順3へ移ります。

3 録音する順に曲を選ぶ（編集する）

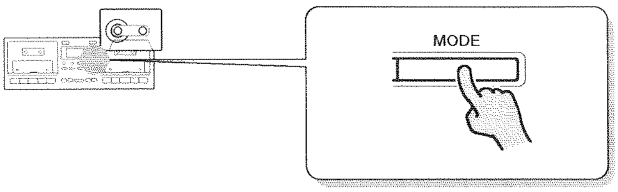


編集した内容を確かめる
編集した内容を取り消す → P.49



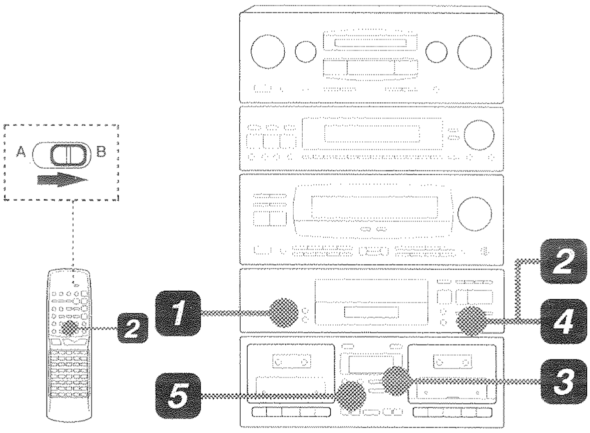
- CD1枚につき、20曲まで選べます。
- "FAdE"と表示された曲は、テープの折り返しでフェードアウトされます。
- 44よりも大きな曲番号は選べません。
- SPACEキーやREPEATキーは働きません。

4 カセットデッキのモードを選ぶ

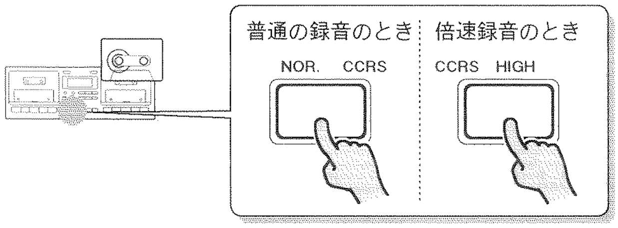


押すたびに切換わります

① FADE ┐
② ERASE ┘ クロスフェード編集録音をしないときに選びます。
③ CROSS — クロスフェード編集録音を合わせてするときに選びます。 → P.45



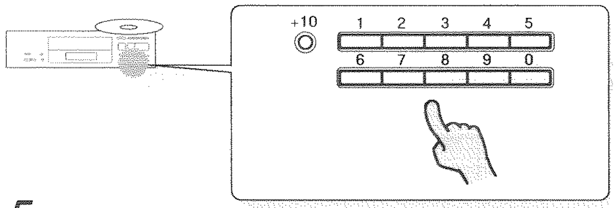
5 編集録音をスタートする



- 約90秒で録音レベルとバイアスの調整が行なわれたのち、録音が始まります。
- 選んだ曲の録音が終わったら、CDプレーヤーのトレイが開きます。次のディスクをセットしましょう。
- 手順4で"CROSS"を選んでいるときは、倍速録音はできません。

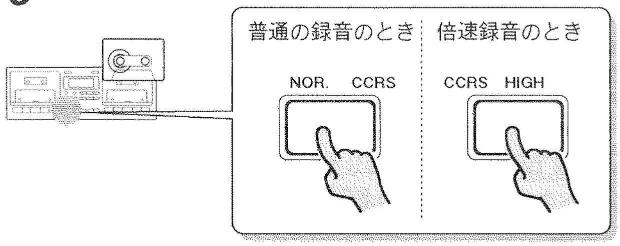
6 ディスクを入れ換え、手順3と5を繰り返す

3



- CDプレーヤー部の表示部にはA面、またはB面の残り時間が表示されます。残り時間を参考にして曲番号を入力してください。
- 曲番号を入力中に"FAdE"と表示された曲はフェードアウトされます。

5



- ディスクを入れ換えて録音を始めるたびに、録音レベルの調整が行なわれます。
- 倍速録音(CCRS)中は、DOLBY NRがOFFになりますので、そのテープを再生するときも、DOLBY NRをOFFにしてください。
- 倍速録音中は、音程も倍になるので、スピーカーから音を出しても音楽として楽しむことはできません。

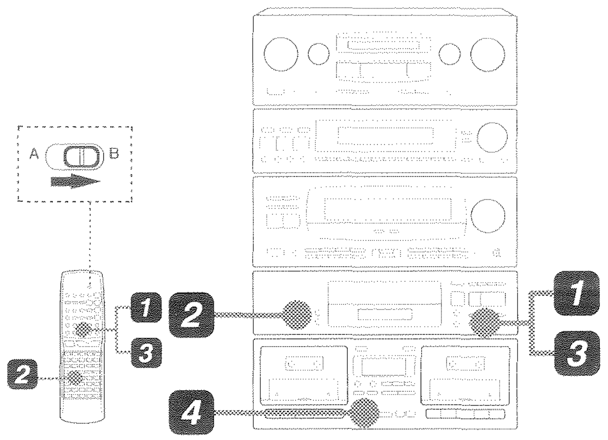
AI編集録音

録音したいCDの収録時間よりもテープが短いとき、各曲の最後をフェードアウトで短くカットして、全曲を録音します(最大20曲まで)。お気に入りの何曲かをプログラムしておけば、その曲はノーカットとなり、最初に録音されます。(AI プライオリティ・エディット機能)

準備しましょう

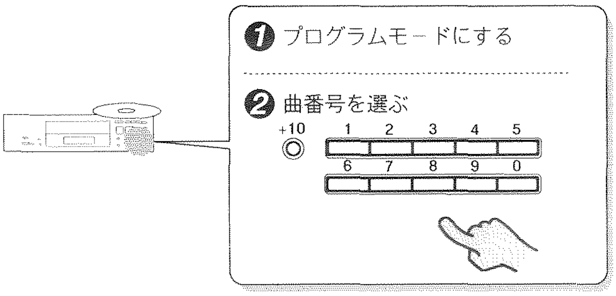
→P.36

- Bデッキにカセットテープを入れる。
- テープの動く向き(◀ ▶)を確かめる。
- "⊃"(両面録音)を選ぶ。
- ドルビーノイズリダクションを選ぶ。
- CDプレーヤーにディスクを入れる。
- INPUT SELECTORつまみで"CD/LD"を選ぶ。



音にイコライザーやプレゼンスの効果をかけると、効果のかかった音が録音されます。 →P.54
(倍速録音のときはイコライザーをOFFにしてください)

1 ノーカットにする曲を選ぶ(AIプライオリティ・エディット)
(必要のないときは、手順2へ)



- "PGM"の点灯を確かめてください。

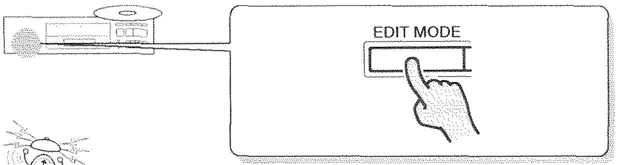
数字キーを押す順序は...

2、5、25曲目を選ぶとき:[2] [5] [+10] [+10] [5]

編集した内容を確かめる
編集した内容を取り消す →P.49

- 44よりも大きな曲番号は選べません。
- [SPACE]キーと[REPEAT]キーは働きません。

2 "AI EDIT"を選ぶ



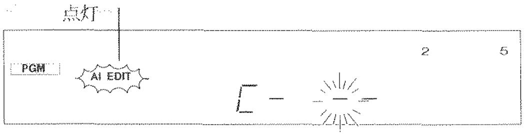
8秒以内に手順3へ

8秒以上たった場合は、もう一度選び直します。

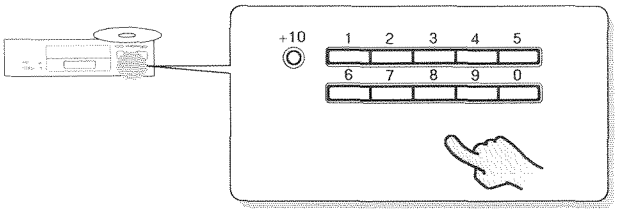
押すたびに切換わります

→① EDIT
② AI EDIT
③ MULTI EDIT

"AI EDIT"の表示にします



3 テープの長さをセットする



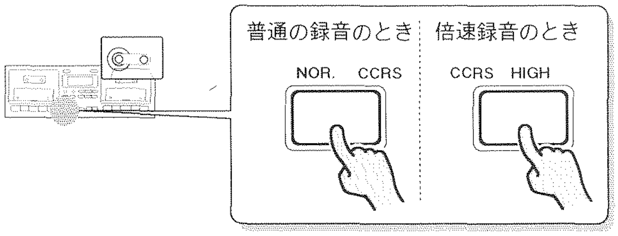
数字キーを押す順序は...

30分テープなら: [+10] [+10] [+10] [0]
46分テープなら: [+10] [+10] [+10] [+10] [6]

[TIME DISPLAY]キーを繰り返し押すと、46,54,60,90分テープを簡単に選べます。選んだ後は、[EDIT MODE]キーを押してから、手順4へ移ります。

- A面、B面の自動編集が行われます。編集が終了すると、"AI EDIT"の表示が点滅から点灯に変わります。
- 極端に短い時間を指定すると、編集されなかったり、ノーカット指定曲がフェードアウトされる場合があります。

4 編集録音をスタートする



- 約90秒で録音レベルとバイアスの調整が行なわれたのち、録音が始まります。
- テープの長さに余裕があるときは、全曲ともノーカットで録音されます。
- 録音が終了すると、自動的に停止します。
- 倍速録音(CCRS)中は、DOLBY NRがOFFになりますので、そのテープを再生するときも、DOLBY NRをOFFにしてください。
- 倍速録音中は、音程も倍になるので、スピーカーから音を出しても音楽として楽しむことはできません。
- クロスフェード編集と組み合わせることはできません。

CDの編集録音

クロスフェード編集録音

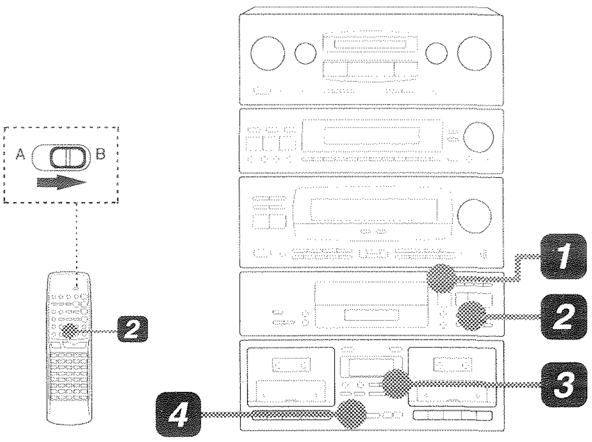
曲と曲の間をクロスフェードさせ、曲の切れめのない編集録音をします。マルチディスク編集、タイム編集と組み合わせて使うことができます。

準備しましょう

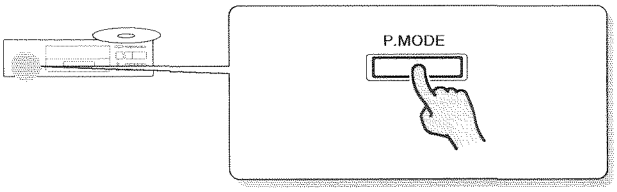
→P.36

- Bデッキにカセットテープを入れる。
- テープの動く向き(◀ ▶)を確かめる。
- "⊃"(両面録音)/"＝"(片面録音)を選ぶ。
- ドルビーノイズリダクションを選ぶ。
- CDプレーヤーにディスクを入れる。
- INPUT SELECTORつまみで"CD/LD"を選ぶ。

音にイコライザーやプレゼンスの効果をかけると、効果のかかった音が録音されます。 →P.54



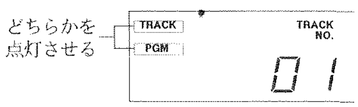
1 CDプレーヤーの再生モードを選ぶ



押すたびに切換わります。

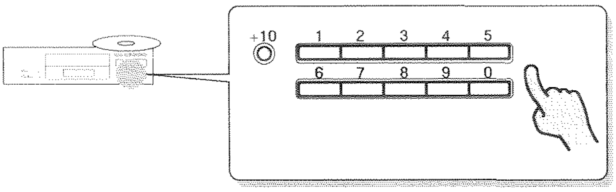
CDの曲順のままで録音するとき➡トラック TRACK モード

お好みの曲順で録音するとき➡プログラム PGM モード



2 録音する順に曲を選ぶ（編集する）

（TRACKモードのときは、手順3へ）

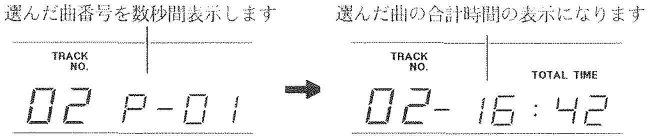


編集した内容を確かめる

編集した内容を取り消す →P.49

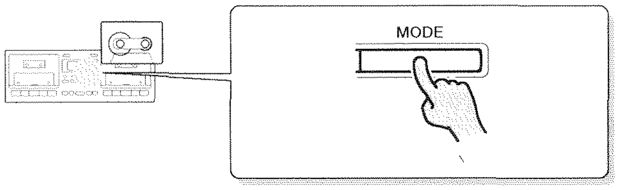
数字キーを押す順序は……… 2、5、25曲目を選ぶとき:

2 5 +10 +10 5



- 20曲まで選べます。21曲になると、"FULL"と表示します。
- 間違えたときは、CLEARキーを押してから、選び直してください。
- トレイを開けた状態で、ディスクラベルを見ながら選ぶこともできます。
- 44よりも大きな曲番号を選んだときは、ディスク全体の残り時間が表示されません。

3 "CROSS" を選ぶ

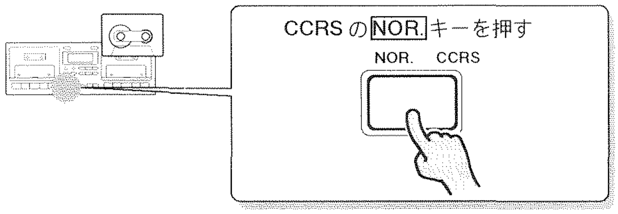


押すたびに切換わります

① FADE
② ERASE
③ CROSS

- マルチディスク編集、タイム編集のときに、CROSSを選ぶと、クロスフェード編集と組み合わせて録音することができます。

4 編集録音をスタートする



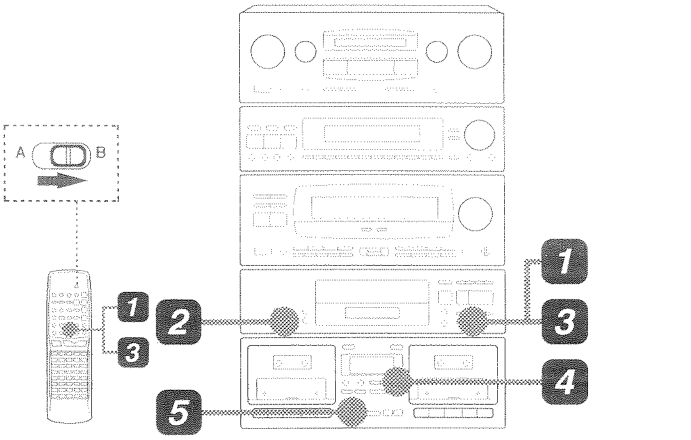
- 倍速録音はできません。
- 約90秒で録音レベルとバイアスの調整が行なわれたのち、録音が始まります。
- 倍速録音(CCRS)中は、DOLBY NRがOFFになりますので、そのテープを再生するときも、DOLBY NRをOFFにしてください。

ご注意

1. もともとフェードアウト/フェードインされている曲をクロスフェード録音すると、曲間があいてしまう場合があります。
2. マルチディスク編集、タイム編集とクロスフェード編集録音を組み合わせた場合、曲間がクロスフェードで重なるぶんだけ、A, B面終端のあき時間が増えます。

タイム編集録音

テープの録音時間を指定すると、テープの折り返しや終端で曲がとぎれないように、自動的に曲順を入れ換えて録音します。
お気に入りの何曲かをプログラムしておけば、その曲は最初に録音されます。(プライオリティ・エディット機能)

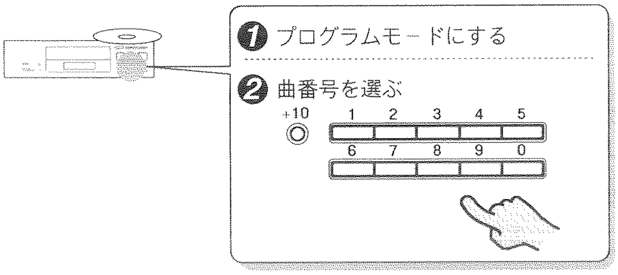


準備しましょう →P.36

- Bデッキにカセットテープを入れる。
- テープの動く向き(◀ ▶)を確かめる。
- "⊃"(両面録音)を選ぶ。
- ドルビーノイズリダクションを選ぶ。
- CDプレーヤーにディスクを入れる。
- INPUT SELECTORつまみで"CD/LD"を選ぶ。

音にイコライザーやプレゼンスの効果をかけると、効果のかかった音が録音されます。 →P.54
(倍速録音のときはイコライザーをOFFにしてください)

1 最初に録音したい曲を選ぶ(プライオリティ・エディット)(必要のないときは、手順2へ)



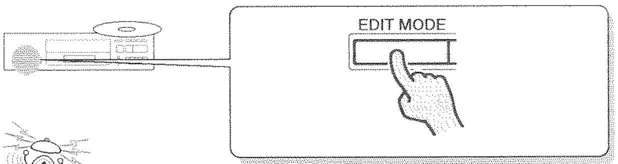
- オートスペース機能を使うときは、SPACEキーを押しておきます。
- "PGM"の点灯を確かめてください。

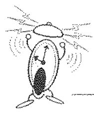
数字キーを押す順序は……… 2、5、25曲目を選ぶとき:
2 5 +10 +10 5

編集した内容を確かめる
編集した内容を取り消す →P.49

- 44よりも大きな曲番号は選べません。
- REPEATキーは働きません。

2 "EDIT"を選ぶ

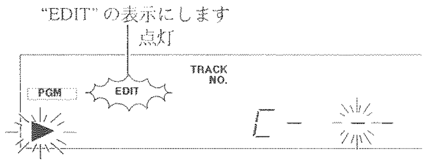




8秒以内に手順3へ

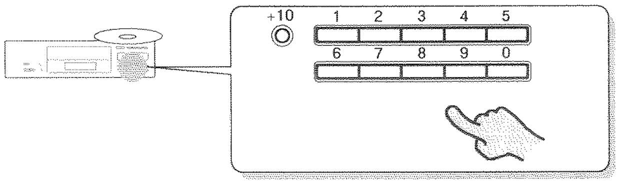
8秒以上たった場合は、もう一度選び直します。

押すたびに切換わります
→ ① EDIT
② AI EDIT
③ MULTI EDIT



- オートスペースを解除するときは、P.MODEキーを押し、最初からやり直します。

3 テープの長さをセットする

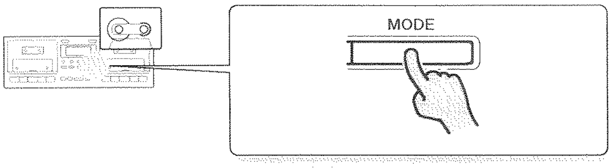


数字キーを押す順序は… 30分テープなら: +10 +10 +10 0
46分テープなら: +10 +10 +10 +10 6

- A面、B面の自動編集が行われます。編集が終了すると、"EDIT"の表示が点滅から点灯に変わります。
- 他の曲順にしたいときは、"EDIT"表示が点灯になってから、もう一度EDIT MODEキーを押します。"SUFFLE"が点灯し、曲順が再編集されます。

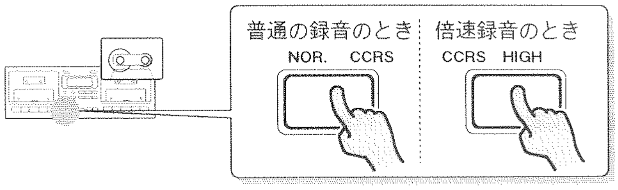
TIME DISPLAYキーを繰り返し押すと、46,54,60,90分テープを簡単に選べます。

4 カセットデッキのモードを選ぶ



押すたびに切換わります
→ ① FADE
② ERASE — クロスフェード編集録音をしないときに選びます。
③ CROSS — クロスフェード編集録音を合わせてするときに選びます。 →P.45

5 編集録音をスタートする



- 約90秒で録音レベルとバイアスの調整が行なわれたのち、録音が始まります。
- 録音が終了すると、自動的に停止します。
- 倍速録音(CCRS)中は、DOLBY NRがOFFになりますので、そのテープを再生するときも、DOLBY NRをOFFにしてください。
- 倍速録音中は、音程も倍になるので、スピーカーから音を出しても音楽として楽しむことはできません。
- 手順4で"CROSS"を選んでいるときは、倍速録音はできません。

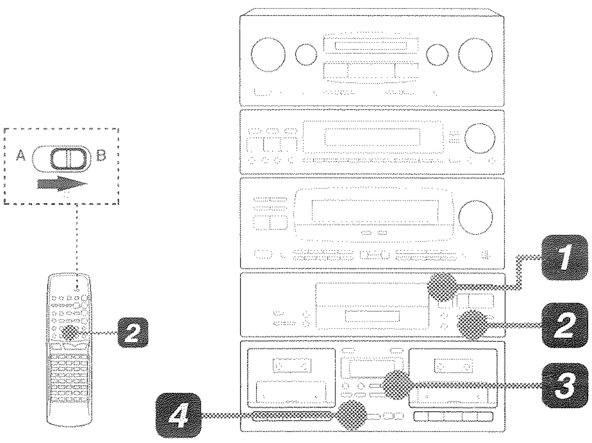
イレース編集録音

テープの折返しにかかった曲を消去し、裏面はその曲の最初から録音します。プログラムした曲順で録音することもできます。

準備しましょう

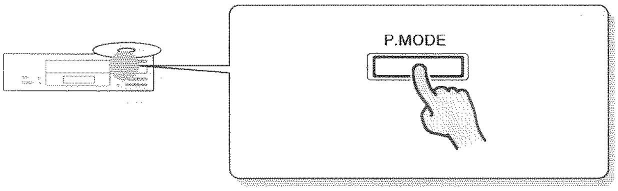
- Bデッキにカセットテープを入れる。
- テープの動く向き(◀ ▶)を確かめる。
- "⊃"(両面録音)/"="(片面録音)を選ぶ。
- ドルビーノイズリダクションを選ぶ。
- CDプレーヤーにディスクを入れる。
- INPUT SELECTORつまみで"CD/LD"を選ぶ。

→P.36



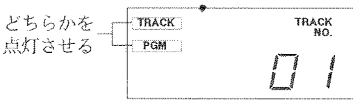
音にイコライザーやプレゼンスの効果をかけると、効果のかかった音が録音されます。→P.54
(倍速録音のときはイコライザーをOFFにしてください)

1 CDプレーヤーの再生モードを選ぶ

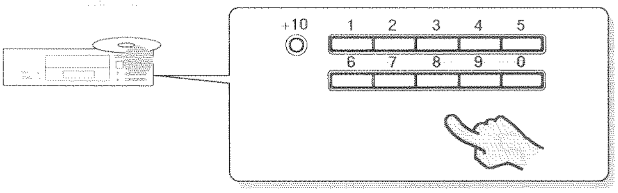


押すたびに切換わります。

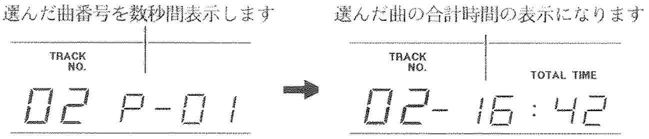
CDの曲順のままで録音するとき➡トラック TRACK モード
お好みの曲順で録音するとき➡プログラム PGM モード



2 録音する順に曲を選ぶ(編集する)
(TRACKモードのときは、手順3へ)



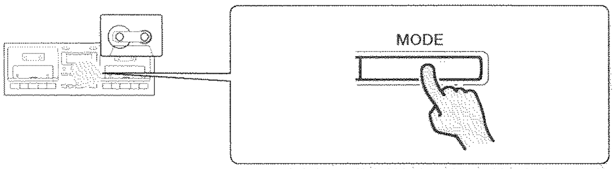
数字キーを押す順序は……… 2、5、25曲目を選ぶとき:
2 5 +10 +10 5



編集した内容を確かめる
編集した内容を取り消す→P.49

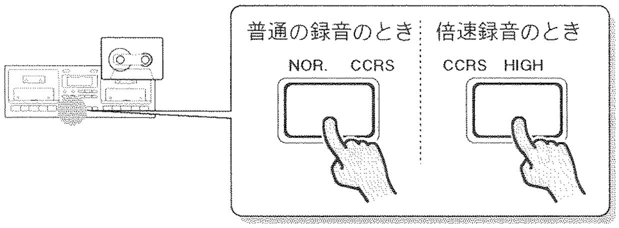
- 20曲まで選べます。21曲になると、"FULL"と表示します。
- 間違えたときは、CLEARキーを押してから、選び直してください。
- トレイを開けた状態で、ディスクラベルを見ながら選ぶこともできます。
- 44よりも大きな曲番号を選んだときは、ディスク全体の残り時間が表示されません。

3 "ERASE"を選ぶ



押すたびに切換わります
① FADE
② ERASE
③ CROSS

4 編集録音をスタートする



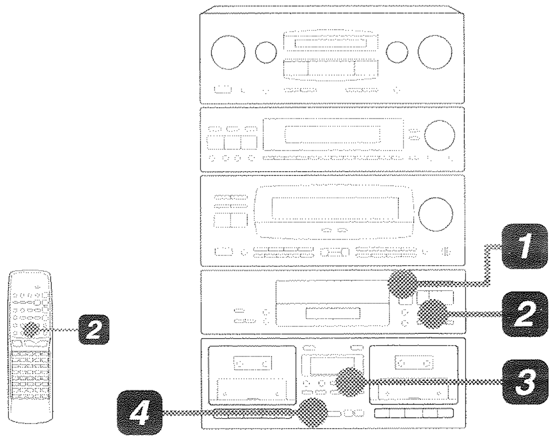
- 約90秒で録音レベルとバイアスの調整が行なわれたのち、録音が始まります。
- 倍速録音(CCRS)中は、DOLBY NRがOFFになりますので、そのテープを再生するときも、DOLBY NRをOFFにしてください。
- 倍速録音中は、音程も倍になるので、スピーカーから音を出しても音楽として楽しむことはできません。

ご注意

1. CDプレーヤーの再生中にCCRSキーを押すと、再生は中止され、CCRS設定(編集録音準備)が始まります。
2. 編集録音するときの録音レベル自動設定には、セットされているCDの、録音レベルの設定に適した部分を利用しています。
3. クラシックなど、1曲が長くてテープ片面に収まらない場合は、編集録音はできません。
4. デッキが片面録音(=)にセットされている場合、テープ折り返し部の処理は、おもて面だけになります。

フェード編集録音

テープの折り返しにかかった曲をフェードアウトし、うら面は、その曲の途中からフェードインします。テープ終端にかかった曲は、フェードアウトされます。



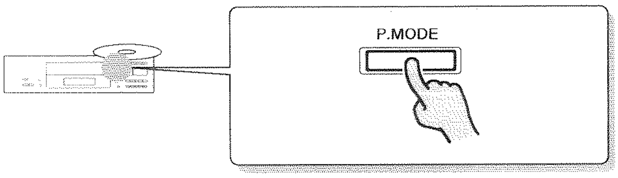
準備しましょう

→P.36

- Bデッキにカセットテープを入れる。
- テープの動く向き(◄ ►)を確かめる。
- "⊃"(両面録音)/"＝"(片面録音)を選ぶ。
- ドルビーノイズリダクションを選ぶ。
- CDプレーヤーにディスクを入れる。
- INPUT SELECTORつまみで"CD/LD"を選ぶ。

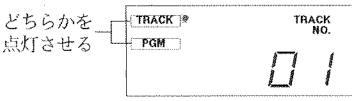
音にイコライザーやプレゼンスの効果をかけると、効果のかかった音が録音されます。 →P.54
(倍速録音のときはイコライザーをOFFにしてください)

1 CDプレーヤーの再生モードを選ぶ

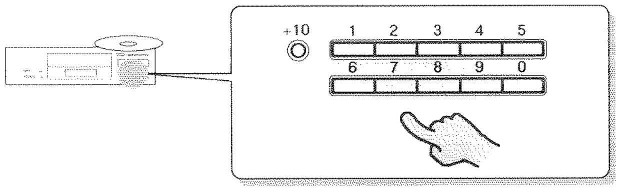


押すたびに切換わります。

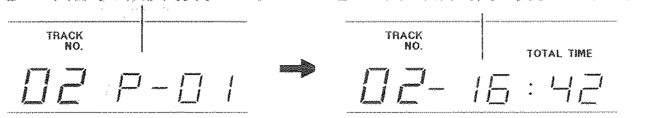
CDの曲順のままで録音するとき➡トラック TRACK モード
お好みの曲順で録音するとき➡プログラム PGM モード



2 録音する順に曲を選ぶ
(TRACKモードのときは、手順3へ)



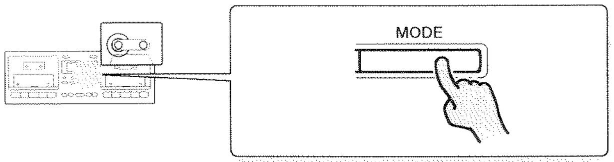
数字キーを押す順序は……… 2、5、25曲目を選ぶとき：
2 5 +10 +10 5



編集した内容を確かめる
編集した内容を取り消す →P.49

- 20曲まで選べます。21曲になると、"FULL"と表示します。
- 間違えたときは、CLEARキーを押してから、選び直してください。
- トレイを開けた状態で、ディスクラベルを見ながら選ぶこともできます。
- 44よりも大きな曲番号を選んだときは、ディスク全体の残り時間が表示されません。

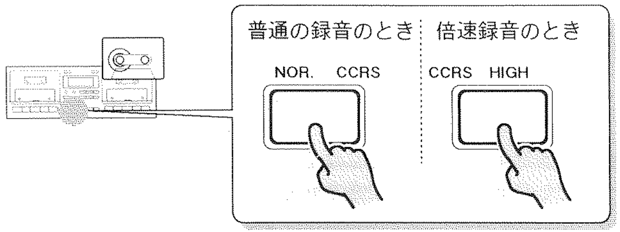
3 "FADE"を選ぶ



押すたびに切換わります

① FADE
② ERASE
③ CROSS

4 編集録音をスタートする

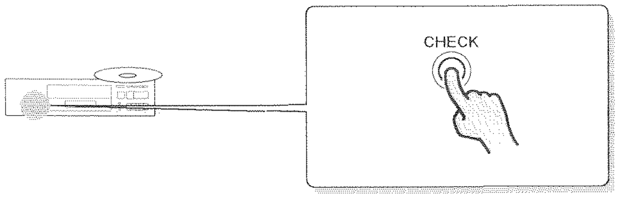


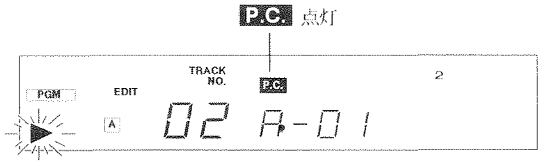
- 約90秒で録音レベルとバイアスの調整が行なわれたのち、録音が始まります。
- 倍速録音(CCRS)中は、DOLBY NRがOFFになりますので、そのテープを再生するときも、DOLBY NRをOFFにしてください。
- 倍速録音中は、音程も倍になるので、スピーカーから音を出しても音楽として楽しむことはできません。

ご注意

1. CDプレーヤーの再生中に CCRS キーを押すと、再生は中止され、CCRS設定(編集録音準備)が始まります。
2. 編集録音するときの録音レベル自動設定には、セットされているCDの、録音レベルの設定に適した部分を利用しています。
3. クラシックなど、1曲が長くてテープ片面に収まらない場合は、編集録音はできません。
4. デッキが片面録音(＝)にセットされている場合、テープ折り返し部の処理は、おもて面だけになります。
5. テープ終端にかかった曲がフェードアウトされるとき、前曲との曲間が短いと、前曲の最後も一部消去されることがあります。

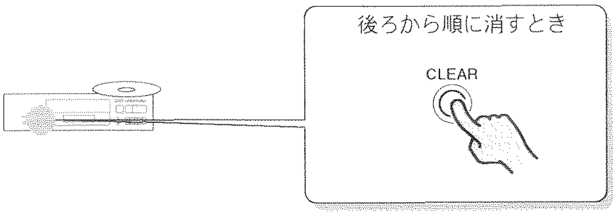
編集した内容を確かめる



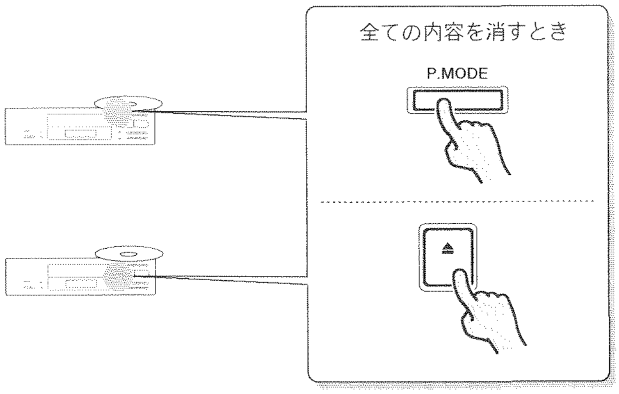


- 上の表示は、タイム編集録音のときの表示例です。
- 押すたびに、編集した曲番号が順に表示されます。
- マルチディスク編集のときは、セットしてあるディスクの内容だけが表示されます。

編集した内容を取り消す



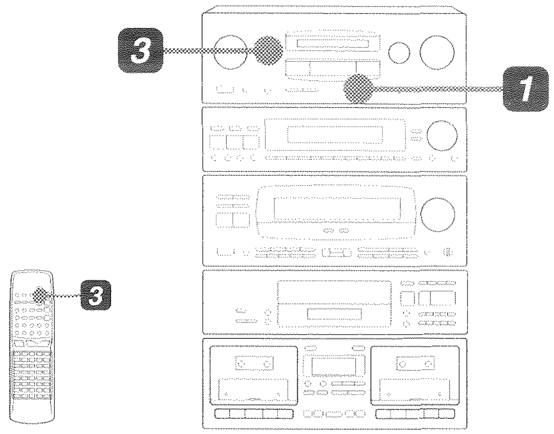
- マルチディスク編集だけの機能です。
- 押すたびに最後の曲から順に消えます。
- 現在セットしてあるディスクの内容だけを消すことができます。



- マルチディスク編集のときは、セットしてあるディスクの内容だけを消します。

CDを録音しながら他のものを聴く

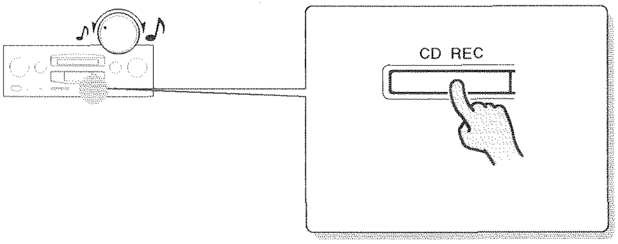
CDを録音しながらラジオ放送を聴いたり、接続した他の機器を使って楽しむことができます。

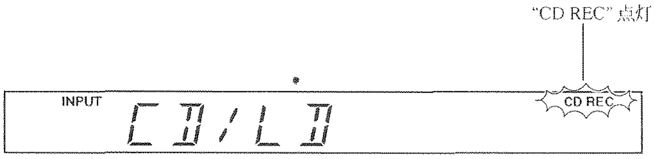


準備しましょう → P.36

- Bデッキにカセットテープを入れる。
- テープの進む向き(◀ ▶)を選ぶ。
- "⊃"(両面録音)/"＝"(片面録音)を選ぶ。
- ドルビーノイズリダクションを選ぶ。
- CDプレーヤーにディスクを入れる。
- INPUT SELECTORつまみで"CD/LD"を選ぶ。

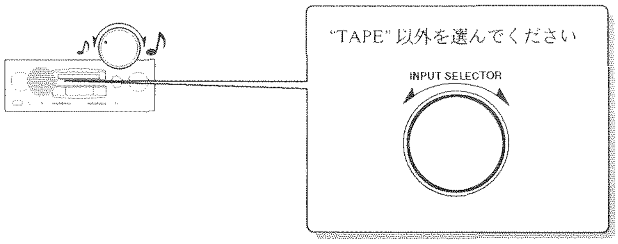
1 CD RECキーを押す

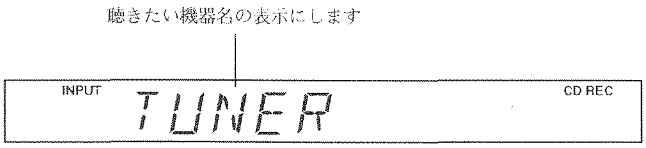




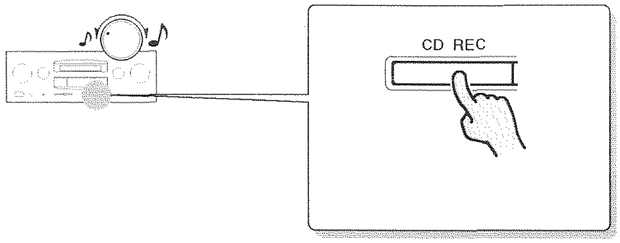
2 CDの録音を始める → P.36

3 聴きたいものを選ぶ





CD RECを解除するには



- 録音インジケーターの点灯中または点滅中には、解除できません。
- CD RECの終了後は、必ずCD RECキーを押してCD RECを解除しておいてください

ご注意 CD RECキーを使って録音する場合、録音される音にグラフィックイコライザー、DSPプレゼンス、またはDUAL SOUNDの効果はかかりません。

カンタン音質調整

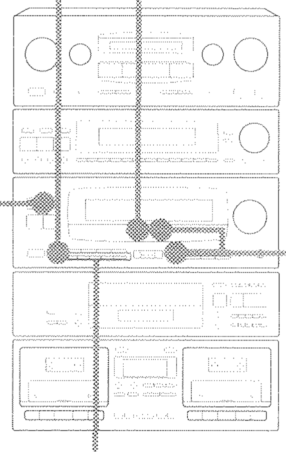
- AI(人工知能)が、あなたが聞きたい音楽に最適な音質を判断します。
- 登録されている15の音質パターンを手軽に呼び出すことができます。
- お好みに合わせて自由に音質を調整できます。またその内容を記憶することができます。
- CDを再生したときにAIが創ったイコライザーカーブを、そのCD専用の設定として記憶し、次回の再生から利用できます。

REC MODE（レック モード）

カーステレオ、ヘッドホンステレオ用のテープを録音するときに最適な音質を選べます。 →P.58

AI AUTO / AI FOCUS（オート／フォーカス）

AI AUTO ： AIが、あなたの聞きたいディスクに最適な音質を創ります。
AI FOCUS： AIが、ディスクのDSPプレゼンス再生のときに最適な音質を創ります。 →P.54



AI LINK（リンク）

DSPプレゼンス音場を選んだとき、最適なイコライザーカーブが自動的に作られます。 →P.64

AI FILE（ファイル）

AI機能により設定されたイコライザーカーブとリニアアコースティックコントロールの状態(メインスピーカーとオムニスピーカーの音量バランス)をCD60枚分まで記憶できます。記憶済のCDを再生するときは、AIによる設定時間(約30秒)が必要ありません。また、DSPプレゼンスモードを選んでいる場合は、ASFC(音の広がりの要素)の値が自動的に設定されます。 →P.55

REFERENCE / MANUAL（リファレンス／マニュアル）

15通りの音質パターンを選べます。
そのうち5パターンには、あなたが作った音質パターンを記憶させることができます。 →P.56

AIとは

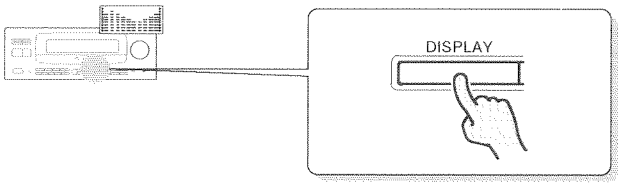
AI（人工知能）： Artificial（アーティフィシャル） Inteligence（インテリジェンス）の略。

デモンストレーションをしてみましょう

このグラフィックイコライザーで聴くことのできる音を順番に再生していきます。音に合わせて、表示も変わります。あなたの目と耳で効果を確かめてみましょう。

1 ききたい音を再生する

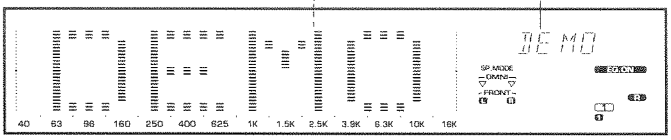
2 "DEMO" を選ぶ



● 押すたびに切換わります。

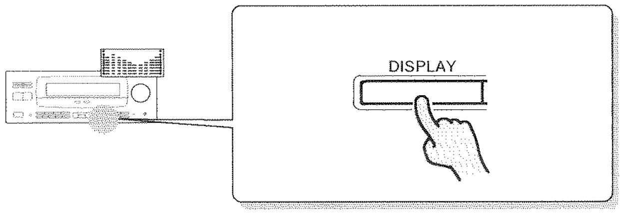
→グラフィックイコライザー → スペクトラムアナライザー → デモンストレーション →

"DEMO" の表示にします。



● 止めるときは、DISPLAYキーを押します。

表示の種類を変える



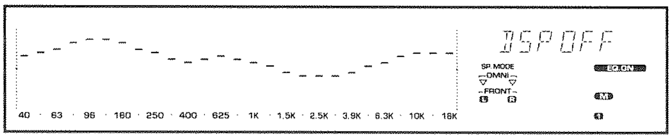
グラフィックイコライザー表示：
各周波数がどのように補正されているかを表示しています。

スペクトラムアナライザー表示：
音に合わせて変化する周波数レベルを表示しています。

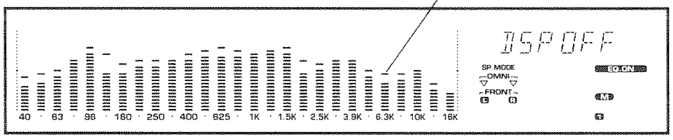
デモンストレーション表示：
イコライザーのカーブが、順に変化していきます。

押すたびに切換わります

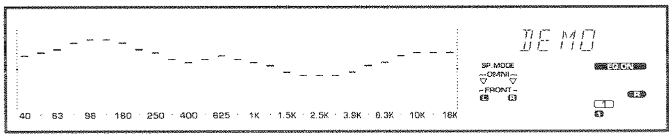
①グラフィックイコライザー表示



②スペクトラムアナライザー表示　　ピークホールド表示

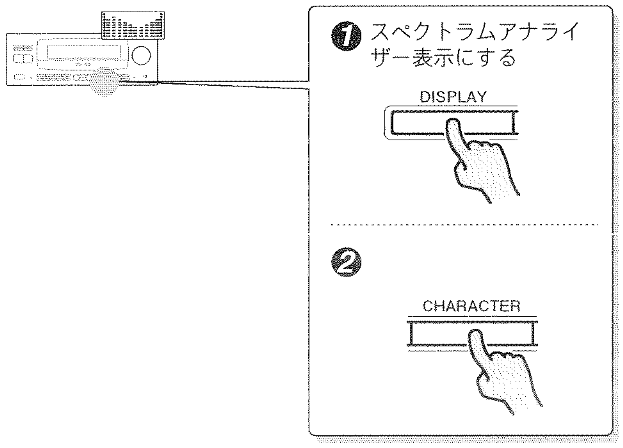


③デモンストレーション表示



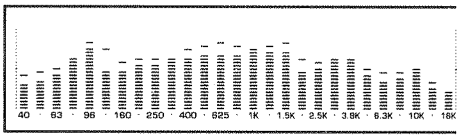
キャラクター表示にする

周波数レベルの変化をいろいろなパターンで楽しむことができます。

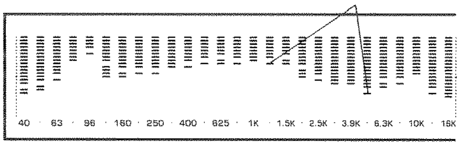


押すたびに切換わります

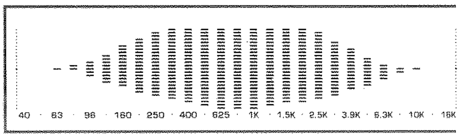
①ノーマル



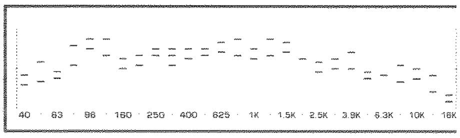
②シャワー　　ピークホールド表示



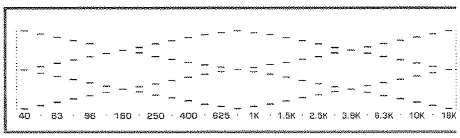
③ホリゾンタル



④シースルー



⑤アニメーション

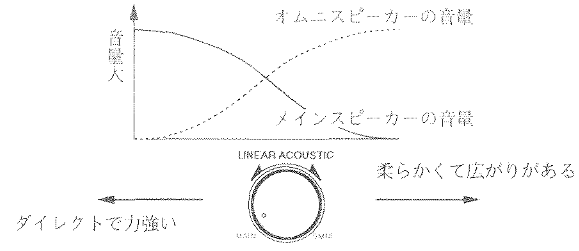


AI AUTO

CDを聴くとき、AIキーを押すと約30秒でCDの収録内容を分析し、最適なイコライザーカーブとリニアアコースティック(メインスピーカーとオムニスピーカーの音量バランス)の値が自動的に設定されます(つまみが回転します)。CDは1曲目から再生されます。

AI FOCUS

AI AUTOの動作に加えて、最適なASFC(音の広がりの要素)の値が自動的に設定されます。

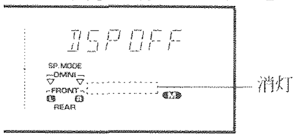


自動的に調整されます。

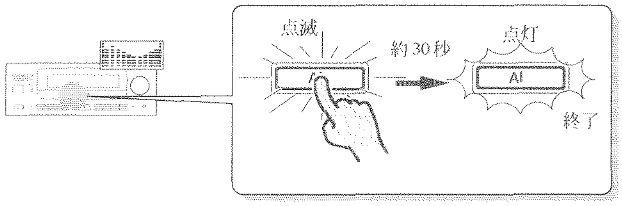
最適な音質でCDを聴く (AI AUTO)

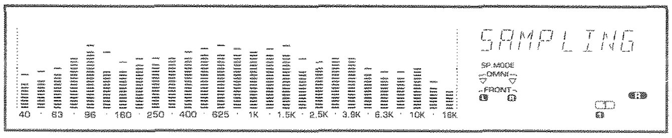
1 CDプレーヤーにディスクを入れる

● "F.2ch"、"F. 4ch"、"S. 4ch"表示が消えていることを確かめます。



2 AIキーを押す





解除するには

設定中: AIキーを押す(AIキー以外は働きません)

● 最後に選んでいたカーブが表示されます。

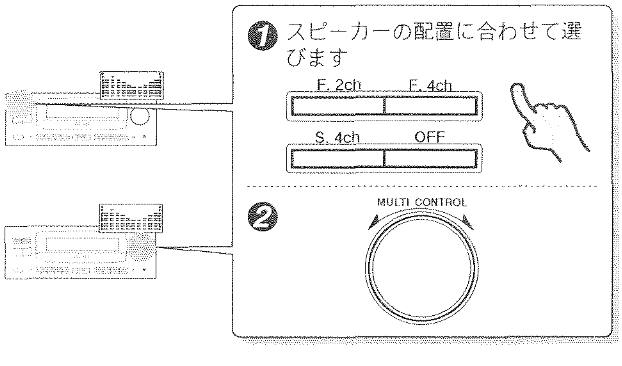
設定後: FLATキーを押す

● イコライザーカーブはフラット(平坦)になります。

臨場感を生かしてCDを聴く (AI FOCUS)

1 CDプレーヤーにディスクを入れる

2 音場を選ぶ

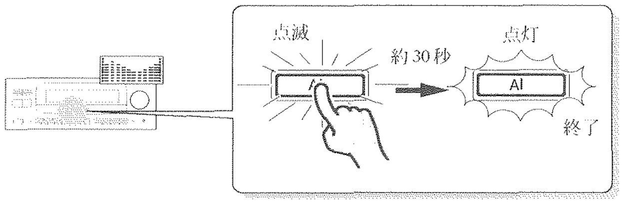


● 音場の選び方については"臨場感のある音楽を楽しむ"をご覧ください。 → P.64

MULTI CONTROLつまみで音場を選びます。

①ARENA
②JAZZ CLUB
③STADIUM
④DISCOTHEQUE
⑤GAME
⑥MOVIE
⑦KARAOKE

3 AIキーを押す



解除するには

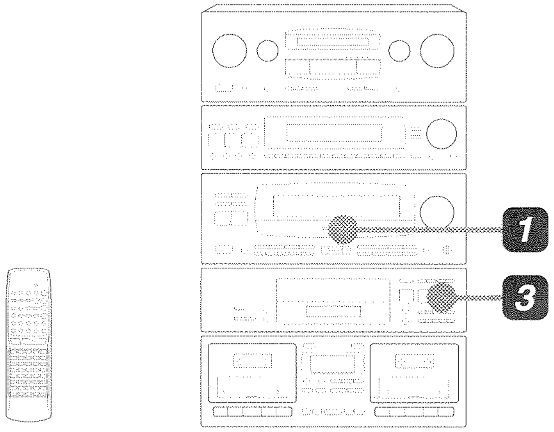
設定中: AIキーを押す(AIキー以外は働きません)

● 最後に選んでいたカーブが表示されます。

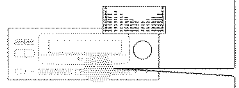
設定後: FLATキーを押す

● イコライザーカーブはフラット(平坦)になります。

AI機能により設定されたグラフイックイコライザーのカーブを、CD60枚ぶんまで記憶させることができます。記憶済みのCDを再生するときには、ワンタッチでイコライザーカーブ、リニアアコースティック、ASFCの再設定ができるので、すぐに再生を始めることができます。



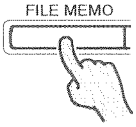
最適なイコライザーカーブを記憶させる (AI FILE)

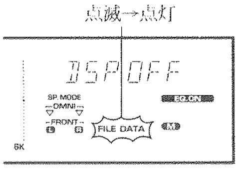


❶ CDをセットする

❷ AIキーを押して、イコライザーカーブを自動設定する(約30秒待つ) →P.54

❸

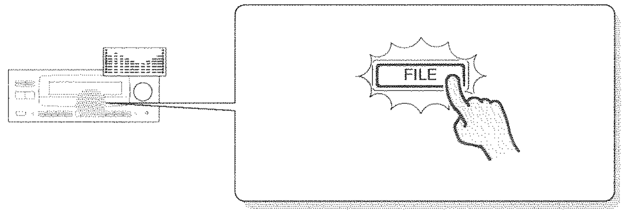




- AI機能により設定されたイコライザーカーブを記憶します。
- CD60枚ぶんまで記憶できます。60枚を超えると、使用頻度の低いCDから順に、記憶が消去されます。(最後に記憶を呼び出した時期を調べて、古い順に記憶が消去されます。)
- FILE DATAインジケータが点灯しないときは、AI機能により設定された情報が記憶されていません。このときは、一度トレイをオープンした後で、最初からやり直してください。

記憶させたイコライザーカーブを呼び出す (AI FILE)

1 FILE(ファイル)機能をONにする

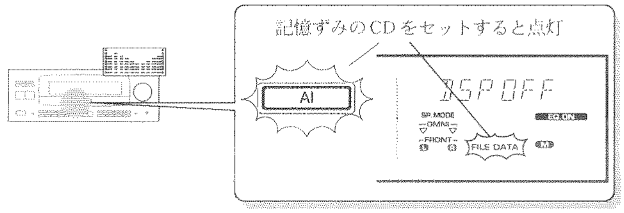


- FILEキーが点灯します。

呼び出したくないときは

FILEキーを押して、FILEキーを消灯させておきます。

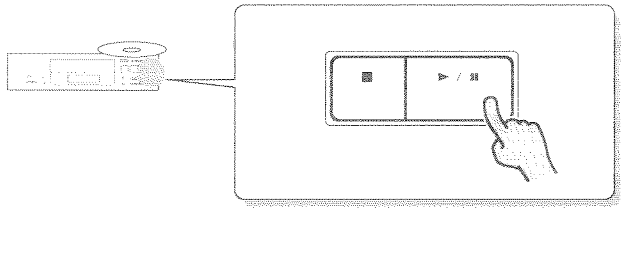
2 記憶済みのCDをセットする



- 記憶されているイコライザーカーブが呼び出されます。
- 最適なリニアアコースティックコントロール(メインスピーカーとオムニスピーカーの音量バランス)が自動的に設定されます。
- プレゼンスモードが選ばれている場合は、ASFC(音の広がりを決める設定要素)も自動設定されます。

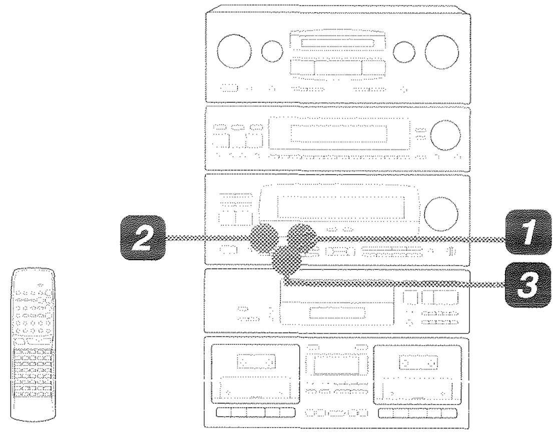
プレゼンスモードで聴きたいときは、CDの再生を始める前に、選んでおきましょう。

3 CDを再生する



お好みの音質で曲を聴く

あらかじめ登録されている15通りのイコライザーカーブを手軽に呼び出すことができます。音質、またはきく音楽のジャンルによりお好みに合わせてご使用ください。

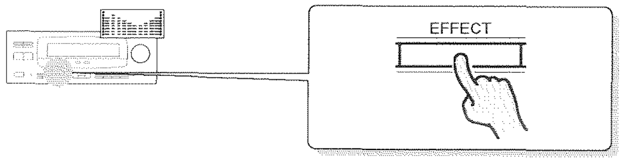


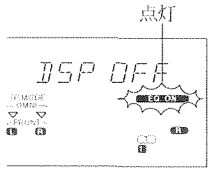
準備しましょう

→P.20 CD
→P.26 テープ
→P.30 放送

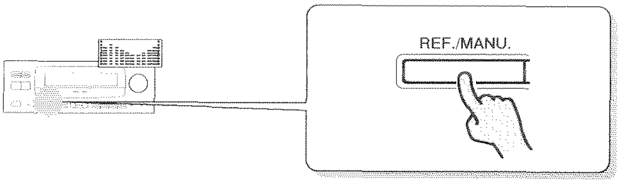
● 放送を受信するか、CDまたはカセットテープを再生します。

1 グラフィックイコライザーをONにする





2 お好みのパターンを選ぶ



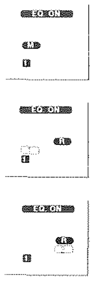
押すたびに切換わります

グラフィックイコライザー表示部

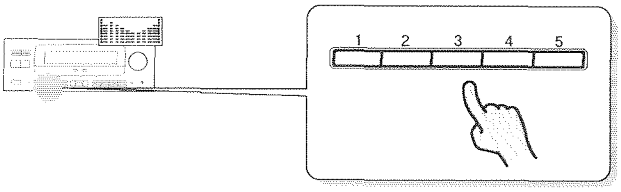
①MANUAL(マニュアル) (クリアー)
各周波数帯を補い、すっきりとした音になります。

②REFERENCE 1(リファレンス) (ベーシック)
適度に低域と高域を強調した音になります。

③REFERENCE 2(リファレンス) (スケール)
各周波数帯を強調したメリハリのある音になります。



3 聞いているジャンルを選ぶ

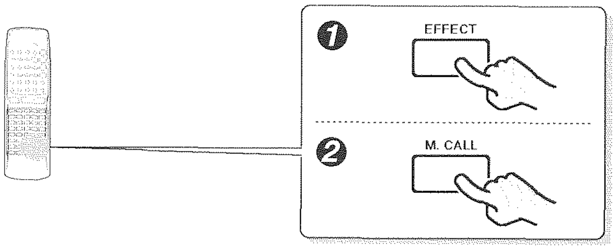


● 聴いている音楽のジャンルや内容に合わせて選んでください。
● "MANUAL", "REFERENCE 1", "REFERENCE 2"の、それぞれに、1~5の種類が用意されています。

1➡ポピュラー、フュージョン
2➡ロック
3➡ジャズ
4➡クラシック
5➡ムービー

● ムービーを選んだときは、他のジャンルを選んだときと効果が異なります。
MANUAL(オールド)‥‥古い映画のノイズを抑えます。
REFERENCE 1(クリアー)‥‥すっきりとした音になります。
REFERENCE 2(スケール)‥‥メリハリのある音になります。

リモコンで選ぶとき



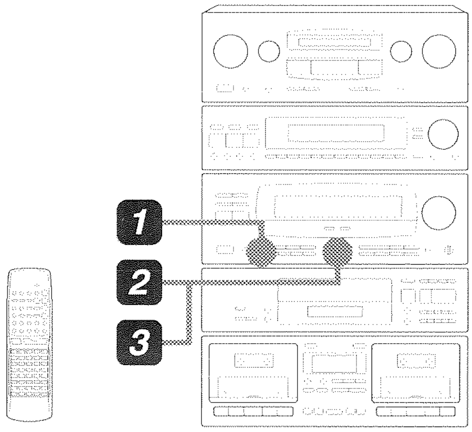
M.CALLキーを押すごとに切り換わります。

①MANUAL(マニュアル)　1➡2➡3➡4➡5
②REFERENCE 1(リファレンス)　1➡2➡3➡4➡5
③REFERENCE 2(リファレンス)　1➡2➡3➡4➡5

解除するには

もう一度EFFECTキーを押す

お好みの音質をつくる

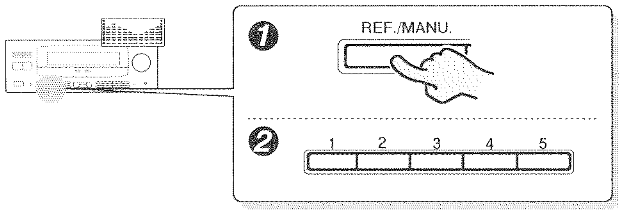


準備しましょう

CD　テープ　放送

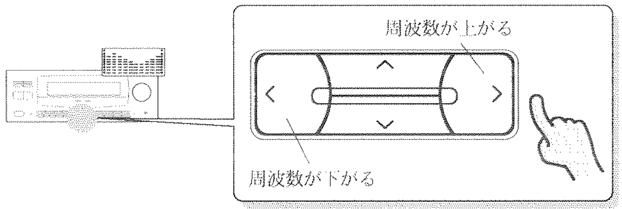
- ききたい音を再生します。→P.20→P.26→P.30
- EFFECTキーを押し、グラフィックイコライザーをオンにします。
- DISPLAYキーでグラフィックイコライザー表示にします。→P.53

1 イコライザーカーブをえらぶ



- 作りたいカーブに近い内容のイコライザーカーブを選びます。
- FLATキーを押すと、平坦な状態からカーブを作ることができます。

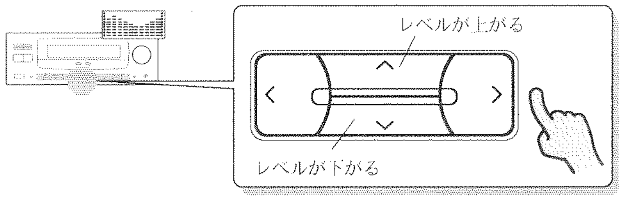
2 調整したい周波数をえらぶ



周波数の特性について

低音域 40~160Hz	低音域の楽器が安定感のある音として響きます。
中音域 250Hz~1.5kHz	歌手の声が前に出たり、奥に引っ込むように聞こえます。
高音域 2.5kHz~6.3kHz	レベルを上げると、バイオリンやフルートの音などがつやのある音になります。
超高音域 10kHz~16kHz	トライアングルや、シンバルなどが響き、繊細感が増します。

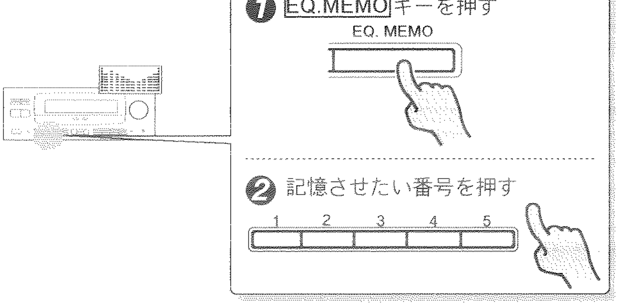
3 レベルを調整する

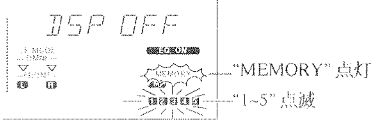


- 他に調整したい周波数があれば2、3の手順を繰り返します。

お好みの音質を記憶させる

作ったイコライザーカーブを記憶させましょう。



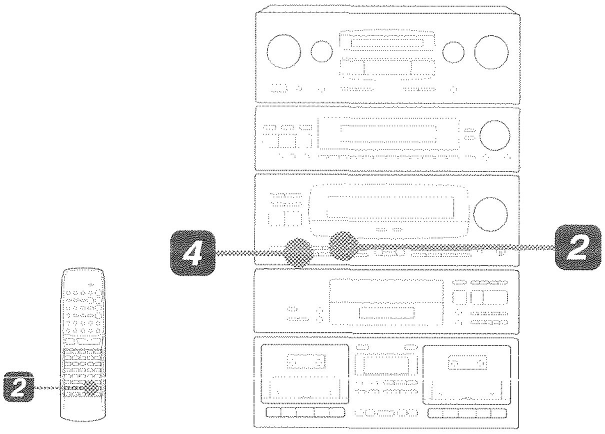


- "MEMORY" インジケーターの点灯中に手順②をおこなってください。
- あなたが作ったイコライザーカーブは、"MANUAL" の "1"~"5" の中に記憶されます。
- すでに記憶されているキーを押したときは新しい記憶内容に変わります。

記憶させたカーブを取り消すとき

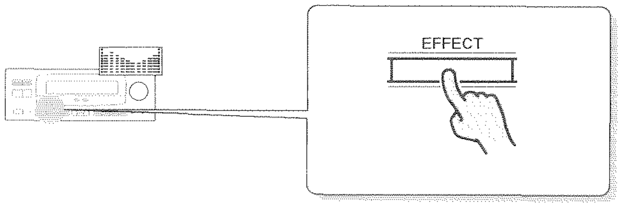
取り消したい番号のキーを5秒以上押し続けると、本機に最初から記憶されているイコライザーカーブに戻ります。

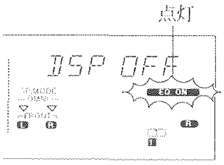
カーステレオ用、ヘッドホンステレオ用のテープを作る



1 録音したい音を再生する

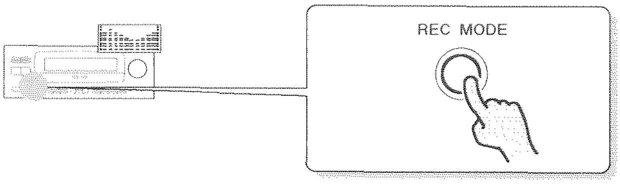
2 グラフィックイコライザーを ON にする



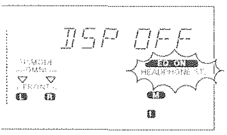


3 お好みの音質にする →P.54→P.56

4 カーステレオかヘッドホンステレオを選ぶ



"HEADPHONE ST." を選んだとき



押すたびに切換わります

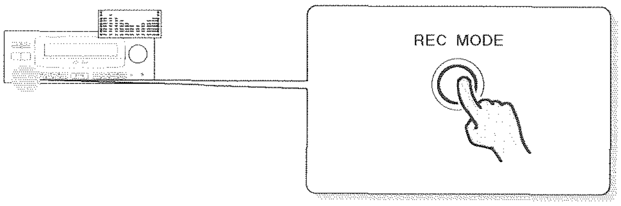
- ①CAR　：カーステレオ用イコライザーカーブ
- ②HEADPHONE ST.：ヘッドホンステレオ用イコライザーカーブ
- ③消灯　：REC MODEキーを押す前のカーブ

● 通常のイコライザーとして使うときや、カーステレオ、ヘッドホンステレオ用以外の録音のときにはインジケーターを消灯させておいてください。

5 録音する →P.36

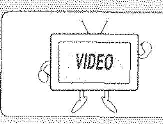
解除するには

キーを押して、"CAR"、または "HEADPHONE ST." を消灯させます。



● 最後に選んでいたカーブが表示されます。

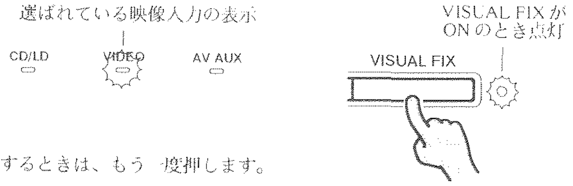
ビデオ機器を使用する



接続や操作については、接続する映像機器の取扱説明書を、あわせてよくお読みください。 →P.8

VISUAL FIXキーについて

映像系の入力が切換わらないようにするキーです。
たとえば、VISUAL FIXがONのときは、入力をVIDEOからAV AUXに切換えても、映像はVIDEOのままとなり、音声だけがAV AUXに切換わります。

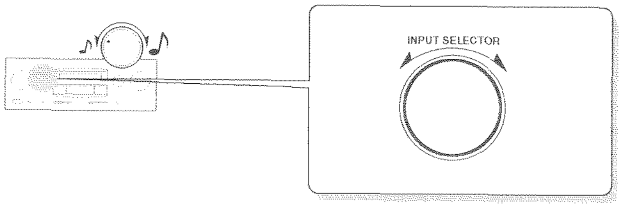


解除するときは、もう一度押します。

ビデオを再生する

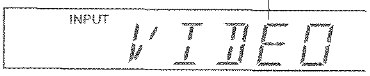
1 モニターテレビの電源を入れる

2 入力切換を"VIDEO"にする



次のように切換わります
① TUNER
② PHONO
③ CD/LD
④ VIDEO
⑤ AV AUX
⑥ MD/DAT
⑦ TAPE A
⑧ TAPE B

"VIDEO"の表示にします



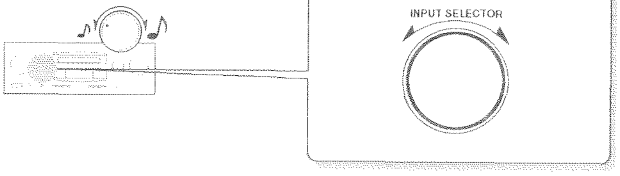
3 ビデオデッキを再生する

ビデオ録画をする

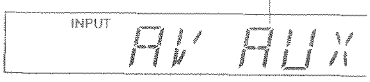
1 録画したい機器を接続する

- 録画したい機器をAV AUX端子に接続します。
- ビデオデッキ(再生のみ)、ビデオカメラ(再生のみ)、LDプレーヤー、BSチューナーなどが接続できます。

2 入力切換を"AV AUX"にする



"AV AUX"の表示にします

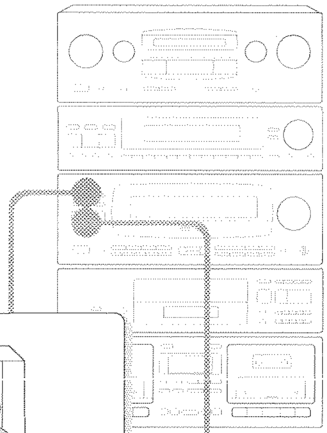


3 録画したい機器を再生する

4 ビデオデッキで録画を開始する

臨場感を楽しむ

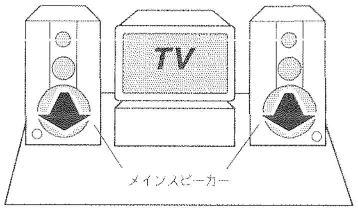
臨場感を再現するためのモードを用意しました。再生ソースやお手持ちの機器に合わせて、お楽しみください。



DSPプレゼンスモード

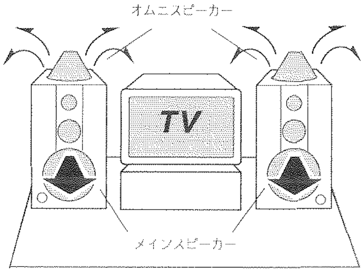
入力ソースに合わせて、それぞれのモードで7つの音場を選ぶことができます。

→ ARENA → JAZZ CLUB → STADIUM → DISCOTHEQUE → GAME → MOVIE → KARAOKE



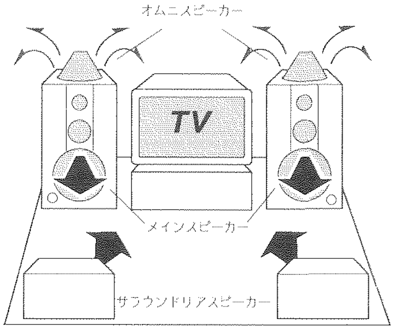
フロント2チャンネル(F.2ch)モード

メインスピーカーだけを使って、手軽に7種類の臨場感を再現できます。 → P.64



フロント4チャンネル(F.4ch)モード

メインスピーカーと、オムニスピーカー(別売)を使用して臨場感を楽しむときに選びます。臨場感の音の成分をオムニスピーカーから出すことにより、F.2chモードに比べて、より豊かな臨場感を再現することができます。 → P.64

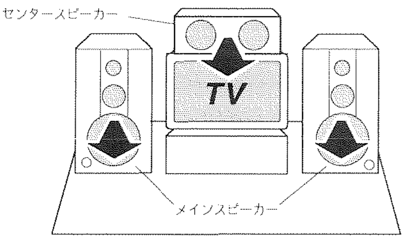


サラウンド4チャンネル(S.4ch)モード

サラウンドリアスピーカー(別売)とオムニスピーカー(別売)を接続して使うときにこのモードを選びます。フロント4チャンネルモードに比べてさらに臨場感あふれる音で聞くことができます。
フロント4チャンネルモードと同様に7種類の臨場感を再現できます。 → P.64

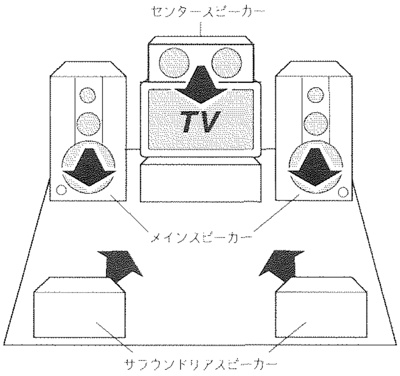
DOLBY 3 STEREOモード

一般のステレオ音声のビデオソフトを楽しむとき、センタースピーカー(別売)を加え、方向性強調と呼ぶ処理をすることで、せりふなどの音像定位を良くします。 → P.63



DOLBY PRO LOGIC SURROUNDモード

このモードで DOLBY SURROUND のマークが入ったビデオソフトやLDソフトを再生すると、映画館と同じような、臨場感あふれるドルビーサラウンド音響効果が楽しめます。
このモードを使うときはサラウンドリアスピーカー(別売)を接続してください。
また、センタースピーカー(別売)を接続すると、臨場感が一段とアップします。 → P.61

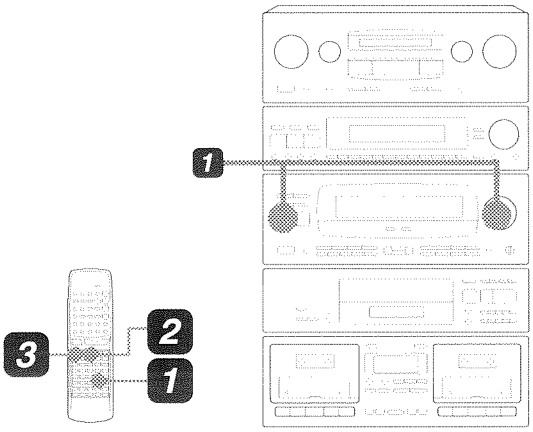


DSPってなに?

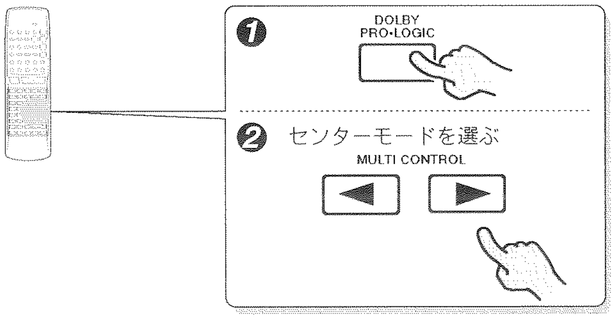
デジタルシグナルプロセッサー(Digital Signal Processor)の略称。音の響きかたは様々な条件によって変化します。フロント2チャンネルモード、フロント4チャンネルモード、またはサラウンド4チャンネルモードでは、DSPを活用して、一般の2チャンネルステレオの音声から、臨場感の決め手となる残響成分(さまざまな空間における音の響きの要素)を作り出しています。

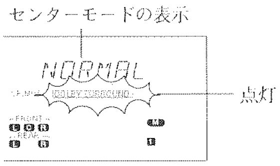
ドルビープロ・ロジックサラウンドの調整

DOLBY SURROUND マークのビデオ（またはLD）ソフトを再生すると、映画館と同じようなドルビーサラウンド音響効果が楽しめます。



1 ドルビープロ・ロジックをオンにする



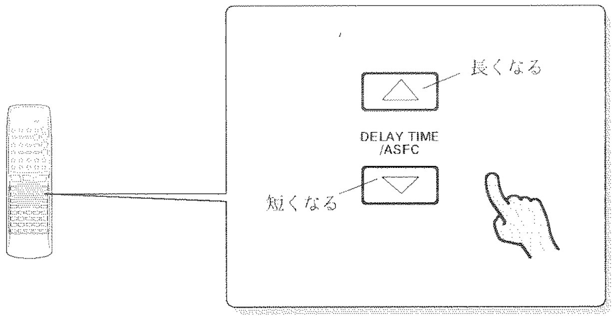


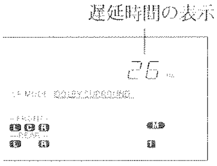
押すたびに切換わります。

①NORMAL　:センタースピーカーが小型のとき
②WIDE BAND　:センタースピーカーが中型または大型のとき
③PHANTOM　:センタースピーカーを使わないとき

- センタースピーカーの小型/中型について、判断ができないときは、聴き比べて、お好みの方に設定してください。

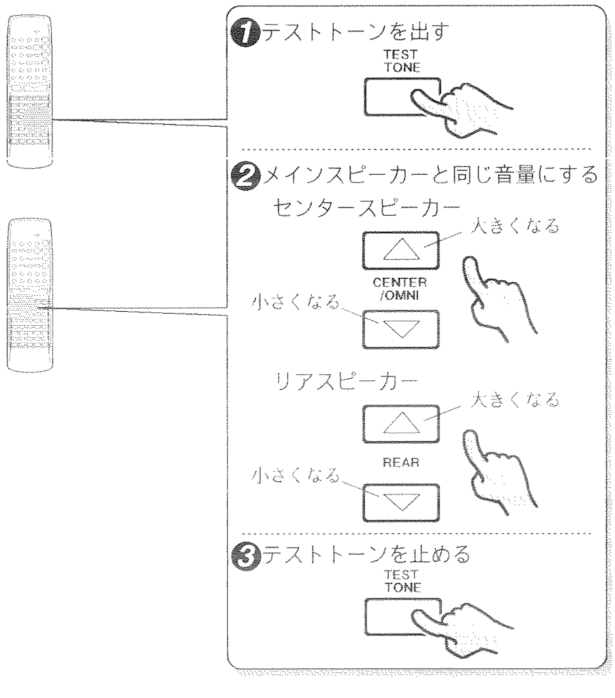
2 遅延時間（ディレイタイム）をあわせる





- DELAY TIME/ASFC キーを押すと、遅延時間が表示部に表示され、押すたびに2msステップで調整できます。
- 遅延時間の調整範囲は16~30msです。
- 一度設定した遅延時間は自動的に記憶され、再設定しない限り、変わりません。

3 音量のバランスを調整する



- 1.5秒間隔で、「ザー」というテストトーンが移動して行きます。

NORMAL , WIDE BANDのとき

LEFT → CENTER → RIGHT → SURROUND(リア)

PHANTOMのとき

LEFT → RIGHT → SURROUND(リア)

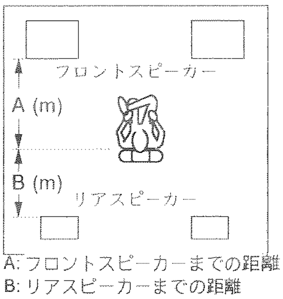
- 押すと、音量レベルがアンプの表示部に表示されます。表示中はキーを押すたびに1dBステップで調整できます。
- 音量レベルの調整範囲は－30dB~+10dBです。
- センターレベルの値は"ドルビー3ステレオ"と共通、また、リアレベルの値は"S.4ch"と共通の設定として記憶されます。

遅延時間の計算方法

あなたが座る場所によって、最適な遅延時間が異なります。
図を参考に、計算してください。

遅延時間(ms)=20ms＋3ms×(A－B)

たとえば、A=5m , B=3mなら…
20ms＋3ms×(5－3)＝26ms

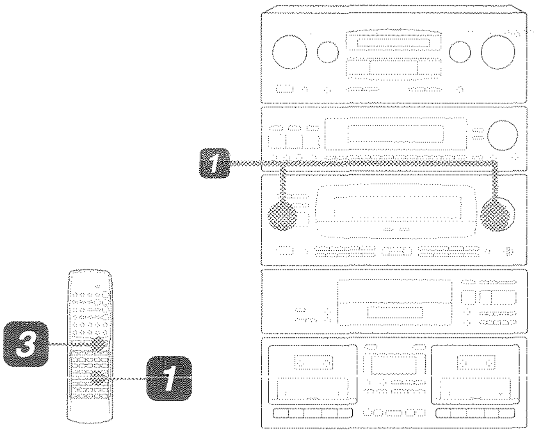


A: フロントスピーカーまでの距離
B: リアスピーカーまでの距離

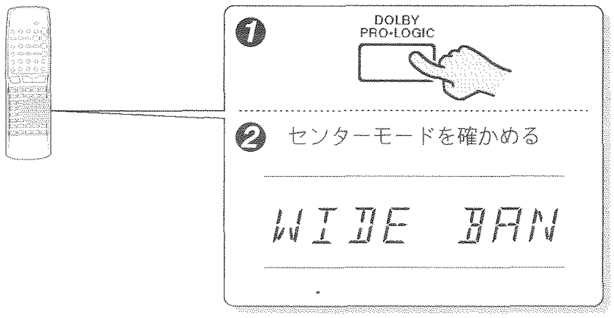
臨場感を楽しむ

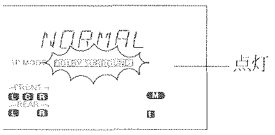
ドルビープロ・ロジックサラウンドの再生

DOLBY SURROUND マークの入ったビデオ（またはLD）ソフトを再生する前に、必ず「ドルビープロ・ロジック サラウンドの調整」を済ませてください。



1 ドルビープロ・ロジックをオンにする





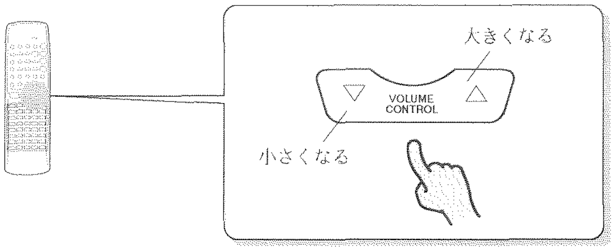
- MULTI CONTROLキーでセンターモードの切換えができます。

①NORMAL　:センタースピーカーが小型のとき
②WIDE BAND　:センタースピーカーが中型または大型のとき
③PHANTOM　:センタースピーカーを使わないとき

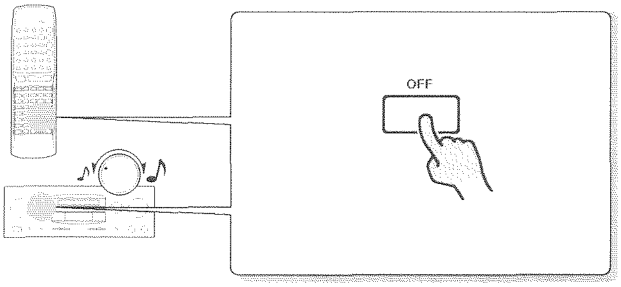
- 選んだセンターモードは自動的に記憶され、再設定しない限り、変わりません。

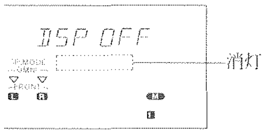
2 ビデオソフトを再生する

3 音量を調節する



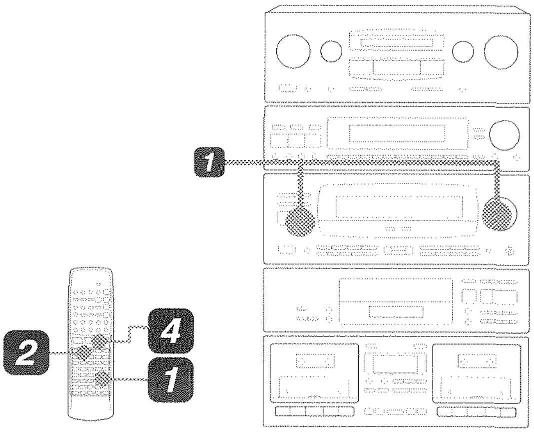
ドルビーサラウンド再生をやめるには



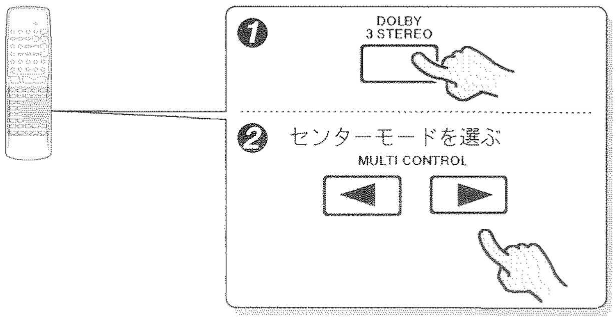


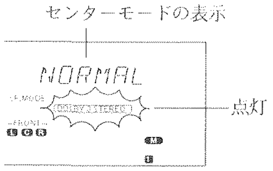
ドルビー3ステレオの調整・再生

一般の2チャンネルステレオ音声のビデオソフトなどを再生するときに、センタースピーカーを加え、方向性強調処理をすることで、せりふ等の音像定位が良くなります。



1 ドルビー3ステレオをオンにする



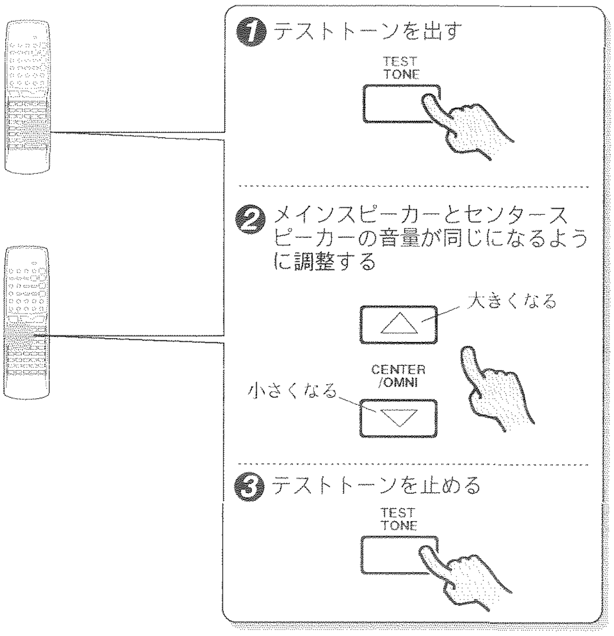


押すたびに切換わります。

①NORMAL　:センタースピーカーが小型のとき
②WIDE BAND :センタースピーカーが中型または大型のとき

- 中型/小型の判断ができないときは、聴き比べて、お好みで選んでください。
- 選んだセンターモードは自動的に記憶され、再設定しない限り、変わりません。

2 音量のバランスを調整する



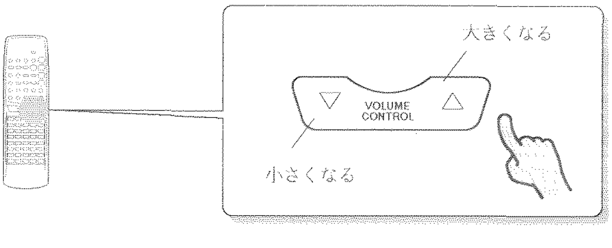
- 1.5秒間隔で、「ザー」というテストトーンが移動して行きます。

→ LEFT → CENTER → RIGHT →

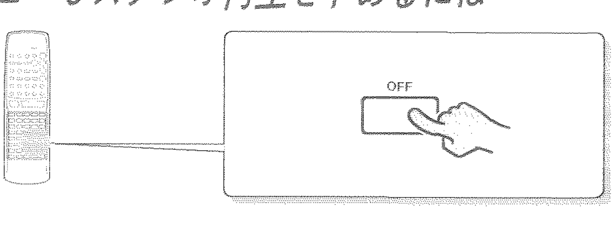
- 押すと、音量レベルが表示部に表示されます。表示中はキーを押すたびに1dBステップで調整できます。
- 音量レベルの調整範囲は－30dB~+10dBです。
- センターレベルの値は"ドルビープロ・ロジックサラウンド"と共通の設定として記憶されます。

3 ビデオソフトを再生する

4 音量を調節する

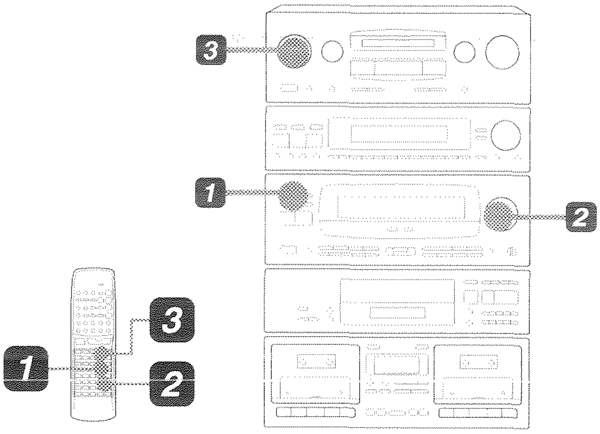


ドルビー3ステレオ再生をやめるには



臨場感のある音楽を楽しむ（DSPプレゼンスモード）

F.2chのとき：メインスピーカーから音楽と、プレゼンス成分の音が出ます。
F.4chのとき：メインスピーカーから音楽が、オムニスピーカー（別売）からはプレゼンス成分の音が出ます。
S.4chのとき：メインスピーカーからは音楽が、オムニスピーカー（別売）とサラウンドスピーカー（別売）からはプレゼンス成分の音が出ます。

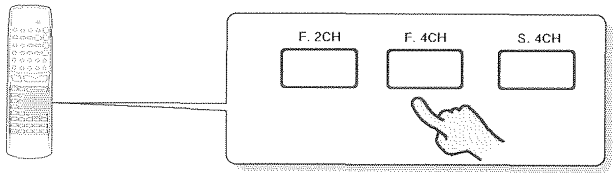


準備しましょう

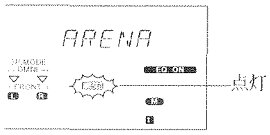
→P.20 CD
→P.26 テープ
→P.30 放送

● 放送を受信するか、CDまたはカセットテープを再生します。

1 DSPプレゼンスモードを選ぶ

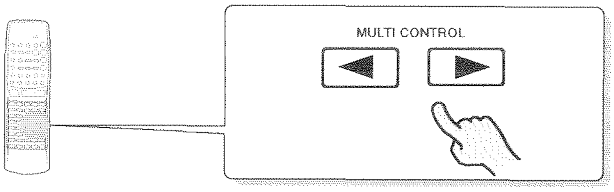


F.4chモードのとき



● スピーカーの配置によって決めます。→P.60

2 音場を選ぶ



押すたびに切換わります

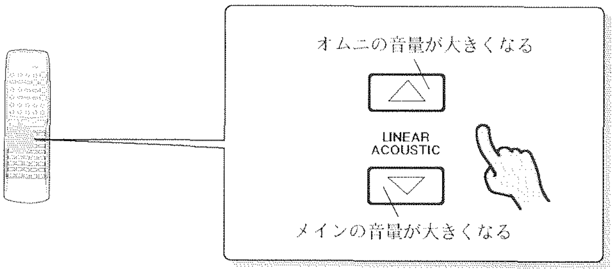
①ARENA
アリーナ席の最前列にいるようなライブ感を再現します。
②JAZZ CLUB
シンバルの響きわたるジャズライブハウスを再現します。
③STADIUM
天井から反射してくる残響音がほとんどない解放感のある雰囲気を再現します。
④DISCOTHEQUE
中高音のもりあがったディスコ気分を再現します。
⑤GAME
ゲームソフトの持っている効果音をダイナミックに再現します。
⑥MOVIE
映画館特有の残響音と臨場感を再現します。
⑦KARAOKE
カラオケのエコーのかかった雰囲気を再現します。

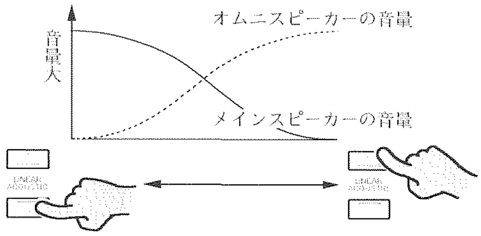
● 選んだ音場に対応してLINEAR ACOUSTICつまみが自動的に設定されます。

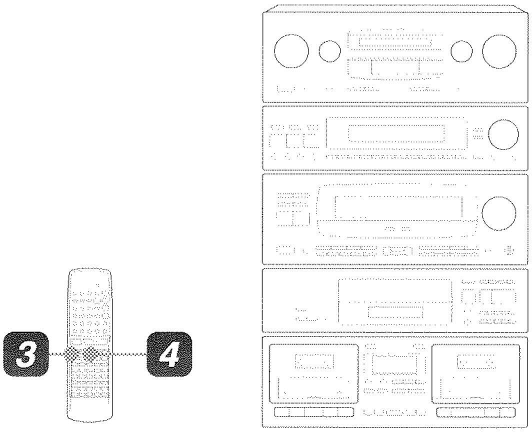
3 音量のバランスを調整する（F.4ch、S.4ch）

（F.2chモードのときは手順4へ）

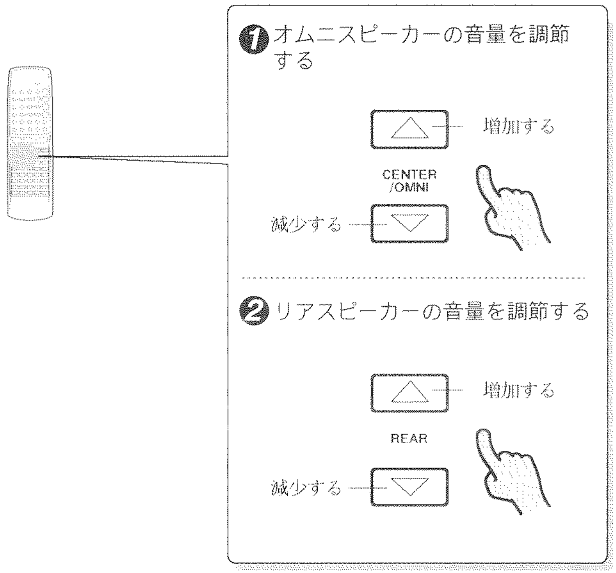
F. 4chモードのとき







S. 4ch モードのとき



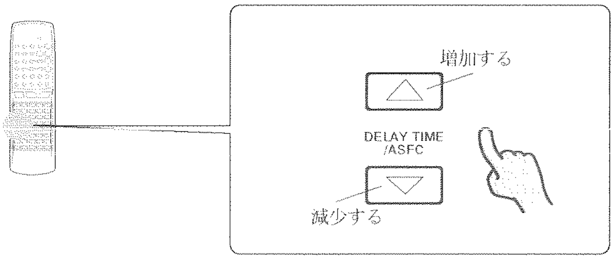
OMNI　-20 dB

- キーを押すと、音量レベルがアンプのディスプレイに表示され、押すたびに1dBステップで調節できます。
- 音量レベルの調整範囲は－30dB~+10dBです。

REAR　-20 dB

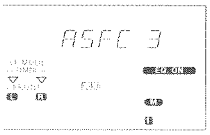
- キーを押すと、音量レベルがアンプのディスプレイに表示され、押すたびに1dBステップで調節できます。
- 音量レベルの調整範囲は－30dB~+10dBです。
- リアレベルの値は"ドルビープロ・ロジックサラウンド"と共通の設定として記憶されます。

4 音の広がり（ASFC）を調節する

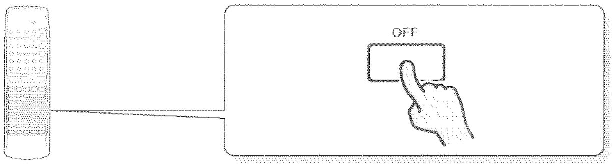


ASFCキーで、更に音の広がりを5段階に調節することができます。数字が大きくなるほど音の広がりが強調されます。
(通常レベルは"3")

- ASFCレベルが、グラフィックイコライザーのディスプレイに表示されます。



DSPプレゼンス再生をやめるには



- DSPプレゼンス再生をしないときは、必ずOFFにしてください。

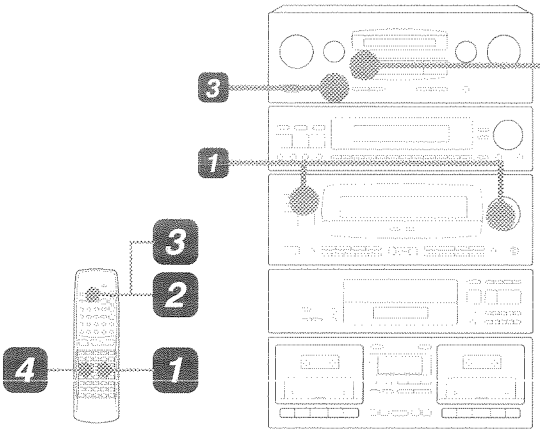
ASFCとは

ASFC：Acoustic Surround Field Control（アコースティック サラウンド フィールド コントロール）の略。

臨場感を楽しむ

臨場感プラスバーチャルリアリティーサウンドを体験する（F.4CHのみ）

メインスピーカーから音楽が、オムニスピーカー（別売）からはプレゼンス成分の音と、バーチャルリアリティーサウンド（OMNI INPUTで選んだソース）が出力されます。



準備しましょう

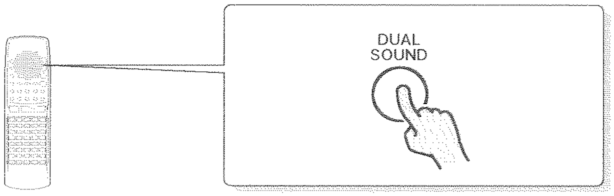
→P.20 CD
→P.26 テープ
→P.30 放送

- 放送を受信するか、CDまたはカセットテープを再生します。

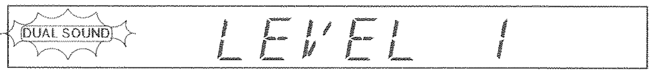
1 F.4chの、お好みの音場を選ぶ

- 選んだ音場に対応してLINEAR ACOUSTIC CONTROLつまみが自動的に設定されます。

2 バーチャルリアリティーサウンドの大きさを調節する



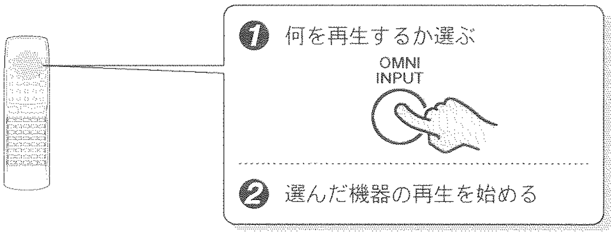
OFF以外で点灯



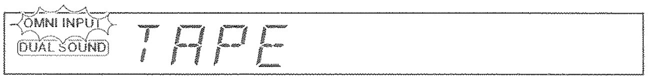
押すたびに切換わります

①LEVEL 1（環境音の音量：小）
②LEVEL 2（環境音の音量：中）
③LEVEL 3（環境音の音量：大）
④LEVEL表示なし（環境音を出力しない）

3 バーチャルリアリティーサウンドを再生する



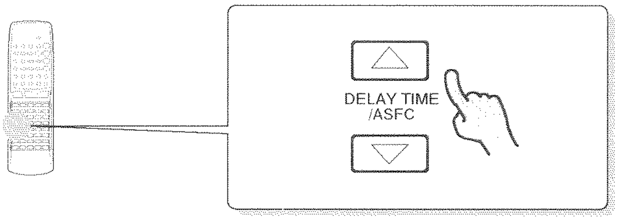
点灯



押すたびに切換わります

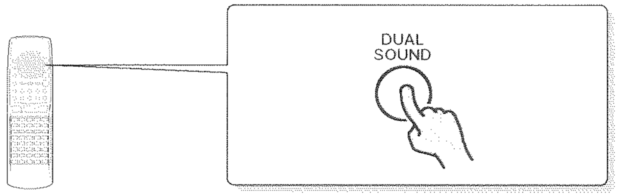
①CD / LD
②TAPE
③MD / DAT
④AV AUX

5 音の広がりを調節する

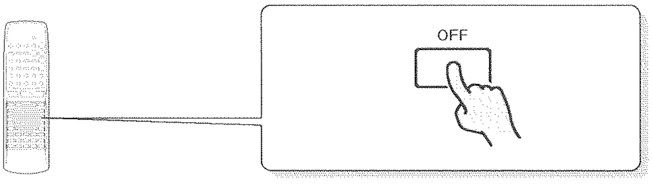


- ASFCは、お好みにより調節してください。→P.65

デュアルサウンドをやめるには



DSPプレゼンス再生をやめるには



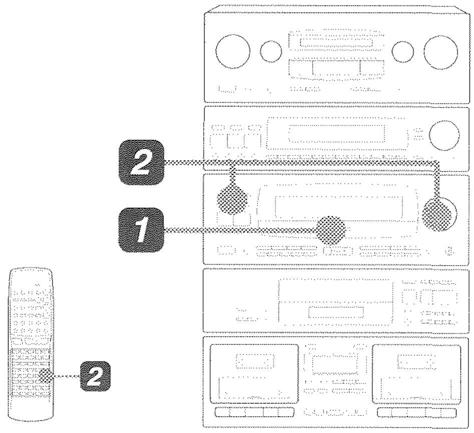
- DSPプレゼンス再生をしないときは、必ずOFFにしてください。

臨場感のある音楽を録音する

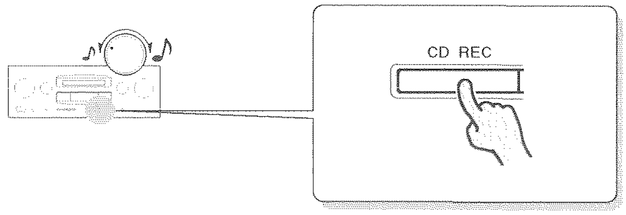
準備しましょう

→P.36

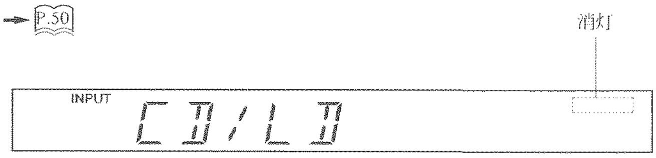
- Bデッキにカセットテープを入れる。
- テープの動く向き(◀ ▶)を確かめる。
- "⊃"両面録音/"＝"片面録音を選ぶ。
- ドルビーノイズリダクションを選ぶ。
- INPUT SELECTORつまみで"CD/LD"または"TUNER"を選ぶ。
- 音楽ソースがCDのときは、CDプレーヤーにディスクを入れる。



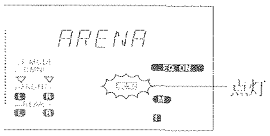
1 CD REC を OFF にする

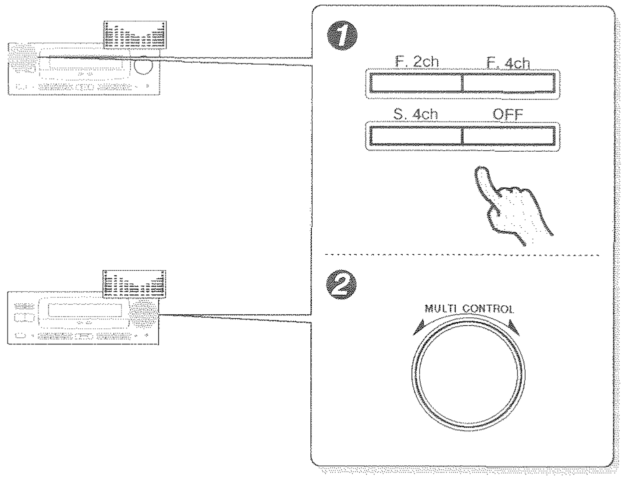


→P.50



2 DSPプレゼンスモードから音場を選ぶ





- 選んだ音場に対応して、LINEAR ACOUSTIC CONTROLつまみが自動的に設定されます。

押すたびに切換わります

①ARENA
アリーナ席の最前列にいるようなライブ感を再現します。
②JAZZ CLUB
シンバルの響きわたるジャズライブハウスを再現します。
③STADIUM
天井から反射してくる残響音がほとんどない解放感のある雰囲気を再現します。
④DISCOTHEQUE
中高音のもりあがったディスコ気分を再現します。
⑤GAME
ゲームソフトの持っている効果音をダイナミックに再現します。
⑥MOVIE
映画特有の残響音と臨場感を再現します。
⑦KARAOKE
カラオケのエコーのかかった雰囲気を再現します。

3 音楽を再生し、録音する

- F.4chモードとデュアルサウンド機能を組み合わせた場合、オムニ入力の音がミックスされた録音になります。

音の広がりとは

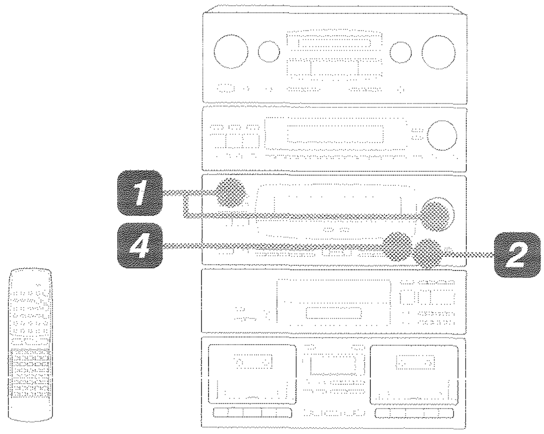
ホールによって、または野外スタジアム・ライブなどで、音の聴こえかたが違うのは、間接音の分布が異なるためです。
ASFCではこれらの間接音のレベルを調整し、音の広がりを表現します。

AI LINK(リンク)イコライザー効果

音場を選ぶと、最適なイコライザーカーブが自動的に作られ、音場効果を高めます。

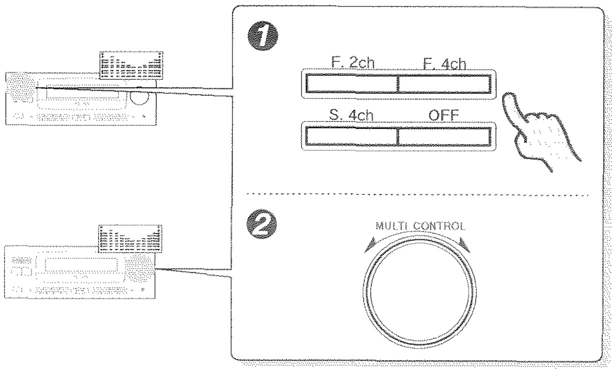
便利な使いかた

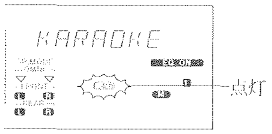
CDやテープのボーカルだけを小さくして、簡単にカラオケができる"HIT MASTER"と、部屋のどこにいてもステレオのL,R両チャンネルの音が耳に届く"BGM再生"があります。



簡単にカラオケを楽しむ (HIT MASTER)

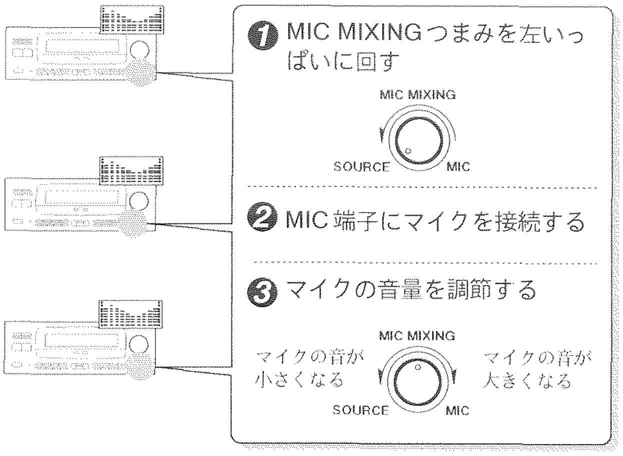
1 DSPプレゼンスモードから"KARAOKE"を選ぶ





● 選んだ音場に対応して、LINEAR ACOUSTIC CONTROLつまみが自動的に設定されます。

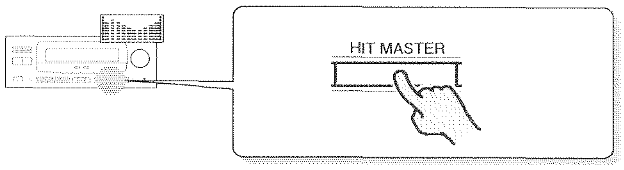
2 マイクをつなぐ

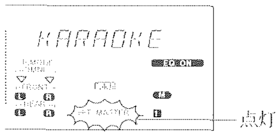


● マイクを使用しないときは、MIC MIXINGつまみを左いっぱいに回しておいてください。

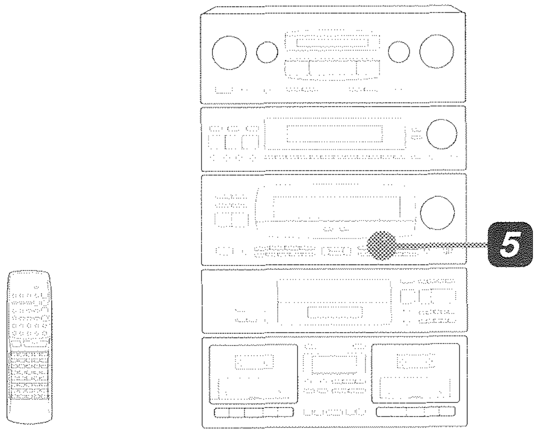
3 音楽を再生する

4 HIT MASTERキーを押す

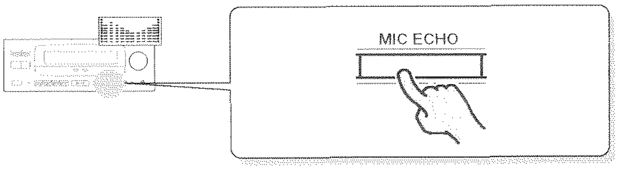




● 音楽ソースのボーカルが小さくなります。ただし、曲やディスクによっては効果が弱い場合もあります。



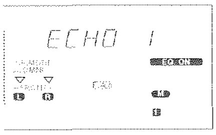
5 マイクエコーを調節する



●接続したマイクの音にエコーをかけることができます。

押すたびに切り換わり、エコーの度合いが強くなります。

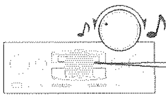
① ECHO 1
② ECHO 2
③ ECHO 3
④ OFF



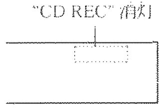
6 曲に合わせて歌う

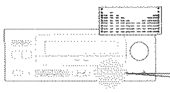
●全体の音量は、VOLUME CONTROLつまみで調節してください。

カラオケを録音するには

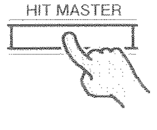


❶ "CD REC"が消灯しているのを確かめる





❷



❸ 録音する →P.36

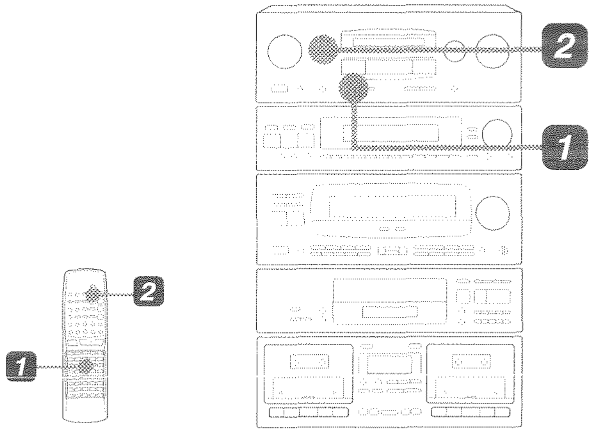
ご注意 DSPプレゼンスモードがOFFの状態で、HIT MASTERキーを使用するときは、LINEAER ACOUSTICつまみをメイン側に回し切ってください。

MIC MIXINGつまみを左いっぱいに回して録音すると、カラオケテープを作ることができます。

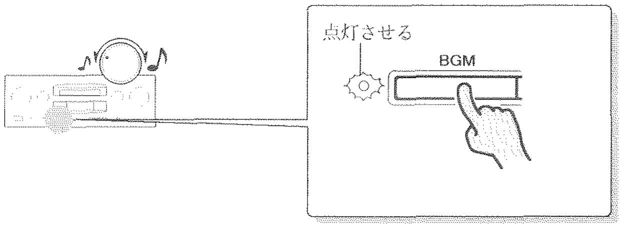
●テープの演奏でカラオケをするとき、その音は録音できません。

BGM再生のしかた

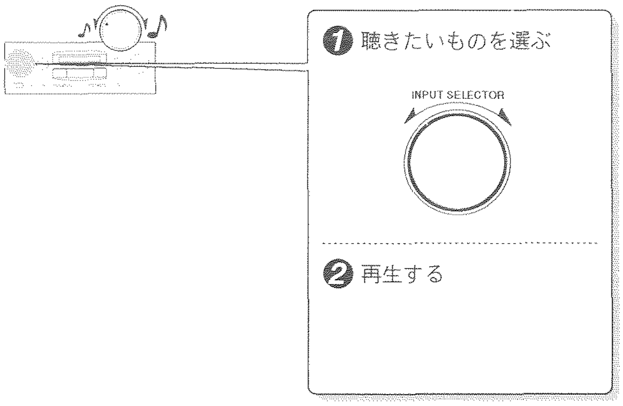
メインスピーカーとオムニスピーカー(別売)に、それぞれ"左"と"右"の音を割り当てて、ステレオ再生する機能です。
右チャンネルはメインスピーカーが"右"、オムニスピーカーが"左"の音を出力します。(左チャンネルでは、逆になります。)
部屋のどこにいても、左右のチャンネルの音が耳に届きます。



1 "BGM" を選ぶ

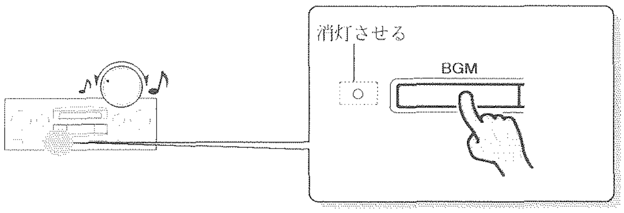


2 聴きたいものを選んで、再生する



次のように切換わります
① TUNER
② PHONO
③ CD/LD
④ VIDEO
⑤ AV AUX
⑥ MD/DAT
⑦ TAPE A
⑧ TAPE B

BGM再生をやめるには



タイマーを使う

時刻合わせを済ませてから、タイマーを設定してください

通常のタイマー予約(プログラムタイマー)に加えて、その他3種類の便利なタイマーが用意されています。目的に合わせて使い分けてください。

目覚ましタイマー(AI TIMER 1,2)

プログラムタイマーに、目覚ましタイマーを追加設定することができます。

AI TIMER 1 : 電源が入ると、音量が3段階でだんだん大きくなります。

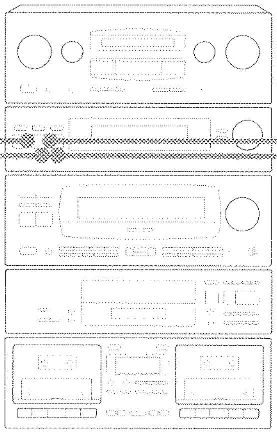
AI TIMER 2 : お好きなディスクでお目覚めの後、自動的にラジオ放送を受信します。

→P.75

ワンタッチタイマー

電源ON時刻を簡単に設定できます。

→P.76



おやすみタイマー

設定した時間が過ぎると、自動的に電源が切れます。

→P.76

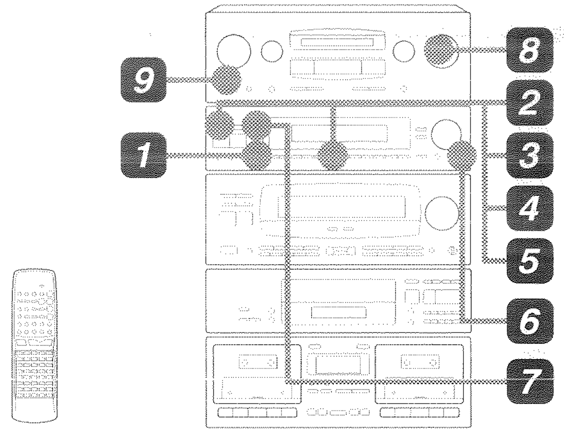
プログラムタイマー

ON時刻に電源が入り、OFF時刻に電源が切れるようにラジオ放送、テープ、CDの再生、ラジオ放送の録音を行ないます。最大6つまでのタイマー予約ができます。

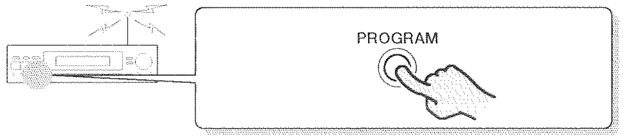
→P.72

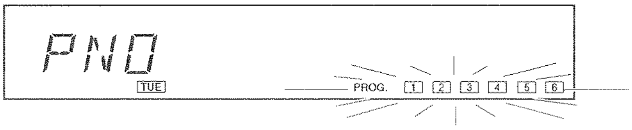
タイマー予約をする

時刻合わせを済ませてから、タイマーを設定してください



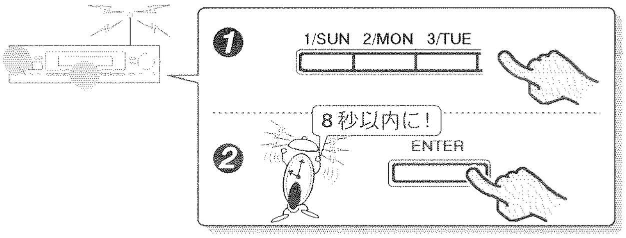
1 タイマー設定を始める





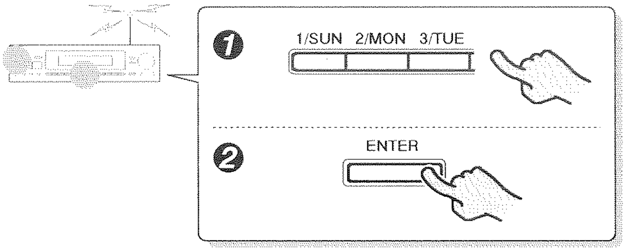
● プログラム番号 (1~6) が点滅します。

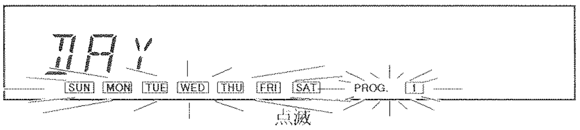
2 プログラム番号を選ぶ



● 選んだプログラム番号が点滅します。
● すでに予約されているプログラム番号を選んだときは、新しい設定内容に変わります。

3 曜日を設定する

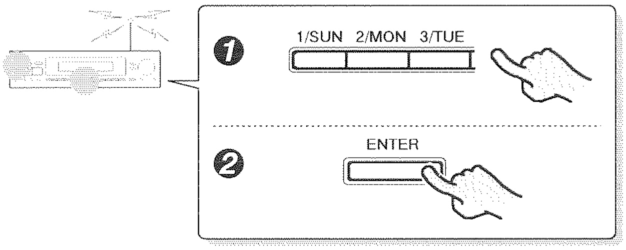


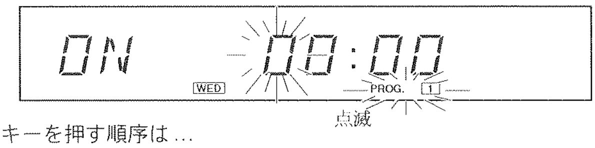


● 間違えたときは、CLEARキーを押してやり直してください。

日曜日～土曜日の他に、3パターン用意されています。
EVERY： 月曜日～日曜日の毎日
WEEK 1： 月曜日～土曜日の毎日
WEEK 2： 月曜日～金曜日の毎日

4 ON 時刻を設定する



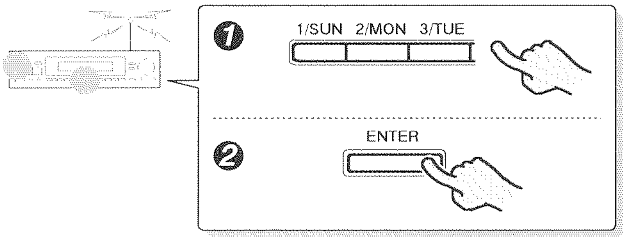


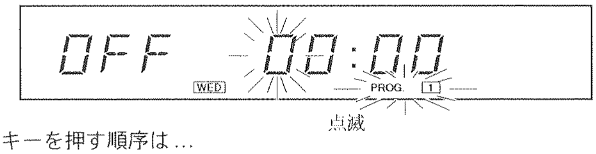
数字キーを押す順序は…

午前6時30分なら：0 6 3 0

● 間違えたときは、CLEARキーを押してやり直してください。

5 OFF 時刻を設定する





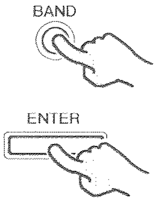
数字キーを押す順序は…
午前7時00分なら：0 7 0 0

● 間違えたときは、CLEARキーを押してやり直してください。

6 希望の予約を設定する

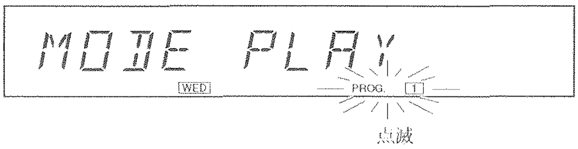
放送、CD、テープを聴くとき

❶ SELECT MODE



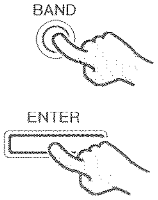
"PLAY" を選ぶ（押すたびに切換わります）
①PLAY ○
②REC ×

決定する

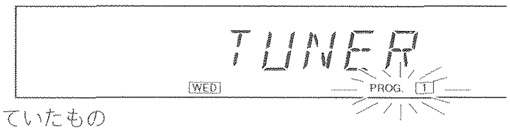


点滅

❷ SELECT SOURCE



何を聴くかを選ぶ（押すたびに切換わります）
①CD :CD
②TAPE :テープ
③TUNER : 放送
④LAST : 最後に聴いていたもの



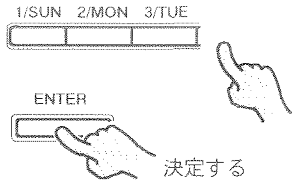
決定する

❸ 聴くための準備をする

● 放送を聴く

SELECT PRESET

プリセットナンバーを選ぶ



決定する

放送局は必ずプリセットしておいてください。

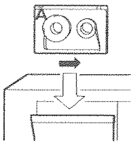
● CDを聴く

CDをセットする

プログラム再生はできません。

● テープを聴く

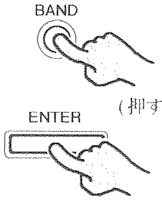
テープをセットする



A，B両デッキにテープを入れるとBデッキから再生が始まります。

放送を録音するとき

❶ SELECT MODE

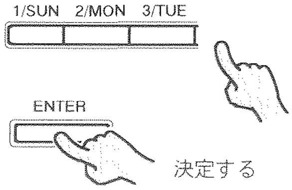


"REC" を選ぶ
①PLAY ×
②REC ○
（押すたびに切換わります）

決定する

❷ SELECT PRESET

プリセットナンバーを選ぶ

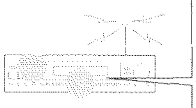


決定する

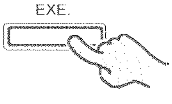
❸ 録音の準備をする

→ P.36

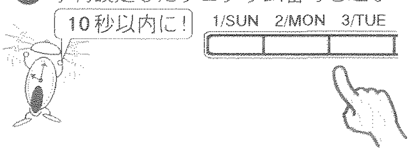
7 働かせたいプログラム番号をセットする

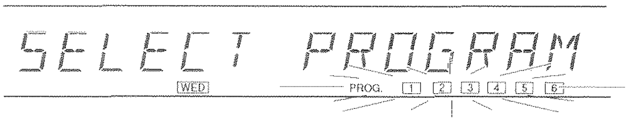


❶



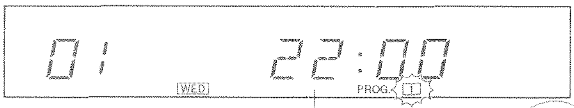
❷ 予約設定したプログラム番号を選ぶ





点滅

● 選んだプログラム番号が点灯します。
● プログラム番号をセットしないと、タイマーは働きません。



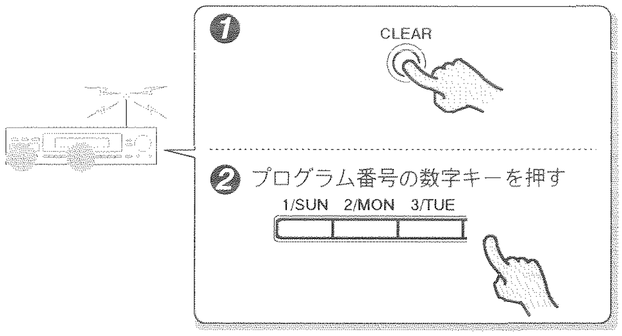
現在時間　点灯

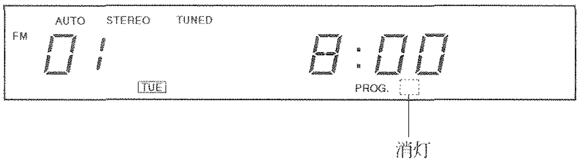
8 音量を調節する

● 放送を録音するときは、タイマーで電源がONになると、最低の音量に自動的にセットされます。

9 電源を切る

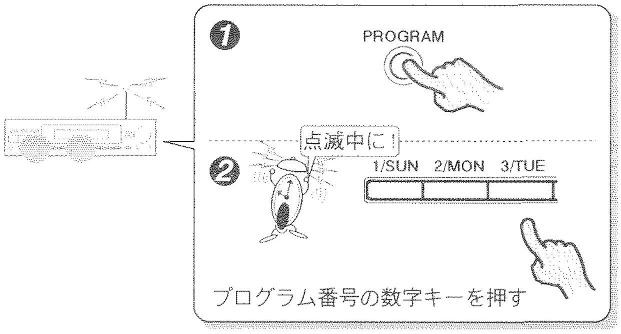
タイマーで電源がONになったあとそのまま再生を続ける





● 実行中のプログラム番号が消灯していることを確認します。

予約の内容を確認する

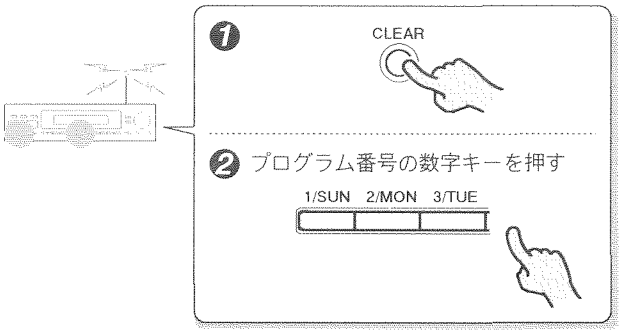


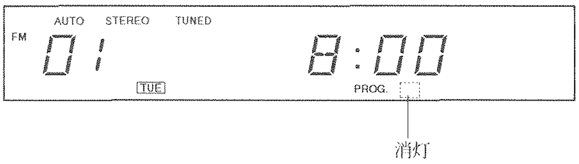
● 予約内容を約3秒ずつ表示していきます。そのあと、元に戻ります。

予約の内容を変更するには

"タイマー予約をする"を始めからやり直してください。

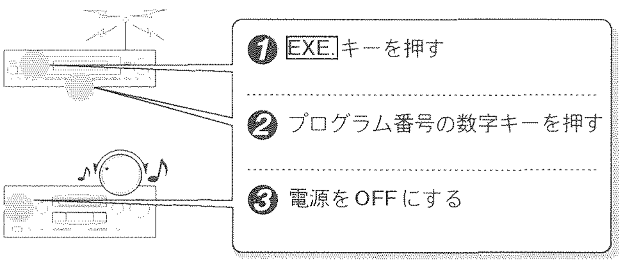
タイマーを働かせたくないとき





● 予約内容は記憶しています。

再び同じ内容のタイマーをセットする



● ディスク、テープの準備、音量の調節をしておきます。

ご注意

予約内容は削除できません。内容を変更することにより、以前の内容が消されます。

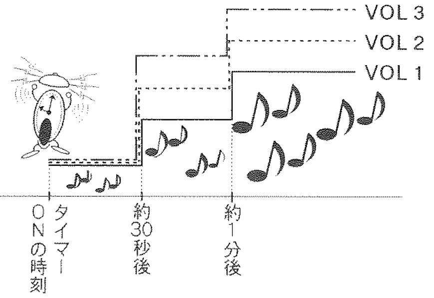
AIタイマーの使いかた

時刻合わせを済ませてから、タイマーを設定してください

プログラムタイマーで時刻を設定したうえに、AIタイマー機能を利用することができます。AIタイマー1とAIタイマー2を同時にセットすることもできます。

音量がだんだん大きくなる（AIタイマー1）

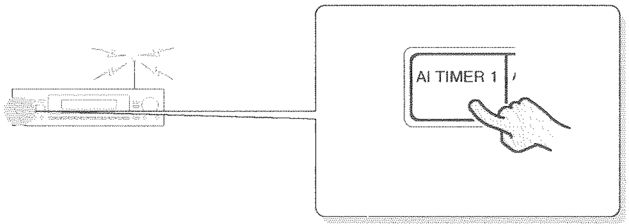
プログラムタイマーで電源が入ったとき、音量が3段階で大きくなる機能です。



準備しましょう
→P.72

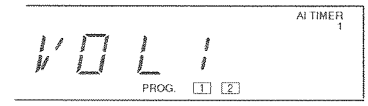
- プログラムタイマーを設定する
- 電源をOFFにしておく

AIタイマー1キーを押す



最大音量を選びます。キーを押すごとに切り換わります。

→① VOL 1（小さめ）
② VOL 2（中くらい）
③ VOL 3（大きめ）
④ OFF　（AIタイマー1を使わない）



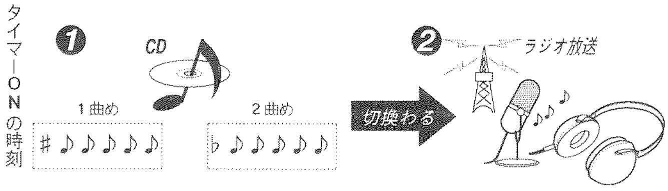
- AIタイマー1が働いているときに、リモコンのボリュームを操作するか、またはMUTEキーを押すと、音量はその時点で固定されます。

AIタイマー1を解除するには

AI TIMER 1キーを押して"OFF"を選び、インジケーターを消灯させてください。

CDを聴いたあとでラジオ放送に切り換わる（AIタイマー2）

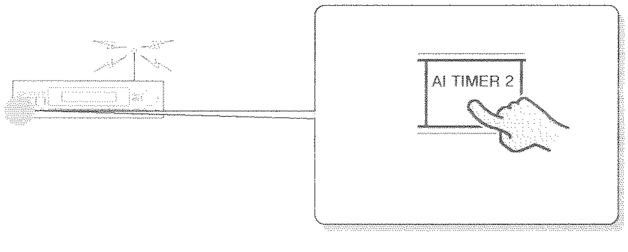
プログラムタイマーで電源が入ると、CDを2曲再生した後、自動的にラジオ放送を受信します。
AIタイマー2は、他のプログラムタイマーより優先されます。

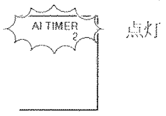


準備しましょう
→P.72

- CDプレーヤーにディスクを入れる
- 放送を受信するように、プログラムタイマーを設定する。

AIタイマー2キーを押す





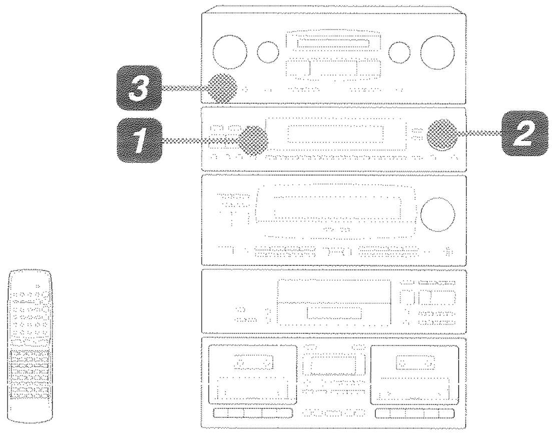
- AIタイマー2のCDの再生中に入力を切換えるか、CDプレーヤーの操作キーを押すと、CDの再生をやめ、AIタイマー2は解除されます。
- CDが入っていないときは、最初から放送受信になります。

AIタイマー2を解除するには

もう一度キーを押してインジケーターを消灯させてください。

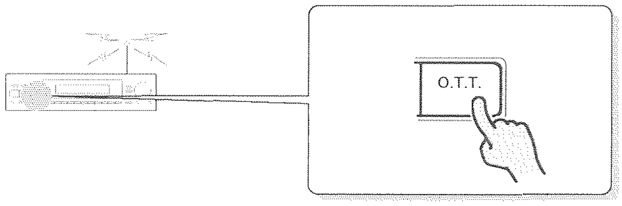
ご注意

1. プログラムタイマーの動作が終わっても、AIタイマー1およびAIタイマー2のインジケーターは消えません。AIタイマーを使わないときは必ずインジケーターを消しておいてください。
2. AIタイマーは、タイマー録音のときは働きません。

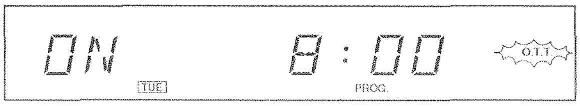


ワンタッチタイマー予約

1 ON時刻を設定する



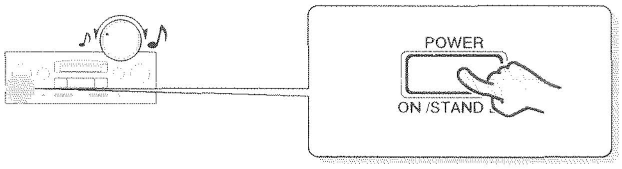
- 1回押すと、30分以内の区切りのよい時間が設定されます。(例：7時40分→8時00分)。以後、押すたびに30分ずつ追加されます。12時間先まで設定できます。
- 電源がOFFのときにも設定できます。



2 ききたい放送局を受信する →P.30

- TUNING/CHARACTERつまみで、聴きたい放送局を受信しておきます。

3 電源を切る



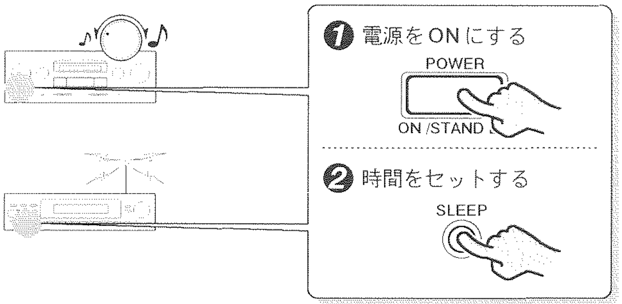
- O.T.T.キーを1回押すと、ON時刻を確かめることができます。
- ワンタッチタイマーで電源がONになると、自動的におやすみタイマーが60分にセットされます。

解除するには

電源をONにする、または、"O.T.T."表示が消えるまでO.T.T.キーを押します。

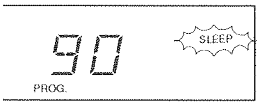
おやすみタイマー予約

何分後に電源を切るかを設定する



- セットした時間が過ぎると、自動的に電源がOFFになります。
- おやすみタイマーは、他のタイマーより優先されます。
- 1回押すごとに10分ずつ減っていきます。最大90分まで設定できます。

→ 90 → 80 → 70 → 60 → 50 → 40 → 30 → 20 → 10 → 解除



解除するには

電源をOFFにする、または、SLEEPキーを解除になるまで押す

ご注意

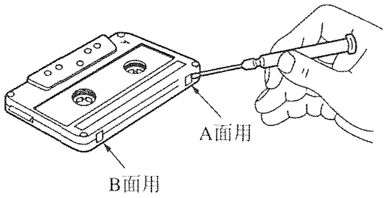
時刻合わせのためにADJUSTキーを押すと、ワンタッチタイマーは解除されます。

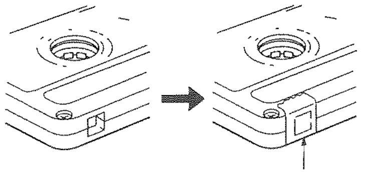
メンテナンス

カセットテープについてのご注意

誤消去防止装置

大切な録音のあとには、カセットのツメを折ってください。 誤消去・誤録音が防げます。

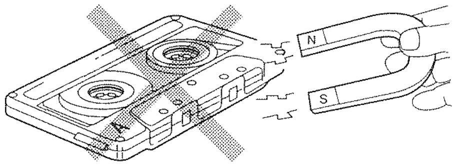




再び録音するには

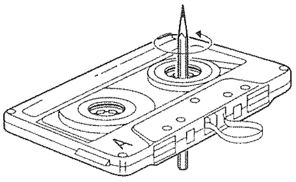
カセットテープの保管について

直射日光下や暖房器などのそばに放置しないでください。
また、磁石や磁気は近づけないでください。



テープがたるんでいる場合

このような場合には、リール軸に鉛筆などを差し込んで、テープのたるみをとってから装着してください。

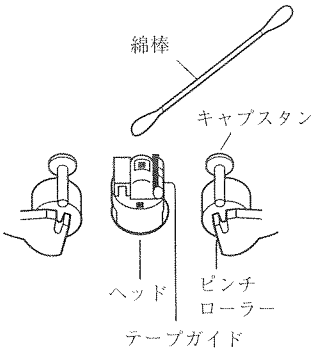


ご注意：

1. 110/120分テープについて
110 / 120分テープは大変薄く、ピンチローラーに巻きついたり、切れたりトラブルが発生しやすいので、ご使用はお避けください。

2. エンドレステープについて
エンドレステープは故障の原因となりますので、ご使用にならないでください。

ヘッドのお手入れ



ヘッド回りのクリーニング

いつまでも最良の状態でご使用になるには、テープ再生時間約10時間ごとに、ヘッド（ 録音／ 再生／消去)、キャプスタン、ピンチローラーのクリーニングを心がけてください。
クリーニングは、次の手順で行ってください。

1. イジェクトキーを押し、カセットホルダーを開けます。
2. ヘッド（録音／再生／消去)、およびキャプスタン、ピンチローラーを、市販のクリーニング液を含ませた綿棒で注意深くクリーニングします。

ヘッドの消磁

録音・再生ヘッドが磁気を帯びると雑音が大きくなります。市販の消磁器（ヘッドイレーサー）で消磁してください。

ご注意：

ヘッドのテープガイドなど、精密に調整された部分があります。クリーニングの際は、引っかけたり、強い衝撃などを加えないように注意してください。

露付きにご注意

水蒸気が、冷たいものの表面にふれて水滴が付くことを“露付き”といいます。この現象がおきますと、正常に動作しないか、または、まったく動作しないことがあります。

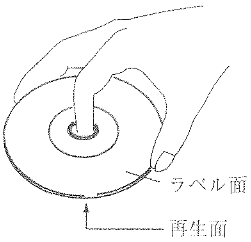
これは故障ではありませんが、露がとれるまでしばらく乾燥させる必要があります。

本機の電源を入れた状態で、そのまま放置しておいてください。長くても数時間で露が乾いてきます。

次のような状態のときは、特に露付きにご注意ください。

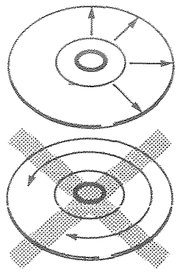
- 寒いところから暖かい部屋など気温差の大きいところへ持ち込んだとき。
- 暖房をきかせはじめたとき。
- 冷房のよくきいた部屋から、湿度が高く気温の高い部屋へ持ち込んだとき。
- その他本機の温度と外気温度との差が大きく、露付きの状態になりやすい条件のとき。

ディスク取扱上のご注意



取り扱い
再生面にふれないように持ってください。

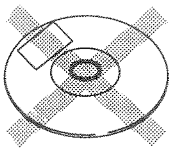
再生面はもちろん、ラベル面にも紙やテープなどを貼らないでください。

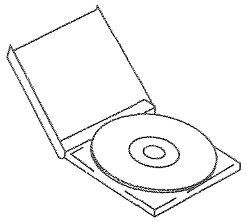


お手入れ
ディスクに指紋や汚れがついたときは、やわらかい布などで、放射状に軽くふきとってください。

保存
長い間使用しないときは、本機から取りだし、ケースに入れて保管してください。

ディスク使用上のご注意





ひびやそりのあるディスクは使わない

再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびや欠けのあるディスク、大きくそったディスク等は絶対に使用しないでください。プレーヤーの破損、故障の原因になります。

ドルビーノイズリダクションおよびHX PROヘッドルームエクステンションは、ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。
HX PROは、バング アンド オルフセンの考案です。ドルビー、DOLBY、ダブルD記号 ◻◻ およびHX PROは、ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの商標です。

ドルビー ラボラトリー ライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBYおよびダブルD記号 ◻◻ は、ドルビー ラボラトリー ライセンシングコーポレーションの商標です。

メモリーバックアップ

電源OFF(STAND BY状態)にしてから最低3日で消えるメモリーの内容	グラフィックイコライザー(記憶したパターン)、(ドルビーサラウンドのディレイタイム)、(AIファイル) カセットデッキ(DIRECTION、録音レベル)
電源プラグをコンセントから抜くとすぐ消えるメモリーの内容	チューナーの時計表示
電源プラグをコンセントから抜いて最低3日で消えるメモリーの内容	アンプ(ドルビーサラウンドのセンターレベル、リアレベル)、(DSP S.4chモードのリアレベル、オムニレベル) チューナーのプリセット放送局

スピーカーの設置とテレビについて

1. このシステムのスピーカーは、テレビとの近接使用が可能な防磁型(EIAJ規格)ですが、設置のしかたによっては、色ムラを生じる場合があります。そのときは、一度テレビの電源を切り、15分~30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能により、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーを離してご使用ください。
2. 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラを発生することがありますので、設置にご注意ください。
3. テレビからの電磁波の誘導作用により、ステレオの電源スイッチがOFFのときでも、スピーカーから音が聞こえることがあります。その場合も、テレビからスピーカーを離して設置してください。

あなたが録音または録画したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

故障と思われる症状ですが・・・・

リモコン部

症状	原因	処置
リモコンで操作ができない。	●電池切れ。 ●操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。 ●オーディオコードが正しく接続されていない。 ●再生しようとする機器に、テープ、CDが入っていない。 ●録音中のカセットデッキで再生しようとしている。 ● A/B切換スイッチが正しくセットされていない。	●新しい電池に入れ換える。 ●操作範囲内で操作する。 → P.15 ●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。 ●再生しようとする機器に、テープ、CDを入れる。 ●録音が終わるまで待つ。 ● A/B切換スイッチを正しくセットする。

アンプ・スピーカー部

症状	原因	処置
音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。 ●音量を最小にしている。 ●アンプのMUTEがONになっている。 ●ヘッドホンプラグが差込まれている。 ●オーディオコードの接続がはずれている。	●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。 ●適当な音量にする。 → P.7 ● MUTEをOFFにする。 ●ヘッドホンプラグを抜く。 ●オーディオコードの接続を確認する。 → P.4
メインスピーカーから音が出ない。	● LINEAR ACOUSTICつまみがOMNI側に回されている。 ●スピーカーコードがはずれている。	●つまみを適切な位置に合わせる。 → P.34 ●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。 → P.7
オムニスピーカー（別売）から音が出ない。	● LINEAR ACOUSTICつまみがMAIN側に回されている。 ● DUAL SOUNDがOFF(表示消灯)になっている。 ●スピーカーコードがはずれている。 ●オムニレベルが最小になっている(S.4ch)。	●つまみを適切な位置に合わせる。 → P.34 ● DUAL SOUND キーを押してONにする。 → P.34 ●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。 ●オムニレベルを調節する。 → P.65
ヘッドホンから音が出ない。	● LINEAR ACOUSTICつまみがOMNI側に回されている。 ●オムニインプットで再生している。	● LINEAR ACOUSTICつまみをMAIN側に回す。 → P.18 ●メインインプットで再生する。 → P.34
ディスプレイに"PROTECT"と点滅表示し、音が出ない。	●スピーカーコードがショートしている。	●一時電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度電源スイッチを入れる。
スピーカーの片側から音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。 ● BALANCEつまみが片側いっぱいに絞られている。	●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。 ●左右のバランスを調節する。 → P.19
サラウンドリアスピーカー、センタースピーカーから音が出ない。または、小さい。	●リアスピーカーコードおよびセンタースピーカーコードがはずれている。 ●サラウンド再生モードになっていない。 ●リアレベル、センターレベルが最小になっている。	●"接続のしかた"をみて正しく接続し直す。 → P.7 ●サラウンドモードにする。 ●リアレベル、センターレベルを調節する。 → P.61

チューナー部

症状	原因	処置
時刻表示が、ある時間で止まったまま点滅している。	●停電があった。 ●電源プラグを一度抜いた。	●現在時刻をもう一度合わせる。 → P.17 ●現在時刻をもう一度合わせる。
タイマーが作動しない。	●現在時刻を合わせていない。停電があった。 ●タイマーのON時刻とOFF時刻を設定していない。 ●タイマーの実行指定をしていない。	●"時刻合わせ"をみて現在時刻を合わせる。 ●タイマーのON時刻とOFF時刻を設定する。 ● EXE キーで実行指定をする。 → P.73
放送局が受信できない。	●アンテナを接続していない。 ●放送バンドが合っていない。 ●受信したい放送局の周波数に合っていない。	●アンテナを接続する。 → P.6 ●放送バンドを合わせる。 → P.30 ●受信したい放送局の周波数に合わせる。

症　　状	原　　因	処　　置
雑音が入る。	●自動車のイグニッションノイズ。 ●電気器具の影響によるもの。 ●テレビが近くにある。	●外部アンテナを道路から離して設置する。 ●電気器具の電源を切ってみる。 ●テレビから離す。
プリセットしたあと、数字キーを押しても受信できない。	●プリセットした放送局が、受信できない周波数である。 ●長い間、電源コンセントを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。	●受信できる周波数の放送局をプリセットする。 ●もう一度プリセットする。 → P.32

カセットデッキ部

症　　状	原　　因	処　　置
再生キーを押しても音が出ない。操作キーを押しても作動しない。	●コードの接続が間違っている。 ●ヘッドが汚れている。 ●巻き取りムラがありテープが重くなっている。 ●未録音テープを再生している。	●"接続のしかた"に従い正しく接続する。 ●"ヘッドのお手入れ"をみて、ヘッドを清掃する。 → P.77 ●テープを交換してみる。 ●録音済テープを使う。
操作キーを押しても作動しない。	●カセットホルダーが完全に閉まっていない。 ●カセットホルダーを閉めて、すぐ操作キーを押している。 ●電源を入れてから、3秒以内に操作キーを押している。 ●テープが入っていない。 ●巻き取りムラがありテープが重くなっている。 ●テープがどちらかに巻きとられている。	●ホルダーを完全に閉める。 ●ホルダーを閉めてから何秒か待って操作キーを押す。 ●3秒以上たってから操作キーを押す。 ●テープを入れる ●テープを交換してみる。 ●デッキの走行方向をかえる。またはテープを裏返す。
DPSSが誤動作する。	●曲と曲の間が短いなどDPSSに不適当なテープを使用している。	●"DPSSについて"をお読みください。 → P.28
CCRSが作動しない。	●Bデッキに録音できるテープが入っていない。 ●CDプレーヤーにディスクが入っていない。 ●ディスクが汚れている。	●Bデッキに録音できるテープを入れ、操作をやり直す。 ●CDプレーヤーにディスクを入れ、操作をやり直す。 ●ディスクを清掃したあと、CDプレーヤーに入れ、操作をやり直す。 → P.78
AデッキとBデッキで、ダビングの終わる時間が違う。	●テープの長さやカセットデッキのメカニズムの特性によるもの。	●多少の時間差は故障ではありません。
イジェクトキーを押してもホルダーが開かない。	●録音中、または再生中に押している。 ●外部からの雑音によりマイコンが誤動作した。	●停止状態で押す。 ●いったん電源コードを抜いてから、差し込み直す。
音がかすれたり高音が出なくなる。	●ヘッドが汚れている。 ●テープがのびたり、ワカメ状になっている。	●"ヘッドのお手入れ"をみて、ヘッドを清掃する。 → P.77 ●テープを交換する。
音がひずむ。	●録音時、録音レベルを上げすぎている。 ●ひずんだ音で録音されたテープを再生している。	●"録音のしかた"をお読みください。 → P.36 ●テープを交換する。
雑音が大きい。	●ヘッドが磁気を帯びている。 ●外部の雑音を誘導している。 ●ドルビーNRをONで録音したテープを、OFFで再生している。	●"ヘッドのお手入れ"をみて、消磁する。 ●電気器具、テレビなどから離す。 ●DOLBY NRをBかCにする。 → P.26
録音された音量が途中で変わっていた。	●録音中に、MIC MIXINGつまみを動かした。	●録音するときは、つまみを左いっぱいに回しておきます。 → P.36

症　　状	原　　因	処　　置
音がふるえる。	●キャプスタン、ピンチローラーが汚れている。 ●テープに巻き取りムラがある。	●"ヘッドのお手入れ"をみて、ヘッドを清掃する。→P.77 ●テープの端から端まで通して早送り、巻き戻し、または再生をして巻き直す。
録音キーを押しても録音できない。	●カセットテープのツメが折れている。 ●カセットホルダーが完全に閉まっていない。 ●アンプの入力切換がTAPEになっている。 ●テープがどちらかに巻き取られている。	●ツメの折れていないテープを使う、または穴をふさぐ。 ●ホルダーを完全に閉める。 ●INPUT SELECTERつまみで録音したいソースを選ぶ。→P.36 ●Bデッキの走行方向をかえる、またはテープを裏返す。

CDプレーヤー部

症　　状	原　　因	処　　置
ディスクを入れても再生できない。	●ディスクが裏返しに入っている。 ●ディスクがずれている。 ●ディスクが汚れている。 ●ディスクに傷がついている。 ●光学レンズに露がついている。	●ラベル面を上にして、正しく入れる。 ●ディスクを正しく入れ直す。 ●"ディスク取扱上のご注意"を参照し、ディスクを清掃する。→P.78 ●ディスクを取り換える。 ●"露付きにご注意"を参照し、露を蒸発させる。→P.77
音が出ない。	●ディスクが入っていない。 ●再生状態になっていない。 ●ディスクが汚れている。 ●ディスクに傷がついている。 ●接続コードがしっかり差込まれていない。	●ディスクを入れる。 ●▶/IIキーを押す。 ●"ディスク取扱上のご注意"を参照し、ディスクを清掃する。→P.78 ●ディスクを取り換える。 ●しっかりと接続する。
音とびがする。	●ディスクが汚れている。 ●ディスクに傷がついている。 ●本機に振動が加わっている。	●"ディスク取扱上のご注意"を参照し、ディスクを清掃する。→P.78 ●ディスクを取り換える。 ●振動のない場所に設置する。

ご注意

1. 本システムはマイコンを使用していますので、外部からの雑音や、妨害ノイズにより、正常に動作しないことがあります。そのような場合、電源コードを一度抜いてからあらためてご使用ください。
2. 接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。
3. テープの種類によっては、自動的にテープが止まったときに"キュー"という音がすることがあります。これはテープ保護機構が働くためで、故障ではありません。
4. 110/120分テープは、テープ厚がうすくてワカメ状になりやすいため、ご使用にならないでください。

1. 保証書－この商品の保証書は別途添付しております。
   必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
2. 保証期間－お買い上げの日より1年間です。
   正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には、保証書の記載内容によりお買い上げの販売店またはケンウッドの営業所が無料修理いたします。
3. 保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店またはケンウッドの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料修理いたします。
4. 補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後8年間です。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
5. アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドの営業所に、ご遠慮なくご相談ください。

サービス依頼について

本機の修理を依頼されるときは、本体のままお渡しにならないで、必ず何かに包装しておわたしください。本体のまま修理にだされますと、途中の事故等で外観に傷がつくおそれがありますのでご注意ください。

※包装材はアフターサービスや引越しの際大切な機器を保護するためにご利用ください。

修理のため、お買い上げの販売店またはケンウッドの営業所に、セットをお持ちになるときは、お買い上げのセット全部をお持ちください。（スピーカーを除きます。）

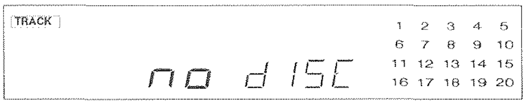
ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

輸送時または移動時のご注意（CDプレーヤー）

本機を輸送するときや、移動するときは、下記の操作を行ってください。

1. ディスクを入れないで電源をONにします。
2. 数秒間待って、ディスプレイ部が図の表示になったことを確かめてください。



3. 電源をOFFにします。

定格

アンプ（A-97）

出力
実用最大出力
フロント(EIAJ,6Ω)……100W+100W
オムニ(EIAJ,8Ω)……30W+30W
センター(EIAJ,8Ω)
(ドルビーモード時)……30W
リア(EIAJ,8Ω)……25W+25W
全高調波ひずみ率
(CD/LD, 1kHz, 40W, 6Ω)……0.02%
SN比(EIAJ)
PHONO(MM)……73dB
CD/LD, TUNER, AV AUX, VIDEO, TAPE……97dB
入力感度/インピーダンス
PHONO(MM)……2.5mV/47kΩ
CD/LD, TUNER, AV AUX, VIDEO, TAPE……200mV/47kΩ
出力端子/インピーダンス
TAPE REC……200mV/33kΩ
オムニプリアウト……2V/600Ω

[電源・その他]
電源電圧・電源周波数……AC100V 50Hz/60Hz
定格消費電力(電気用品取締法に基づく表示)……175W
チューナー・カセット・CDプレーヤー接続時……210W
ACアウトレット……1(連動最大200W)
外形寸法……幅360mm
高さ129mm
奥行378mm
重量……正味 11.3kg

チューナー（T-97）

[FMチューナー部]
受信周波数範囲……76MHz~90MHz
アンテナインピーダンス……75Ω不平衡
実用感度(モノラル)……12.8dBf(1.2μV,75Ω)
高調波ひずみ率 モノ……0.4% (1kHz)
ステレオ……0.5% (1kHz)
SN比 モノ……78dB (65dBf)
ステレオ……70dB (65dBf)
ステレオセパレーション……40dB (1kHz)
周波数特性……30Hz~15kHz, +0.5dB, −1.5dB

[AMチューナー部]
受信周波数範囲……531kHz~1602kHz
実用感度……12μV (500μV/m)
SN比 モノ……47dB
ステレオ……36dB
ステレオセパレーション……30dB (1kHz)

[電源・その他]
外形寸法……幅360mm
高さ 89mm
奥行369mm
重量……正味 2.6kg

グラフィックイコライザー（GE-970）

コントロール周波数……40Hz, 63Hz, 98Hz, 160Hz,
250Hz, 400Hz, 625Hz,
1kHz, 1.5kHz, 2.5kHz,
3.9kHz, 6.3kHz, 10kHz, 16kHz
可変範囲……±12dB
ひずみ率 (1kHz)……0.006%
SN比 (IHF'66)……100dB
利得……±0dB
入力インピーダンス……47kΩ
出力インピーダンス……2.2kΩ

[電源・その他]
電源電圧・電源周波数……AC100V 50Hz/60Hz
定格消費電力(電気用品取締法に基づく表示)……26W
ACアウトレット……2(非連動最大合計100W)
外形寸法……幅360mm
高さ120mm
奥行357mm
重量……正味 4.2kg

カセットデッキ（X-87）

トラック方式……………4トラック2チャンネルステレオ
録音方式……………………交流バイアス（周波数：105kHz）
ヘッド
　Aデッキ用　再生用……………………………………… 1
　Bデッキ用　録音/再生用 ……………………………… 1
　　　　　　　消去用……………………………………… 1
モーター
　Aデッキ用 ……………………………………………… 1
　Bデッキ用 ……………………………………………… 1
早巻き時間 ……………………………………約110秒（C-60）
周波数特性（Bデッキ）
　ノーマルテープ……………………30Hz~18,000Hz ± 3dB
　クロムテープ………………………30Hz~19,000Hz ± 3dB
　メタルテープ………………………30Hz~20,000Hz ± 3dB
SN比
　EIAJ……………………………………………………55dB
　DOLBY NR OFF ……………………………………58dB
　DOLBY B NR ON ……………………………………67dB
　DOLBY C NR ON ……………………………………75dB
ワウ・フラッター…………………………… 0.08% (WRMS)

［電源・その他］
外形寸法 ………………………………………………幅 360mm
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　高さ 119mm
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　奥行 355mm
重量 ……………………………………………正味　3.8kg

コンパクトディスクプレーヤー（DP-97）

形式 ……コンパクトディスクデジタルオーディオシステム
読み取り方式…… 非接触光学式読み取り（半導体レーザー）
回転数（定速時）…………………………200rpm~500rpm (CLV)
［オーディオ性能(EIAJ)］
周波数特性 ………………………… 8Hz~20kHz ± 1dB (EIAJ)
SN比……………………………………………94dB以上 (EIAJ)
全高調波ひずみ率…………………………0.005% 以下 (1kHz)
チャンネルセパレーション …………………85dB以上 (1kHz)
ワウ・フラッター…………………………………測定限界以下
オプチカル出力（波長660nm）………… − 15dBm~ − 21dBm

［電源・その他］
外形寸法 ………………………………………………幅 360mm
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　高さ　89mm
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　奥行 353mm
重量 ……………………………………………正味　2.9kg

スピーカー（S-10M）

エンクロージャー………………………………………バスレフ型
スピーカー構成………………………… 3ウェイ 防磁型 (EIAJ)
　ウーファー……………… 250mmポリプロピレンコーン型
　スコーカー……………… 100mmポリプロピレンコーン型
　ツイーター…………………………………25mmドーム型
インピーダンス …………………………………………6 Ω
最大入力 ………………………………………………110W
出力音圧レベル……………………………………88dB/W
周波数特性 …………………………………35Hz~20,000Hz
外形寸法 ……………………………………………幅 295mm
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　高さ 542mm
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　奥行 348mm
重量 ……………………………………………正味12.5kg/1本

※「防磁型(EIAJ)」とは、（社）日本電子機械工業会(EIAJ)の技術基準に適合したスピーカーシステムです。

これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。

アフターサービスのお問い合せは、
購入店または、最寄りの当社サービスセンター
営業所をご利用ください。
商品に関するその他のお問い合せは、
お客様相談室をご利用ください。
電話（03）3486-5515

KENWOOD
株式会社 ケンウッド
東京都渋谷区渋谷1-2-5（アライブ美竹）〒150
電話（03）3486-5511